

がんば

100号記念特集号



島原市立第三小学校育友会



「がんばらば一〇〇号」

育友会長 松尾正敏

私達三小の伝統ある育友会広報紙「がんばらば」の発行が、今回で一〇〇号をむかえることになりました。歴代育友会員や広報部員の人達の努力と、この三小地域特有の連帯感が今日、他に評価されるような特色ある「がんばらば」の紙面づくりの底流をなしていると思います。

創刊当初、発行にたずさわった人々が、日夜走り回ったり、何度となく議論を戦わせている情景を想像致しますと、「がんばらば」作りにかけるむんむんとする熱気が伝って来る様な気がします。この情熱は、その後途絶えることなく順次後輩に引き継がれて現在に至っております。

言うまでもなく、広報紙を作るには、毎回大変な労力と時間を要します。スタッフは何回も会合を重ね、ネタをさがし求め、必要な原稿を集めて編集をしなければなりません。原稿を依頼しても、中には期限を守ってくれない人もあります。発行日を気にしながらも、ていねいな紙面を作ろうとしている広報部員を見る度に、私はいつも頭の下る思いを致しております。

今回の記念特集号の発行に際しては、前田広報部長から折角ならば充実した内容にしたいとの強い要望もあり、それに伴う資金調達の検討をしなければなりませんでした。

現在、三小の育友会事業は他校よりも低い会費で、ギリギリの運営をしております。潤沢でない育友会予算でこの資金を賄うことは到底無理なことであります。そこで、広告スポンサーを募ってはと、常任委員会に提案を致しましたが、案に相違し、自分達の広報紙は自分達の金で作ろう。皆で力を合せて作ろうじゃないかということになり、満場一致でバザーを開いて資金を作ることになりました。

改めて三小育友会の力強い連帯意識を感じた次第です。

これを機に、次なる二〇〇号という目標に向かって進むより充実した、よりすばらしい「がんばらば」であってほしいと心から念じて居ります。



いとうとむき

学 校 長 伊 藤 富 幸

育友会報「がんば百号記念特集号」発行を心からお喜び申し上げます。

平成元年の記念すべき年に百号を迎え、広報部の皆さんが記念特集号発行の企画、編集に当たられ、育友会の皆さんの協力の下に立派に発行に至りましたこととはご同慶にたえません。

さて、三小育友会報「がんば」は、昭和三十七年七月二十日「三小育友会報」として呱呱の声をあげました。皆さんの強い要望と期待の中で生まれた会報で、わずか更紙一枚の印刷物ですが百号への年輪の起点としての重みと風格を感じます。当時の育友会長藤田実さんは誕生の喜びを あたらしく誕生したる会報の 真実をこそあゆみてゆかむ という短歌に託しておられます。また、編集に当たられた文化部の人たちは、編集後記に「いままで多くの人から要望されお祈りながら、いろいろな事情でできなかった育友会報を発行することになりました。文化部が中心になって各部の方々と先生方の御協力を得て、立ち消えにならないよう努力したいと思っております。(中略)編集のねらいは、読みやすく、分かりやすくということにおきました(後略)と述べておられ、会報発行へのなみなみならぬ熱意を感じます。

それから実に二十七年間、百号を数えるまで営々として会員の共通理解を深めること、育友会の活動状況や学校の近況等の広報活動に育友会広報紙としての役割を果たしてきました。百号の軌跡はまさに育友会の歴史であり、また、児童の考えや三小の教育を伺い知ることのできる貴重な資料であります。

願わくば「がんば」が、百号を契機として、会員相互の共通理解、相互学習に大きな力と役割を果たし、島三小育友会の顔としてさらに充実発展し続け、心身共に豊かで健やかな子供の成長を願う親と教師の心と心を結びつけるよう祈念いたします。

願わくば「がんば」が、百号を契機として、会員相互の共通理解、相互学習に大きな力と役割を果たし、島三小育友会の顔としてさらに充実発展し続け、心身共に豊かで健やかな子供の成長を願う親と教師の心と心を結びつけるよう祈念いたします。

島三小 育友会報

発行・育友会
編集・文化部
印刷 栄堂
文栄堂印刷部

会報発刊によせて

育友会長 藤田 実

文化部を中心とする方のほねおりで、こんど会報が誕生したことをうれしく思います。会員の皆さんが、日頃考えていらつしやることをこの紙上の広場で話し合い考え合つて、「教育」を高め深めることは有意義であると思ひます。

あたらしく誕生したる会報の、
真実をこそあゆみてゆかむ

進んでやまない教育の流れ、のび

読者の皆さんへ
この特集号は、島原市立第三小学校の環境の変化や、育友会活動、学校行事、子供の実態、またそれらにかかわりのある人物の言葉を昭和三十七年の第一回育友会々報から昭和六十三年の「がんば」九十九号までの写真や文章に基づき、原文のまま、あるいは抜粋により構成したものです。
(広報部) 御了承下さい。



かえりみて

「育友会報」が、百号を迎えるそうで、歴代の広報部長さんや関係の方々ご苦労さまでございました。

些細な私事を書きますことをお許し下さい。

かつて育友会に一度も出席したことのない私が、育友会長にさせられるなど、全く以つて異例でございます。

升金の故松尾滋吉さんに相談しましたら、「そうかねエお引受けして社会勉強をしてみんかねエ」とのこと、心が決まりました。

菅藤恒保校長、松本巖校長の両先生におのの一年間お世話になりました。

会長をお引受けした日から禁酒をいたしました。会長職は予想以上に用事があり、商売の会議とは全然違いますのでとまどいました。

手初めは、音楽教育の向上のための、オルガン五台と、その他の機器の寄付調達でし

たが、うまく出来ました。

第五小学校の火事の折は、菅藤校長のお供をして駆けつけ、校長先生と大町一郎左衛門さんを激励しました。故

校庭の大水溜りの折は、故古瀬進さん(ミッキー社長)が、当時の松尾徳義市長さんに現場を見てもらった後、十日位?かで排水測溝工事が完了したことなどが、強く印象に残っております。

私のような者が、なんとか二ヶ年間を勤め終えましたことは、当時ご在職中の、上田進先生を初め、各先生方の応援の賜物でございます。尚加えて育友会の役員の方々の暖かいご援助のお蔭でございます。

辞任の夜は、晴れて禁酒の自戒を解いて、先生方と某所で痛飲いたしました。

「育友会報」が、永続して発刊されますことを、ご期待する者でございます。

昭和二十七年年度の 終りに際して

菅 藤 恒 保

当校に擔任して早や三年、初
年目は老朽校舍改装に伴う校地
の整理と、天皇奉迎準備に明け
暮れ、新任の一年をゆっくり観
察する暇もないような日々でし
た。

二年目に入って陛下をお迎え
し、引き続き理科の研究発表
会を終わり、重責をおろして安
堵しているうちに過ぎ去ってし
まったような感じ。

二年目は新学期早々皇民体育
祭、島原大会の諸準備に発足し、
器楽コンクール、島原大会の準備
その他外部の諸行事に追いつか
れ、何か心忙しい一年であつ
た。三年目は落つついて学校内
部の諸経営に打ち込まつたとい
ふ事も果たされなままに送る一
沫の寂しさが残っているようであ
る。

この間私の最も力強く思つて
いることは、三小の広域とい
ましようか、年間の学校運営の



諸行事が、PTAも含めて新年
度早々に企画準備され、その計
画によって着々推進されること
である、私が初年度赴任して何
も手につかず呆然としていた時
各種部会が持たれ、それが総合
されて年間計画ができてあがつて
行った感懐は、今なお私の脳裏
に深い印象として残っている。
愈々第四年度の新年度を迎え
るにあたり、いつものことなが
ら、来年度こそはの感一人であ
る。地域の事情も、学校の中も
子どももよすも概略はつかの
たつもりである。具体的な項目
は後日にゆずるとして、概括的
に申せば、眠玉の耀いたかとい
い、きびきびした動作をする元
氣発利な仲よしの子どもたちが
育つ直剣な学校生活の場を造り
上げたいと願うものである。

思い出



昭和三五年四月、御勇退さ
れた宮崎帆足大先輩の後任と
して着任。当時三小は戦後物
資不如意の頃、全校一丸とな
つて教具の工夫自作、教育の
実績を挙げられ第一回目のソ
ニ賞を受けられた有名校だ
つた。

着任間もなく、来年四月、
陛下、当地御巡幸の砌、第三
小学校が当地方奉迎の場所に
定つたことの通知を受けた。
授業の御参観も予定されてい
るとのこと。先輩各位の長年
に亘る御努力による教育実績
への御褒美と思へた。

この機会に校舎内外の整備
をし、すつきりした教育環境
へのよい機会であると考えた。
運動場体育用具の配置替、植
樹、自作教具の整備等夏休み
も返上して職員一同分担整備
に取り組んだ思い出がなつか

しく浮ぶ。
御奉迎も無事済ませ、一息
ついて一年、三小勤務三年に
して五島教育事務所へ転勤、
三年後長崎上陸、本庁並伊良
島小を経て退職、思い出深い
島原に在住隠居。なつかしの
三小の御発展をお祈りして筆
をおく。

三十八年 編集後記文

果たして、一年間流くだろう
かと、危惧の気持で見守られて
いた私たちの会報も、やっと第
三号を皆様方にお届けできま
す。このたびは、この一年間の反
省や会の運営その他について、
できるだけ「なまの声」を集録
することに努めました。その間
の皆様方の協力と声援を感謝い
たします。

会報そのものについては、い
ろいろ問題もあろうと思いま
すし、(本号の部会反省にも出てお
ります)が、(会員の皆様方も、
ふたにおおえ)になっておいで
のむきもあろうと思ひます。
唯々今年からは始めて、私たちの
手で集報、編集の経刊までや

つた事にせめてもの意義を見出
したいものだと思ひます。
会報名については、毎号皆様
方におねがいし、二、三出てお
りましたが、本年度もつげがで
きませんでした。新年度こそ私
たちの会報にふさわしい、立派
な名まえをつけて下さい、会長
賞が泣いています。

☆一見力り刷りで倉弱そうに見
えるパンフレット、
その名は三小育友会報、
一旦、文字に目を落すと、
私たちの成長の課程がうか
がえる。

よく読み、よく言ひよう。
やっと今、よちよち歩きた
私たちは胸をはり「ほこり」
をもつて、育友会のシン
ボルにふさわしいものに育
てよう、申はせよう。
みんなの手で、
年間の皆さん方から寄せられ
ました(協力に感謝いたします

印刷
東 村 進

この一年間続いた会報が、
三年後には「がんば」と名付
けられ、諸先輩達の手で受け
継がれ伝統を築き今日の百号
発刊にまで至る。

「二の間の最も力強く思っていることは、三小の伝統をいまして、年間の学校運営の



「がんばの卵」

谷 光 風

三小育友会の会報が「がんば」になったのは山本萬五郎さんが会長になった頃だったように記憶していますが、

た。今もそうかもしれませんが、原稿が集まらないのは困りました。

いま考えると、PとTとの話合いが一番よく行なわれた頃だったように思えますし、天皇陛下がご巡視にこられるし、理科教育で表彰されたり、毎月のように寄付金集めにまわったり、その他もろもろでとにかく忙がしかったもんです。三小は歴史が古く、父母の会の歴史も古いので昔からいろいろと組織的な活動があったのですが、何しろ敗戦ご破算で、P・T・Aなどという外国名の組織作りをやったわけですから、先生も父母も暗中模索の試行錯誤で、会報も中断に近い状況だったようです。そこで皆さんと話合っ

て班別の専門部を作り「会報班」というのができまして、私がその係りをさせられました。いろいろと考えまして、研修旅行も参加者を目的別のグループに分け、各グループにレポートを出させたり、運動会でも何でも行事があれば各係員には必ず意見や感想の報告文を出させたりして、ずいぶん皆さんから嫌われました。文章を書くのは皆の前で歌うのより嫌だから参加しないなどといわれまして、何か悪いことをしているような気分になったりしたもんです。

そのまた原稿の編集がコックイで、会報班の先生やお父さんに集ってもらって夜やるのですが、皆さん仕事で疲れている上のことなどで元気づけにチビチビやりながら編集しようというわけですが、チビチビの方が次第に忙がしくな

運動場体育用具の配置替、植樹、自作教具の整備等夏休みも返上して職員一同分担整備に取り組んだ思い出がなつか

「やあ、久しぶり」「元気でしたか」小雪のちらつく二月二日の夜、白山公民館に育友会報の創設メンバー、上田進先生、谷況先生、下田文俊先生、山本萬五郎さんに思い出話の取材協力という事で集まって頂きました。山本さんによると会報を手がけた夜も今日と全く同じ諫早の会議の帰りの夜だったというのですから、場所こそ違えまさに四者の出会が二十七年ぶりに再現した訳です。お酒は少々用意していたのですが、録音カセットを準備していなかったのが飛び出します。宿直室でよく飲み語り明かした事、先生や仲間のハブニングなどなど、とても詳しくは書けません。



報作りに取り組まれた姿は、勤皇の志士達にも似たような情熱を感じた一夜でした。いつまでもお元気で。

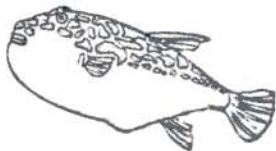
(広報部 前田)

よもやま話

資料を懐かしく見ながら話しはさらに弾みます。スポーツ実況のアナウンサーのような歯切れのいい声で「名將に弱卒なし」と故宮崎三校長を賛美される上田先生。淡々とした口調の谷先生。「昔は、あん火ばちが良かった。互いに手を暖めあう光景あいが良かった。じゃもん」と現在は一滴も飲まれないが相変わらず豪快で声の大きい下田先生。「人間は本を読む事が大切」と提唱される山本萬五郎先生。会

「よもやま話」

三年後には「かんば」と名付けられ、諸先輩達の手で受け継がれ伝統を築き今日の百号発刊にまで至る。



(元育友会副会長) 以上

記念すべき第一号の表紙



島三小
育友会報

が

ん

ば

・発行・
教養部会報班

旗池—現在の湊郵便局の裏附近

池の近くに細い川が流れていて、それが旗に見えるところからきたそうです。

「おとうさん」

五年五組 松 本 金 一

まっ黒いぶしようひげ。

まっ黒い顔。

いつもおきにくから日やけするんだな。

それにおとうさんは、

とてもひどい。

まゆげをたてにして、

おこる。

でもとてもやさしいよ。

さんすうの問題だっておしえてくれるし、

たべものだって、

「そけ ひわんあいけん たべろ。」と

いってくれる。

おとうさんは、

やさしいなあ。





旗

おとうさんは、
やさしいなあ。



がんばの書体



津町 京
小鉢

もう何年前になるだろうか、
良くもない頭をたたきながら
思い出すままに、書いてみま
した。

三小育友会の会報班に指名
され、そのメンバーに、頭の
切れの良さで評判の草野、谷
口両先生、それに悌一郎君や
田口さんというベテランの各
氏の顔を見て「これはうかつ
に出来んぞ」と思ったもので
した。

「会員の方々に親しまれる会
報の在り方、その為にはどん
な会報を」と皆が議論を交わ
し、三小の保育室を根城に夢
中になったものでした。
ノートと鉛筆を持って会員の
方達の意見を求めに走り廻っ
たりもしました。会員の方達
から募集した会報の名前の選
定にはいづれおとらぬ、立派
な名前ばかりで、決定に苦勞
しましたが「味のある会報」
という事で田口さんの「がんば
」と決定したのは、夜もおそ
く雨のひどい夜だったよう
です。「がんば」の題字の書

体を悌一郎君が色々考えて、
相撲の番付の字体にしたいと
の事で誰か書ける人はいない
だろうかという話が出て、私
が引受けて、丁度、福岡場所
が行われている時でしたので、
すぐに福岡に行き、知人の式
守伊三郎行司に頼んだ所、本
場中に拘ず、そんな事情なら
と書いて頂き、それが題字と
なり、校長室に保管してある
色紙を見るたびに懐かしい思
いです。全てが出来上った時は
夜の十二時を過ぎて、三小か
ら広馬場に出た時は、ひっそ
りして月がきれいな夜で、田
口さんの家に行き、カステラ
をこちそうになつたのもなつ
かしい思い出です。

最近、育友会の在り方につ
いて色々批評がありますが、
やはり誰かがやらなければな
らない事です。役に付いた
人達は大変な事です。第
三者から見れば所謂バカにな
ってでもやって行く人がなけ
れば出来ない事もあります。
これから会報「がんば」が
大いに腹をふくらまし、舌つ

づみをうてる味のある「がん
ば」に育っていくことを祈つ

て想い出を終わります。

(小鉢茶舗店主)



筆直の流亭勘事な見
毫揮の氏三郎伊守式

がんばの名付け親

田口 勝

今日の、会報「がんば」の前の会
報は島三小育友会報として九
号まで発刊された様に記憶し
ています。これでは余り寂し
いので会報名を付けたらどう
かと多くの方の意見で、当時
の育友会長藤田実さんの頃賞
品付きの募集がありました。が
まだ皆さんに徹底していなか
った関係か応募者がなく、其

の後本田巻男会長さんの時代
に本格的に募集され応募総数
二四八通 はまゆう・あけぼ
の・不知火・眉山・白山・汐
騒・がんば等、一番多く寄せ
られたのは①白山、②しらぬ
火、③まゆやまの順でした。

此の中より十二名の審査員に
て慎重に選定した結果「がん
ば」五票、「はまゆう」四票
「あけぼの」三票という大接
戦の末「がんば」に決定した
訳です。これも三度四度に渡
って無記名投票の結果、やっ
としまつた訳です。

次は題字の事に行当りどの

様な字体が良いか、ああでも
ないこれでも駄目と、そこは
名編集長の山本悌一郎さんの
事それなら勘亭流が良い、ど
つしりして風格があるとの事
それなら今大相撲が福岡でや
っているから知人に書いて貰
らつて来ると、いとも簡単に
引受けられたのが小鉢京さん
でした。私等もびつくり、余
り心安く引受けられたのでし
うなるものかと仲ば心配でし
たが、二・三日後出来たぞと
持参されたのが見事な相撲字
体の勘亭流、訳を聞くと立行
司の式守伊三郎さんと親友と
の事、ほんとうに驚きました。
この書体を会報「がんば」三
号から使わせてもらっている
わけです。この字体も「がん
ば」と共に、永久に残しても
らい度いものです。

編集に当っては、当時の予
算も少なく、八千円か一万円
足らずだったと思います。そ
の關係で紙質も悪く、節約上
多くを掲載されず、山本悌一
郎名編集長も大分困つておら
れたようです。

でも編集に当っては、和氣
あいあい山本部長のリードの
もとに、よくもまあ気心の知
れた者ばかり集まつたもので
す。夜おそくまで頑張つたもの



上田金作さん

二十七才で渡米され、母校三小にその頃の金で一五〇ドル送金された。その金で二宮金次郎の像を建立（昭和十一年）

上田金作さん。

私は今、机の上にニューヨーク・シテイの地図をひろげて置き、あなたへの手紙を書いています。

あなたが住んでおられるレキシントン・アウエニューは、マンハッタン島、それもいわゆるマンハッタン区とよばれる市の中心部なので、私にもすぐ地図の上で拾えました。

そう、私はまだ上田金作さんにお会いしたことはありません。よく知っています。いや、私にとつて、上田さんは、忘れられない人なのです。何故かそれは、私が、三小出身だからなのです。あなたは、私を御存知ない。でも、私……いや、

私たち三小出身者は皆あなたを知っています。

三小の校長室に入ると、松本校長先生の机の背にあたる白壁に、歴代校長先生の写真が並べてかけられています。そのお写真と並んで、左端に飾られた唯一枚のカラー写真、それが上田さん、あなたのお写真なのです。校長室に入つて、まず目に入るのが、三小の後輩にやさしいほほえみを投げかけているあなたのお写真だからです。

上田さんがアメリカに渡られたのが今から四十六年前の

母校愛 太平洋を越えて

上田金作さんへの手紙

ことだと聞きましたから、上田さんもまだ27才の青年だったことになりませぬ。大正九年といえ、私はまだ生をうけていない時代です。当時から今日まで、太平洋戦争という忘れられぬ苦難の時代を境として、アメリカでのおくらしは私たちには想像もつかない、さまざまなおおりのことになりました。そうした中で、あなたはいつも母校である三小のことをお忘れ

にならず、遠く太平洋をこえて、母校愛あふれる数々のブレゼントを送って下さいました。あなたの愛の贈りものは、昭和十年以来つづいているのですから、当時あなたのこと、を先生の話を聞いて育った生徒も、もう四十才平均になる訳です。

現在も三小の校庭にたつて、生徒らに無言の教育をされている二宮金次郎の銅像は、親が折にふれて子供たちに話す上田さんの話と重なりあつて、三小のシンボルの一つとして、永く記念されることでしょう。

あなたからの愛の贈りものは、今日まで絶えずつづき、それによつて購入されたよい子たちの器や、それによつて建てられた記念碑を囲んで、どりあがつて喜んで子供たちの声は、その折々の校長先生のおたよりに托されて空を飛び、海を渡り、上田さんの目にも、耳に入ったと思ひます。そして、今年の一二月二十七日、あなたから松本校長先生にあって送られた小さな包みの中

に入っていたもの。そうです、渡米されて以来、四十六年間、肌身離さずあなたが愛用されたという『チヨボクレ』の贈りものは、島原新聞に大きく報道されて、三小地区住民のみならず、全市民に大きな反響をよびました。

それは、早朝のノックにも似た、さわやかさを伴つて、私たちを感動させました。この贈りものは、三小にとつて、何ものよりすばらしい贈りものとなりました。私たちは、松本校長先生の、『チヨボクレ』に寄せられた談話を読み、

上田さんの記事で二面のほどを埋めつくした郷土新聞の活字の包みをかいで、今まで忘れていた何かをとり戻すことができました。上田さん、あなたは、おたよりの中で、『私は妻もなく、子もなく、今更日本に帰つても住む家もなく、両親兄弟があるわけでもないの、帰る気はありませぬ』と書いていらつしやる上田さん、私は、みんなに代わつてあなたに申し上げたい

のです。あなたは独りぼっちじゃない！昔から『第三のガツパ（河童）』とよばれた、元気で、腕白で、おてんばで、おりこうな千数百の三小のよい子たちが、あなたにはいるのですよ。あなたのことを耳の底に記憶している三小地区の育友会員が、上田さん、あなたにはいるのです。歳月を経ても、赤ん坊の瞳のように澄んで美しい島原の山や海があなたの故郷なら、新学期を目前にして、つぼみをふくらしかけた、桜に包まれた三小こそ、上田さん、あなたの家であることを知つて欲しいのです。

ニューヨークの天候は変わりやすいと聞いていますが、三月など、驚くほど温和な日和が続くそうですね。今は、『ローレンス・ピーチ・クラブ』でお働きのことと思いますが、どうか御健康にくれぐれも気をつけられて、お元気で暮らして下さい、お祈りしています。

上田さんに、三小出身の一人として、心からの感謝をささげつつ筆をおきます。どうか、お元気で。

(てい一郎・山本)

よく知っています。いや私にとつて、上田さんは、忘れられない人なのです。何故かそれは、私が、三小出身だからなのです。あなたは、私を御存知ない。でも、私、いや



一人息子
であった。
体は、小さ
かった。シ
ンがつよく

それでいて表面おとなしい子供であった。

大正15年、三小入学。曲ったことが大きらいで、友達の間がでなかつた。彼らがなぐられて泣きだした相手は、きまつて兄貴に助けを求めた。友達の見方はとんで来て、彼をなぐつた。彼は泣いた。痛くて泣いたのはなかつた。一人息子の彼は、友達の間から制裁をうけるのが耐らなく口惜しかったのだ。少年は、青空を仰いで心に誓った。今にみている！必ず陸軍大將になつて悪者をやつつけてやるバイ！

小さな小さな物語 『上田進先生』

として、アメリカでのおくらしは私たちには想像もつかない、さまざまなこととおありになったことでしょう。そうした中で、あなたはいつも母校である三小のことをお忘れ

がぬけはじめ、やがて哀れにも前頭部が禿げあがつてしまったことだ。悲観した彼は、この異変を台湾の酷暑の地から、北千島、シベリヤと厳寒のはてまで引き回されたためだと思つた。線路工夫、キコリ、炭鉱夫、製材工、大工、仲仕、道路工夫と、抑留中にとめた職場は数えきれない。復員した彼は、一人の女性を見た。愛した。決心した。36日に亘る、ひそやかに燃ゆるが如きロマンスののち、二人は結婚した。時に上田進30才、妻キミ子22才。昭和25年三小奉職。低学年担当を経て、37年より特殊学級を受けもつた。彼の精進はつづいた。眠らぬ日がつづいた。

『上田学級の子供達が知恵をおくれたと考えている人々の差別感をなくしたい。人権、人間としての価値を考えねばならぬ。私は、この子供達が自分の力で一人前にメシがくえるようにしてやりたい。そのため、私のいのちを燃やすのです』

苦学の日が続いた。少年の成長と共に、日本は戦争に突入した。要塞重砲兵として応召をうけた。台湾から北千島へ！終戦となつて、シベリヤへ抑留された。陸軍大將への彼の夢は、陸軍軍曹で終止符をうった。この頃、彼の頭部に一大異変が起つた。鳥の濡れ羽色と自慢だつた彼の髪

おたよりに托されて空を飛び海を渡り、上田さんの目にふれ、耳に入つたと思います。そして、今年の一月二十七日、あなたから松本校長先生にあてて送られた小さな包みの中

とを考えて落ち着かない。浜木綿丸と命名した彼のオンボロ釣りの船は、日曜の朝、彼を乗せて有明の海にゆれている。釣りの一刻が、人間上田進の一番たのしい時なのだ。日没の海に彼の船はもういない。魚を前に、彼は一合の晩酌を楽しむのだ。翌朝新しい空気を吸つて、彼は三小へ自転車ペダルを踏む。上田学級の子供達が待っている教室へ！
(山・悌)

城山小学校の 特殊教育を 参観して

昭和39年

江崎達子

城山小学校は、ちょうど三小のように高台にあり、三小よりも急な階段を登つて玄関を通り校舎にはいると、同じ鉄筋コンクリートでも、床が板張りのせいか、清潔な暖かい感じで、校舍全体が校に比べて、あまり年代は変わらないようですが、規模が少しは大きいように思われました。特殊教育について、校長先生や担任の先生方よりいろいろとお話があり、やはり先進校だけに、重症、軽症の二組に分けてあり、適切な理想的

今更日本に帰つても住む家もなく、両親兄弟があるわけでもないで、帰る気はありません』と書いていらつしやる。上田さん、私は、みんなに代わつてあなたに申し上げたい

な指導が行なわれていようでした。

お話、質問が終わり、教室へ案内されて、その授業の場を見学し、やはり、『軽症の組と重症の組に大分のひらきを感ぜられ、こうでなければ本当の意味での指導は行なわれにくいのではないか。島原でも漸次このような方向にむけて行くべきだと強く感じました』

地球の宝物

上田進



五小、二小、三小の三校区の該当児を三小で特殊学級として三十七年一学級開設。担任要請があり諾否保留一週間の間職員図書に精神薄弱児の古い文献全部読了。家族と話し納得させ担任を決定。教育長その校長へ一年間担任に自由な教育を任せること条件を提示して快諾。何をどう指導すればよいのか指導者も

指導要領もないゼロからのスタート。

子供を知ること子供と一緒に遊ぶことだと遊びに徹する。その中で毎日綿密な一人の記録をとり子供の発達条件を手さぐりで探究。子供はよくなつきよく遊んでくれ何でも話してくれ純真そのもの。言葉、挨拶、食事、排泄記号、安全等の学習も軌道にのる。入浴指導は自宅の前の銭湯に、昼すぎ空いてる時間をお願いして子供を連れていく。在宅の妻を臨時指導者。女湯に女の子の入浴指導と記録を依頼。「子供が学校に喜んで行くようになった。子供が変わつて生き生きしてきた」という親の喜び・驚きに支えられ励まされ夢中とどろくむ。でも地域の偏見が強く「上田学級は馬鹿学級」という市中の声。学校の教職員すら潜在的に疎外差別、好奇心の渦中にあつてこれに笑つて耐えた毎日。三年後県立に移り約二十年間障害児教育とどろくむ。二十六年前の上田学級のあの時の女の子も、今母親となりユニードで子供に節句の玩具を買い与えているほへえましい親子の姿をこの間見た。嬉しかった。妻もほへえんだ。人間―それはすばらしい地球の宝物。

(てい一郎・山本)



タッチ・イクオール・ラブ

学校長 松本 厳

これは私が製造したことばであるので、無理のあることばかもしれない。けれども、私は私なりに、教育的に、人生的に意義のあることばだと信じている。タッチとは触れること、さわること。イクオールとは算数でいう \parallel で等しいということ、ラブとは愛情、愛することである。だから、タッチ・イクオール・ラブとは、親しく具体的に触れあうことから愛情がわいてくるという意味を公式的に表現してみたのである。

七、八年も前のことだったが、大阪方面から学校にネクタイを売りに来たことがあった。その男は、職員室の机の上一本一本あてていねいに柄がよく見渡されるようになってきたのである。やがて休み時間になって先生方がやって来て、ネクタイの柄に見入っていたが誰一人買う者がいな

い。側にいた私は何だか気の毒で、せめて一本でも売れないかなあと思った。次の始業のベルが鳴って先生方は教室に出かけていく。男は次の休み時間まで待つらしい。そこで私が「並べているのをまぜくっておいたらどうですか」といったら、男は「こうですか」と笑いながらまぜくりはじめた。次の休み時間も先生方がネクタイの前にやって来たが、まぜてあるので、柄の全貌が見えるものは一本もない。よさそうな柄の一部が、ちらりちらり見えるだけである。妙なもので、そんな時は手に取ってみたくなるものがある。一人さわり、二人触れしているうちに十三本も売れつりとした感触が手に感じている間に愛情がわいてほしくなったのであろう。

その後も、学校には時折、物を売ってくるものがあるが握るか、触れるかする時は必ずといっていいほど不思議によく売れるのである。極めて簡単な短時間の風景であつたけれど、私は私の考えた仮説が誤りでなかったことと人生の真理をしみじみと感じたのであつた。「タッチ・イクオール・ラブ。タッチ \parallel ラブ」……私は私の心に言ひ聞か

せる。夫婦、親子、友人、隣人、師弟、雇傭関係等すべてに、この公式があてはまるような気がする。情は抽象的、観念的、心の底で思うだけでは相手に通じない。具体的でそして身近に触れあわなければ愛情はこまやかに湧かない。飴玉をやることも、握手、キッス、杯のやりとり、裾振りあうのもタッチである。頭をなでてやる、肩をたたいてやるのもタッチである。頭をなで、肩や背をたいて激励される時の、あの甘酔っぱいドロップスのような背の感触は何ともいえない快感と感激をおぼえる。直接体に触れなくとも、やさしい言葉をかけるのもタッチの一つである。タッチの方法や領域は非常に多い。いや、叱かることさえ時によつてはタッチである。後妻に来た奥さんが、先妻の子どもを腫れものにさわるようにして、悪いことをしようが、どうしようが叱かりもしないでは、いわゆるタッチしないので、その間柄は白々しいものになってしまう。生んだ子どものように愛情こめて叱かるのがタッチであり、互いに愛情がわいてくるものである。政治も、恋愛もタッチから、万引もタッチからである。握れば欲しくなる。買

コオロギ



松本 厳

(元三小校長)

職を退いて五年、気ままにささやかな暮しの私にコオロギが鳴きはじめました。コオロギはコロコロと鳴いているように聞こえます。そしてあのコロコロのことを思い出します。

昭和二十七年でしたか、二学期がはじまって恒例の「砂運び」がありました。砂場に入れる砂を全校児童が南風楼下の海岸から運んでくるわけです。ついでに故 林田先生がアサリ貝を掘ってきました。風が吹いては飲み雨が降っては飲みたい時代でしたから、アサリ貝をサカナにして一杯やろうということになって、十四、五名の勇士が宿直室、(今の女子更衣室)にたむろしました。火鉢の金網に貝をのせると間もなく焼けて開きます。うまいうまいと食うほどに、飲むほどに気分がポリユームが、ぐんぐん上つて、いつしか教育談義・人生談義が沸いてきました。もう、とつくにアサリ貝はありません。上田先生が、どこからか、どろまみれのシヨウガを持ってきました。むしろ、しょう油をつけて酒のサカナです。今井先生が、塩カラを買ってきました。手の甲が小皿がわりです。夜は、だんだんふけていきます。シヨウガも塩カラもなくりました。

その時です。一匹のコオロギがとんできました。私ごとらえて火鉢で焼いて「秋には秋のサカナあり」と酔句を唱えますと一同感激して、池田岩永・下田先生などでしたか私は頭 僕は羽根 おれは足と、食つてしまいました。そしてカラカラと秋の夜の高い笑い声がおこりました。もうサカナは何もありません。ところが、またサカナが見つかりました。誰でしたかね「ここにも秋のサカナあり」と畳のささくれを引きちぎつ

た。その男は、職員室の机の上一本一本あてていねいに柄がよく見渡されるようにならべたのである。やがて休み時間になって先生方がやって来て、ネクタイの柄に見入っていたが誰一人買う者がいな

てしよう油をつけて食べました。おれも、われもと畳をむしりました。

あの狭い宿直室ではあったが、どれだけの酒のこぼれを吸いこんでいることであろうか。

しかし、子どもたちのため、教育のため、イデオロギーをこえ私情をおさえて、たのしく飲み語りあい、時に野蛮なようなたあいもないしぐさの中に銀河のような白い清らかなものがただよい、たくましく大きな教育の原動力が生み出されたことは事実です。

ああ、なつかしい宿直室。あんな時がまたくるのだろうか。コオロギはコヨコヨと鳴いているようでもあり、いや今にきつとクルクルと鳴いているようにも聞えるのです。

あの時のコオロギの
めい福を祈りながら



簡単な短時間の風景であつたけれど、私は私の考えた飯説が誤りでなかったことと先生の真理をしみじみと感じたのであつた。「タッチ・イク・オール・ラブ。タッチ・ラブ」……私は私の心に言い聞か

チビッコ大将



村田 正 二

私は生まれつき小さかった。小学校の一、二年まではべつに気にもかけなかった。三年のとき、大きながき大将とけんかして、むしやぶりついた。いったが組み伏せられてしまった。なにくそつと下からかみついたところで、友達が中にはいつて引き分けてくれた。それ以来、からだの小さいというハンディキャップに悩むことがしばしばで、どうにかして、大きくなりたいと努力したが、あまり効果はなかった。この前のガンバ第一号で、チビッコ大将というニックネームをもらって、そのものズバリだと感心したのだが、これが中学時代だったらまたかみついていたかもしれない。

白々しいものになってしまふ。生んだ子どものように愛情こめて叱かるのがタッチであり、互いに愛情がわいてくるものである。政治も、恋愛もタッチから、万引もタッチからである。握れば欲しくなる。買

今の子どもにもチビッコはいるけれど、一般的なからだの伸びは実にすばらしい。全国平均で今年の六年生は昨年の六年生より〇・七センチ大きくなっているというから、今後十年もたてば、いまより七センチくらい大きな六年生ができることになる。いまでも、すくすくとよく伸びた子どもたちを見ると、わがことのようにうれしくなる。

昨年から市内の小体連がはじまっている。小学校の四年以上が集まったの体育大会である。開会式のとき一小から三会小まで市内六校の選手がずらりと並んだとき、思わずオヤツとびつくりした。大きいだろうと思っていた三小の選手が意外に小さく、一小の子どもの頃は、三小がいちばん大きくて強かった。子ども心に「三小の子どもが大きいのはきつと魚をたくさんたべるからなんだ。」ときめていたのを思いだしながら競技のはじまるのを待った。結果は、四十五枚の賞状のうち二十四枚を一小がとってしまつたので、残りの二十一枚を五

運び」がありました。砂場に入れる砂を全校児童が南風楼下の海岸から運んでくるわけです。ついでに故 林田先生がアサリ貝を掘ってきまして、風が吹いては飲み雨が降つては飲みたい時代でしたから、

つの学校で分けたことになる。小体連は対抗競技ではなくて、個人の記録向上を目標にするのがたてまえだとはいいいながら、チビッコの悲哀とまではいえないものの、何か考えさせられるものがあつた。ところが学校内でもこれと同じようなことが起こっている。昨年の五年（現在の六年）と現在の五年とくらべると今年の五年のほうが身長平均で、一・六センチ大きいし、小体連での成績もなかなかよかつた。

以上二つの例から簡単に結論をだすわけにはいかないが、の状態では、からだの大きい方が競技にもよい成績をあげると言えそうだ。昨年のオリンピックでも体重制のあるものではよい成績をあげたが、その他の競技では体力不足が強く反省されている。四年後の国体でも、長崎県の体位が全国平均のピリから三・四番という現状では、よい成績をおさめることは困難だろう。勝つためにはよほどの鍛練が必要だということになる。オリンピック頃から、「なせばなる」というので、鍛練

そしてカラカラと秋の夜の高い笑い声がおこりました。もうサカナは何もありません。ところが、またサカナが見つかりました。誰でしたかね。「ここにも秋のサカナあり」と畳のささくれを引きちぎつ

の効果が大きくとりあげられるようになったが、小学生には、無理な鍛練は禁物である。人間のからだは、早く発達するものと遅く発達するものがある。筋肉の発達は満十歳でおとなの四十パーセントにしか達しない。一方運動神にたよる巧緻的な方面では、成人の九十パーセント可能である。運動の技術的なものは、ほとんどこの時機に体得してしまふ。昔の名人達人とよばれた人々が幼少の頃から修練にはげんだのもこのためであろう。三・四年の頃は、思うぞんぶんとびまわらせてみたいものだ。

人間は何によらず、伸びるときに大いに伸ばしてやらねばならぬ。まだ時機が来ていないのに無理に伸ばそうとしてもいかぬ。チビッコではだめだ。心も、からだもすくすくと伸ばそう。胸を張って人生をおくろう。



第一回の歌声の会は発表式を兼ねて、百三十余名のおとさん、おかあさんが音楽室

最高も昨年度のトップ広馬場上(五二%)と比較しますと津町(七六%)と伸び、他町内をリードし、次いで八幡、元舟津とつづいています。

でない点が見受けられました。②貸し出し期間が短い。③本を読む時間がない。など、各町内の実情とマッチしない点があげられました。

表2. 夏休みの利用の多さ

1. 母親読本
2. 私のおかあさん
3. しつけのすべて
4. 日本の歴史
5. ママおうちが
6. 杏
7. ことばの技術
8. 人間の生き方
9. 1~6年家庭指導
10. 子どもの予算生活

延冊数 283
実人員 228

よい子の冬休み

昭和37年

◎ 冬休みは計画をたてて立派に楽しくすごそう。

1. 学習は、毎日きめてしよう。
 - ・ 学習時間 一・二・三年 半時間以上 四・五・六年 一時間以上
 - ・ 冬休みの友 二学期の復習をする。
 - ・ 書きぞめをする。(一月二日)
2. 家のおてつだいは、進んでしよう。
 - ・ 夜遊びはしない。五時までには帰える。
 - ・ テレビは八時頃までとし、夜おそくまで見ない。
3. よく考えて、よい遊びをしよう。
 - ・ その家のテレビを見る時は礼儀正しくする。
 - ・ おおみそか、お正月は家族みんなで楽しくすごす。
 - ・ あぶない場所では遊ばない。
 - ・ あぶない遊びはやめる。
 - ・ (火あそび・ゴム銃・ふき矢・火薬あそび・チャンバラ・その他)

子供銀行表彰

昭和38年

◎ 子ども銀行が地方表彰を受けます。昭和二十六年度の地方表彰を皮切りに、地方表彰四回、中央表彰四回、特にここ四カ年間は連続表彰を受けています。貯金総額五百万円突破も目の前です。



ベルマーク

◎ 「ちりもつもれば山」といいますが、ベルマークが一年間で二万円になりましたので、よい子がみんな使えるように簡易楽器を購入しました。あちこちの教室から、木琴や鈴の音が明るくひびいてきます。

テレビと子ども

昭和39年

去る二月五日の夜、代議員会が開催された際、子どもたちのテレビ視聴についての問題が話題になりましたが、その後、学校の視聴覚部でテレビ視聴の実態調査を実施し、ほぼその結果がまとまりましたので、その概略をお知らせいたしたいと思います。

それぞれの家庭で、今後のテレビ視聴指導の参考にもしていただければ、この調査も有意義なものになると思っています。(イ)どんな番組をよくみているか。

最近の子どもたちの話題の中に、テレビ放送の内容が必ずといってよいくらい取りあげられているが、一体今放送されているテレビ番組のうち、どんなものが子どもたちの間で人気があるかを調査してみました。次のような結果が得られました。

- 一位、白馬の剣士
- 二位、忍者部隊月光
- 三位、隠密剣士
- 四位、鉄腕アトム
- 五位、エイトマン
- 六位、鉄人28号
- 七位、コンバット

八位、3バカ大将
九位、チビッコ大将
十位、ポパイ
(ロ)一日のうちでいつごろみるか

- 一位、午後六時〜九時
 - 二位、午後七時〜九時
 - 三位、午後六時〜九時半
 - 四位、午後六時〜八時
 - 五位、午後五時半〜九時
- これでもわかるように、殆どどの子どもたちが、夕食前後のころから、寝る時刻ごろまでテレビにかじりついているようです。

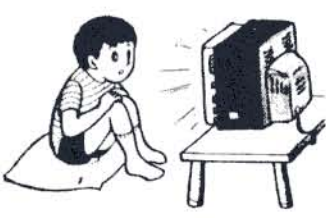
しかし、なかには十一時ごろまでみている子どももいますが、割合からいえばわずかなものです。(ハ)一日のうち何時間ぐらいみるか。

次に、一日のうちどれくらいの時間テレビをみているかを調べてみますと、大体平均して二時間から三時間程度です。なかには、六時間ぐらいみている子どももいるようですが、それもわずかな人数です。(ニ)勉強するのとテレビをみるのとではどちらが多いか。

四二名のうち、勉強が多いと答えた者はわずかに二十名です。テレビは圧倒的な人間吸収力をもっているといえるようです。

(一)一週間のうち何曜日に多くみるか。一週間のうちでは、何といっても、日曜日がトップで、次が土曜日、以下、月、木、火、水の順になっています。(ハ)一週間に何回ぐらい他の家のテレビをみに行くか。これは自分の家にテレビがないため、他の家にテレビをみに行く子どもを対象に調査してみた結果ですが、一番多いのが、五回、次が三回、以下、四回、一回、七回の順です。

この結果、大判の子どもたちが、一週間のうち、半分以上は他の家に行つて、テレビをみているようです。





◎恋愛結婚でしようね。もちろん！妻は馬年生まれですが、私は兎年、でも私は軍隊では輜重兵出身。どんな暴れ馬でも乗りこなせる自信があったので結婚したのです。

◎夫婦げんかは月に何回くらい？おおよその原因を素直に白状してください。
月に二・三回くらい。それも子どものいない時、口げんかのモレツなのをやります。原因は、妻が口にする(……よかるもん、……よかるで)という言葉が気に入らず、私の方から始めますが、そのうち二人とも疲れてしまって、いつの間にか終戦という訳です。

インタビュー

育友会長 本田巻男さんの素顔

ていちろ・やまもと



きりりとしまった顔である。前額部が禿げあがって、若き日の織田政雄(俳優)を思わせる。そのような感じの顔である。潔癖性を浮き出させた顔である。神経質な表情の中に、図太い神経が、ちらりと顔をのぞかせる不思議な男の魅力をひめた顔である。文字どおり几帳面な人である。そこでまずインタビューは、奥さんとのなれそめから……。

◎朝起きて、出勤までの時間のスケジュールは？
六時起床。この時間に狂いはなし。私は、ヨガにもとづいた逆立ち、三

点倒立をやります。その間、妻はテレビ体操です。それが済んで朝食まで盆栽いじり。熱帯植物も、孔雀サボテン、ペゴニア、コーモリラン等自慢のものがあります。

◎あなたの生活信条を聞かせて下さい。
「わが道を行く」です。育友会のあり方について、

ズバリ一言……。

親も、もっと勉強していかねばなりません。みんなが協力し合って、もっと親しまれる育友会にせねばなりません。育友会が経済後援団体であった時代は、もう過ぎたのです。

全く緩急自在、すぐ頭の回転の早い人である。そして終始温顔をくずさない人である。話しているうちに、真面目で些か固苦しい、冷い感じの第一印象がフツと消えて、春風の中に酒を酌むような、さわやかさに包まれてしまった。あたたかい人柄、これが本田さんの真の魅力なのだろう。終戦時、陸軍中尉。現在合資会社永瀬屋書店総務部長。三小育友会長の外、県民生委員、市児童厚生施設運営協議会委員。三男あり。五十歳。

各部だより

昭和40年

施設部

施設部長 谷口房三 (桃山)

十五年も前からの宿望であった旗池安全通学道路は、全長約三五〇メートル、昨年十二月末に完成しました。また本年十月十二日に鉄道踏切が

出来ましたので、十月十六日に感謝と安全祈願をこめて開通式を挙行了しました。

この道路開通により、南部地区児童生徒約三〇〇人は、非常な恩恵をうけることになりました。地主さんの土地無償提供、市当局、島鉄、地元選出市議さん、町内会長連絡協議会、南風泊、川尻、下川尻南北町内会、並びに町内育友会、白山婦人会、地元有志の方々からの物心両面からの御支援をうけて出来あがった訳で、感謝にたえません。

生活部

生活部長 池田真 (崩山)

生活部では、四月の計画に従って、「少年団のあり方」、「夏休みの生活指導」、「夏休みの反省」等について話し合い、実践して来ました。

先月は、「家庭教育のあり方」について、次のような内容を検討いたしました。

- (1) 家庭学習(宿題も含めて)
- (2) 正しいことばづかい
- (3) 読書指導
- (4) 罰のあたえ方
- (5) テレビの見方

教養部

教養部長 山本蔦五郎 (川尻)

班員皆さんの大へんな努力で、ごらんのような第二四目の「がんば」をお手もとにさしあげます。味わってください。

総務班

去る十月二十三日、県社会教育課長宮田藤臣先生を迎えて、「家庭教育の諸問題」と題する講演会を開き、多数のご出席を得て、大へん有益なお話をお聞きしました。今後は、教養部全体の事業として、家庭教育の問題をとり上げていきたいと考えます。

学級班

町内PTAの集合に、どうしたらもっと多くの人に出席してもらえるか、ということをとりに上げて検討し、一応その案を作って町内代議員の方方に実行をお願いしております。今後更にその結果をもとにして、次の案を作り実行をお願いする予定です。

文庫班

夏休みの巡回文庫が今年は一層好評でしたので、これを更に発展させ、もっと多く利用されるよう努力しています。新しい本も引きつづいて買入れれます。会員皆さんの善意による献本運動もやりたいと思っておりますので、御協力をお願いします。

会報班

班員皆さんの大へんな努力で、ごらんのような第二四目の「がんば」をお手もとにさしあげます。味わってください。

「わが道を行く」です。◎育友会のあり方について、

◎あなたの生活信条を聞かせたい。◎あなたが道を行く。◎育友会のあり方について、



山口 謙氏 撮影

『こてきたい』

二年一組 つるさきさえりこ
おにいちゃんは こてきたい
にはいっている。
いつも、いう、
「ひどい先生だ。」
おんがくくらぶのかえりに
こてきたいを見た。
やっぱり、せいき兄ちゃんが
いったように、ひどい先生だ。
ひどくても、四年生から
こてきたいに、はいりたいと
おもっていた。
いまも、はいりたいとおもっ
ている。

県Pより表彰状

表彰状

島原市立第三小学校教育友会 殿
貴団体はPTA本来の使命に盡
み全会員の和衷と協力により児
童生徒の幸福を増進しその実績
真に顕著であります
よつてここにその功績を推奨し
表彰いたします
昭和四十一年七月二十九日

長崎県PTA連合会長

泉 年夫

学校だより

国語研究発表会

昭和41年

去る十一月十六日、先生と
児童一体となって学習にとり
くみ、二年間積み上げてきた
国語学習の姿を県下の先生方
に公開いたしました。
予想を上回る沢山の先生
方の参会のもと、活発なそし
て有意義な研究会をもつこと
ができました。

岩石園完成

夏休みを利用して、理科担
当の先生方が北九州各地より
集められた岩石で、りっぱな
岩石園ができました。

ベレー帽使用

皆様の御協力により、待望
のベレー帽が購入され、すで
に鼓笛隊員が着用している姿
をごらんになられたと思いま
す。

ベレー帽着用によって、全
体が更にきりっと引き締った
感じがします。

辞書ひき競技会

毎年、四年以上の各学級よ
り五名の児童が参加して辞書

十五年も前からの宿望であ
った旗池安全通学道路は、全
長約三五〇メートル、昨年十
二月末に完成しました。また
本年十月十二日に鉄道踏切が

（桃山）
（川尻）
* 教 養 部 *
教養部長 山本 篤五郎
（川尻）

ひき競技会を行っています。
今年、次の児童が一位と
なりました。

- 四年 小林 浩
- 五年 中島 史彦
- 六年 原 典久

遠足の

副食代制限

弁当を除いた副食代が、二
百円〜三百円とかさんで来て
いる現状から、家庭の負担が
大きすぎることも考えあわせ
て、一五〇円以下に制限する
ことになりました。

先般の秋の遠足の時、この
きまりを守らなかつたのはな
ぜでしょうか。

服装がはでになつてきたこ
とと共に、併せて親の方々の
御一考をお願いします。

女性豆剣士
気炎を吐く
三小第一回
武道大会

本校第一回武道大会は、去
る三月十一日午後二時から本

（会報 班）
班員皆さんの大へんな努力
で、ごらんのような第二回目
の「がんば」をお手もとにさ
しあげます。味わってください
い。

校講堂で、竹下南高郡市柔道
協会長喜多同副会長光永剣道
師範等関係者多数の臨席を得
て、盛大に挙行されました。
昨年の七月、剣道部・柔道
部それぞれ三〇〜五〇名の部
員をもって発足し、毎週二回
放課後それぞれ練習に励んで
きました。

日が浅いので技には未熟で
すが、当日の豆部員たちはは
じめての大会とあって大いに
張り切り、武道精神にのつと
り正々堂々と覇を競いました。
四年生の片山やすよさん、宮
崎展枝さんの異色剣士の堂々
たる試合ぶりや、六年生柔道
部員全員による投げの型など
本大会に異彩をはなしました。

なお、剣道部の指導は光永
師範のなみなみならぬ日頃か
らのご協力を得ており、柔道
部は創設当初喜多猛先生をは
じめ、竹下助一さん、要名本
亨さん、尾藤公一郎さん、高
木義弘さん等の尊いご芳志に
より柔道畳三十二枚、更にユ
ニオンスポーツ店からは柔道
衣五着のそれぞれご寄贈を賜
りました。

実施された 日曜参観

「がんば」第二号で、学校参観についての小さなレポートをまとめました。その中から、私たちはいくつかの問題を掘り出しました。その一つに、父親を対象とした日曜参観日を設けて欲しいという声がありました。

これは、毎月十五日に学校参観されている母親のすべてに共通した意見でした。

このお母さん方の声がとりあげられて、三小では、二月二十七日の日曜日に学校参観が行なわれました。

約六五〇名の父兄が参観されましたが、これは全家庭の六五％という数字になります。雨天であったことを合わせて考えますと、六五％という数字が、いかに驚異的な数字であるかが、おわかりいただけると思います。しかし、まだこの数字の中に考えさせられる問題が含まれていました。一学級当り母親の参観数が二十人平均であったのにひきか

え、父親の参観数が1/4の五人平均という低い数字に終わったことです。

この問題についての父親の意見を聞いてみました。日曜参観日といったような、あいまいな表現をさけて、父親参観日とし、そのような連絡を流したら徹底する……という意見もかなり多かったようでした。しかし、これには反対の意見もありました。父親を対象にした日曜参観という主旨は通知してあることだし、忙しくて毎月は学校参観できない母親も、この日だけは参観できるような形のもの……つまり、今のままの表現が最も適切だ。要は教育に対する父親の熱意の問題だ——という声でした。子供たちの椅子にすわって一しよに給食を食べ、全体会議に参加した父兄の一人として、私たちは、この日曜参観が、三小から育友会のお父さん、お母さん方に対する、すばらしい贈りものであったことを実感としてうけとめました。

ここに、一枚の印刷物があります。『二年生の学年だよりの三月一日号ですが、その中に加藤先生が日曜参観の

ことを書いて下さっていますので、そのまま掲載させていただきます。

行ってよかった 日曜参観

「父親も、もっと家庭の中で、子供の教育に関心を」といった主旨で、初めての日曜参観がもたれました。

どしやぶりの悪天候にもかかわらず、一校時からぼつぼつお父さんの顔が見えはじめ、三校時がはじまるころには、木造校舎のせまい教室からはみ出るほどの数になった。ふだんの参観日でおなじみの、おかあさんの姿にまじって、はじめて見るお父さんの顔。「はて、だれのお父さんかな?」「ははあ、口もとがK君によく似ているな。」「うちのお父さんの頭は、少しはげかかっているの、すぐわかるよ」と、前日教えてくれた子供のことばを思い出して、「ははあ、日子さんのおとうさんだな」と思ったが、やはり的中した。

- 先生は、どんなふうに教えているのだろうか。
- 自分の子供は、きちんとすわって、先生の話を聞いているのだろうか。
- 自分の子供は、はずかしくがらずに発表できるだろうか。
- 家庭と学校での自分の子供のちがいは、どんなところにあるだろうか。
- など、さまざまな期待をもって参観された。

はじめてのお父さん方が、口をそろえて、「自分の子供の勉強ぶりと、学校での教え方がよくわかって、参観したか良かった」と、しみじみ述懐されることばを聞いて、「よかった」という感を深くしました。

給食後の全体会では、校長先生から「子供の家庭での先生である父親、母親が、確固たる指導性をもって子供の模範となるような家庭をきづいて欲しい」といった意義深い話のあと、おはこの「タッチ・イクオール・ラブ」がとび出して、満場をわかれました。

最後に、「今日の子供たちを見てみると、家に帰ってしからなくてはいけないようなことばかりで、ふくふくしているが……」という父親の質問をうけて、「子供の良かったところをほめて、どうしても注意しておかなければいけないことを最後にひとつ、というように、ほめることをふやしてほしい」という教頭先生の答弁があった。

初めての試みが好評だったというので、今後また日曜参観が計画されると思います。が、せめて、そんな日なりとお父さん方に多数出席していただきたいものです。

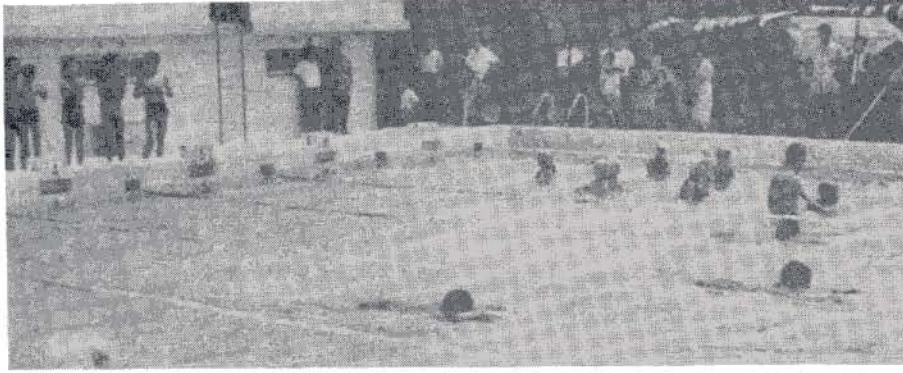
参観して下さったお父さん、お母さん、午前中は立ちっぱなし、午後は固い椅子にすわりっぱなしで、大へんおつかれさまでした。



プール完成

昭和43年

昭和三十八年の佐賀の勸共小学校に研修旅行に行った際、プールがあったところから、三小にもプールの必要性を感じ、思いつけて五年、念願がかないました。



プール完成を祝う

三小にとって、貴重な歴史の一頁を刻んだ記念すべき日。一九六八年八月五日。朝の陽光に輝く、新プールの水面はもの静かで、しかも重量感に満ちた、いかにも堂々たるものであった。

待ちにまつた 初泳ぎ

プール落成式

- ① 君が代斉唱 (国旗掲揚)
- ② 式 辞 市 長
- ③ 工事報告 建設課長
- ④ 感謝状贈呈
- 市関係 本田 巻男
- 九州建設社長
- 湊建設社長
- 松尾 金太郎
- 本田 虎夫
- 田中 サヤノ
- 本多 三郎
- 中山 宇八
- 織田 満寿夫

- 実行委員 吉田 直
- 役員代表 山本富治
- 篤志寄附者代表 横田松馬
- 市議会議長 小国志佐人
- 歴代校長代表 林田俊夫
- 白山地区町内会連絡協議会長
- 祝電披露
- ⑥ プール引き渡し 市長より教育委員長へ
- ⑦ 謝 辞 吉田 良一
- 教育委員長 本田 巻男
- 実行委員長 松本 巖
- 学 校 長 片山 秀子
- 児童代表 三小鼓笛隊
- ⑧ 祝賀演奏 白山地区青年団
- ⑨ 水泳練習具の贈呈
- ⑩ 閉 会 プール開き

あるか、おわかりいただけると思いますが、しかし、まだこの数字の中に考えさせられる問題が含まれていました。一学級当り母親の参観数が二十人平均であったのにひきか

であったことを実感としてうけとめました。ここに、一枚の印刷物があります。『二年生の学年だより』の三月一日号ですが、その中に加藤先生が日曜参観の

げかかっているのです、すくわかるよ」と、前日教えてくれた子供のことは思い出して、「ははあ、日子さんのおとうさんだな」と思ったが、やはり的中した。

プール落成のお祝いの言葉

はさみ入れ
本プール 市長
子プール 本田巻男
初泳ぎ

私達が、待ち望んでいたプールが長い日にちをかけて、ようやくできあがりしました。私達が、第三小学校にプールを作る計画がなされている事を知ったのは昨年の今ごろだったでしょうか。そのころプールのある第二小学校をうらやましく思っていただけに、プールができると聞いて、みんなはとび上がって喜びました。それから一年もたたないうちに、こんな素晴らしいプールができて本当にうれしく思います。感謝の気持ちを表すためにも、しっかりとがんばらなければいけないと思います。今、私達は、ありがとうございます。持ちと、りっぱな、このきれいなプールで、「早く泳ぎたいなあ」という気持ちでいっぱいです。

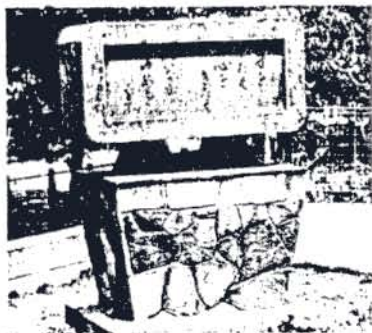
プール建設

記念碑建つ

プールが完工して早や二年になるうとしています。その間、水泳指導を通して児童の体力増進等に多大の成果をあげつつあります。

本年度中で、建設費の完納ができ、プール建設事業の遂行を記念して、プール入口の東側に、高さ一・六メートルの記念碑を作ることになりました。

碑文のように心身とも健やかな児童の成長を心から願いたいものです。



広報部

独立

昭和45年

昭和四十五年度、初総会に
より、昨年まで生活部に属し
ていた広報部が新しく部を編
成することになりました。

授業参観

今年、会員の中から、P
TA活動改革への意欲がも
り上がり、毎月一回授業参観並
びに学級友会が開かれるこ
とになりました。

運動会

収支決算

一、収入金	三七九九九五円
内訳	
寄付金	三四三、九二六円
市よりの賞品代	三六〇 六九円
一、支出	一八七六九五円
内訳	
賞品代	七四七四五円
会場設営費	三二二七五円
消耗品費	三四五九五円
備品費	一三六四〇円

衛生費 一〇八四〇円
一、差引残高 一九二三〇
○円
なお、運動会の寄付につきま
しては、新聞紙上にも多くの
意見がのせられ、また島原市
会での問題としてもとりあげ
られました。市教育委員会
も、運動会経費の予算化を考
えておられるようです。本会
でも、十一月の常任委員会で、
各方面から検討いたしました。
来年の運動会までには、寄付
問題もはっきりしたものに
なるものと考えています。

さあ、みんなで いっしょに
歌いましょう!

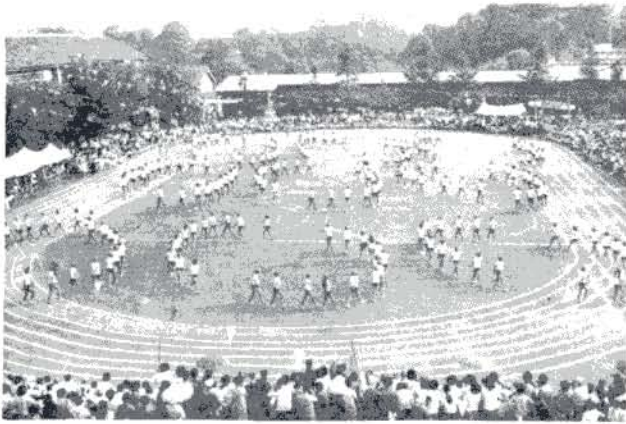
“歌おう会”で楽しい歌を

とき 毎月5のつく日(5・15・25日)

午後7時30分～9時

ところ 三小第2音楽室 ※指導 立花先生

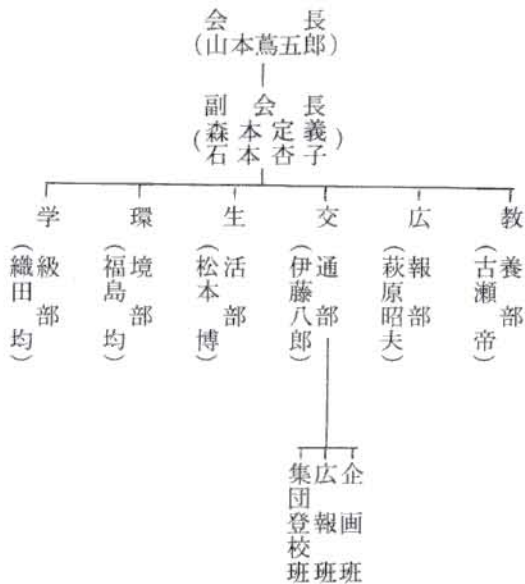
運動会



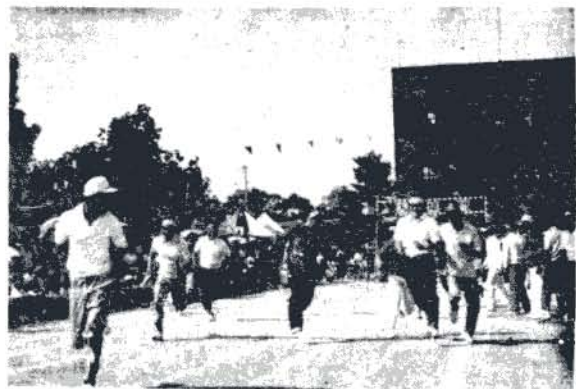
〔学級部会独立〕

〈育友会機構〉

昭和46年



育友会のみなさん、
ご苦労さまでした



専門部対抗リレー

交通部

発足

昭和45年

- ◎毎月五日の交通指導
- ◎各通学交又点への部員の配置
- ◎警察より部員全員交通指導を受ける。
- ◎伝染病院交又点の信号機設置の書を警察へ提出
- ◎二中、二小、三小の三校交通部の三校交通安全協議会の設立。

感謝状

島原市立第三小学校

育友会交通部殿
 あなたがたは、昭和四十五年四月から、島原市立第三小学校区内の交通危険箇所を調査し、児童の登下校時に交通指導をして、児童の交通事故防止と交通安全意識の高揚に多大の効果をおさめられました。ここに記念品を贈って感謝の意を表します。

昭和五十六年二月二十五日

島原警察署長
 警視 小林虎雄 印

交通安全運動

- ◎校内児童自転車点検整備を自転車組合の好意により実施。
- ◎交通指導の手びきの配布
- ◎笛、黄旗、白手袋の配布

九月二十七日より十月六日迄行なわれました秋の交通安全運動に当たり交通部は次の目標を計画し安全運動に協力するということでした。活動致しました。

目標「交通安全の意義を認識させ社会行事を契機として一層安全に対する関心を高め態度を育成する。」

- 計画
 - (イ)交通部会並びに班会の開催により諸計画の企画
 - (ロ)広報活動として交通だよりの発行と八ミリ撮影による実践記録活動
 - (ハ)実際活動として毎朝の交通指導(交通部員・各町内育友会員・学校の先生等)



この目標を重点として諸計画の達成に全力を上げる様努力する事になりました所、皆様方には早朝で一番多忙な時間にもかかわらず熱心に指導をして戴き大変お疲れのこと

(二)点検活動として子供の自転車の点検
 遊び場通学路の点検

(ハ)育友会員の交通教室開催

だったと思います。又三小育友会員八〇〇名のうち四七〇名と云う多数の方々各町にわたり御活躍下さいました事につきましては深く頭のさがる思い一杯です。この様に皆様の協力を得る事が出来ました事は、校長先生始め諸先生方の御指導と市より伊藤助役、加藤民生課長様にも励しに来て戴いた事や山本会長、森本、石本両副会長さんにも度々街頭の補導や激励に廻って下さったおかげで今日の成果を納める事が出来たものと深く感謝致します。

尚「終りなき戦い」と迄云われまます今日の交通事情、特に子供の死亡事故の増加を警告されます時学校での指導をより効果的に生かす様、家庭での躾として日々心を新たにして今後も御指導下さいませ様お願い致し二学期無事故で子供達の楽しい笑顔が続きます様協力の程を重ねてお願い致します。

更に本計画実行全面にわたる島原警察署長始め、交通係の方々、安全協会の皆様方に御指導戴きました事を心から感謝申し上げ厚く御礼申し上げます。次第です。

最後に全家庭の保護者の皆様方に交通部の立場から是非



次の事をお願い申し上げたいと、思います。

先ず親から良い手本を示し遠まわりも、きちんと、横断歩道を渡たる事や、ドライブ―としても安全運動を実行すること等、特に子供の目に見えるところで、間違った行動に出ない事を育友会員の一人としてお互いに心に誓いあいたいと思います。



さあ、み...
 “歌おう”
 と、き...
 と、こ、ろ...



環境部 (福島均)
 学級部 (織田均)

教育改革と

P T A

昭和47年

育友会長

山本 蔦五郎

今年度、一九七二―七三年は、恐らく、将来において、歴史上の大きな転換の年として、長く記憶に残ることと思います。

国際的には、中国の国連加入と米中接近、アメリカの経済危機、英国のE.C加盟など、近年、いや、現代における特筆すべき大事件ばかりだと思えます。

わが国においても、アメリカの経済危機のあおりを受けて、いわゆる「ドルショック」の深刻な不景気は、これまでの高度成長経済に大きな方向転換を与えました。

また長い間の占領から沖縄がやっと返還されようと、これでほんとうに「戦後」が終ることになりました。

このような歴史的な大転換に呼応するかのように、教育の分野においても、これまた

「歴史的」といえる大きな変革が起きようとしています。

「わが国における今後の学校教育のあり方について」文部大臣の諮問に答えて中央教育審議会が、昭和四十二年から四カ年の長い日時と努力をかけて検討し、まとめた答申が、昨年六月に行われ、今後の学校教育はこれに基いて大きく改革されることになりました。これは、明治の学制施行や第二次大戦後の教育改革と並んで「第三の改革」と云われるほど、広範で根本的なものです。

この答申に対しては、その中間報告の時から、各方面、各立場からの多くの意見が出され、活潑に議論が斗わされて、大きく国民の関心と呼んできました。

私たちの島原市でも、市連合P.T.A.ほかの主催で昨年十月、郷土出身の教育評論家、伊藤昇先生の「七〇年代の教育」についての講演会で、この答申についてもお話があり、また、十一月、県教育主催の教研集会においても、この答申の批判を中心とする研修が行われました。

云うまでもなく、教育は私たちが未来に対して大きな責任を負う事業です。

そして、私たちは、身近かな現在の子どものための教育をよくしていくとともに、未来の子どもたちのためにも、よりよき教育が行われるようにたえず改革への努力も行わねばならないと思えます。

そこで、この答申に対しても、より一そうの関心を持って、学習し理解を深め、また、いろんな意見や批判にも十分耳を傾けて、自分の眼でたしかめた上で、積極的に意見を出して、教育のよりよき改革へ参加すべきではないかと思えます。

私たちのP.T.A.は、そのための学習の場であり、また、お互いの学習や意見を互論として形成し、まとめあげて実現する活動の母体となるものだと思います。

大きな歴史の転換点に立って未来に責任を負う教育のよりよき改革のために、P.T.A.の使命も重大であると私は考えております。

育友会で 育てられる

山本 蔦五郎



会員として十二年間、そのうち会長として六年間の数かずの思い出は、とうてい一言では尽くせませんが、何んと言っても、多くの方がたとの出会い、ふれ合いを持ったことだと思えます。

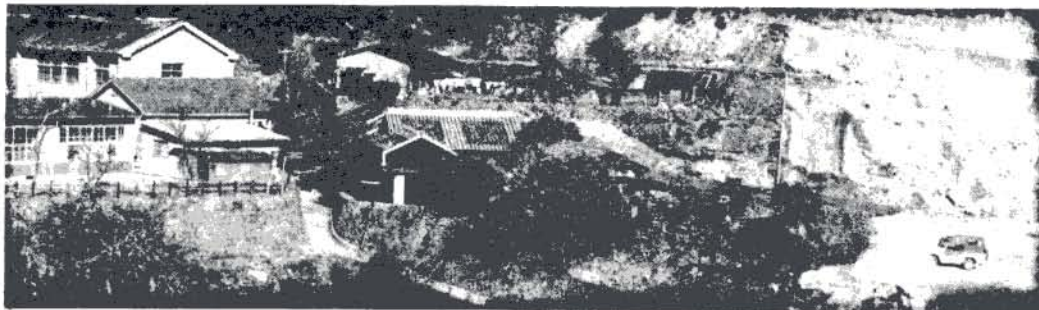
先輩の方がたや、歴代の副会長さんや役員さん方、会員の皆さん。学校の校長先生や諸先生方。地域の皆さんや地域外でもいろいろとお世話になった人たち。それに、六年の間に見違えるように成長して巣立って行った子どもたち。など。次ぎ次ぎに思い出がよみがえってきます。

事業としては、やはりプール建設が一番印象に残っています。

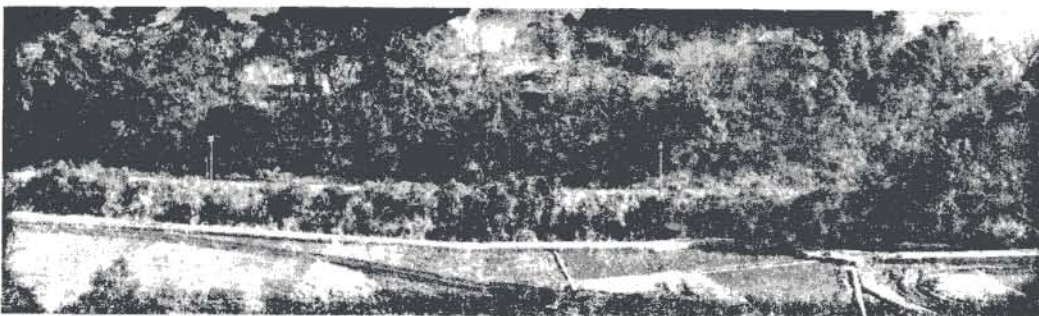
昭和三十七年、初めて育友会員になった年、佐賀の勸興小学校を視察に行つて、プールの必要性を強く感じて以来、昭和四十年、島海海水浴場の開設、昭和四十一年、プール建設実行委員会が結成され、林田町内会長連絡協議会会長を先頭に、本田実行委員長、松本校長、林田教頭さんたちの尻について、あちこち廻ったことを思い出します。そして昭和四十三年、育友会長になった時に目出たく完成。

その他、いろんな行事や事業を皆さんと一しよに努力して実行することを通して、私自身勉強し育てられてきたことを大へん有難く思っています。

育友会は、子どもの入学とともに、親の学校への「再入学」であり「生涯学習」の貴重な場である、と思えます。



都市計画事業による
白山切り崩し



新住宅地造成予定地

がやっど返還されようとして、これでほんとうに「戦後」が終ることになりました。このような歴史的な大転換に呼応するかのように、教育の分野においても、これまた

「育」についての講演会で、この答申についてもお話があり、また、十一月、県教育主催の教研集会においても、この答申の批判を中心とする研修が行われました。

未来に責任を負う教育のよりよき改革のために、PTAの使命も重大であると私は考えております。

白山切り崩し

昭和47年

高木 ミズエ

なごりおしい白山！
私がこの学校に入学して来た時、学校の横に立って私をむかえてくれた。でも新しい町づくりのために消え行く白山。
春には、きらめく太陽の中で若葉がしげり、夏は緑々とした葉がささやいてくれた。秋は葉がみんな紅く燃えていた。冬は白い雪でおおわれてとってもすばらしい。
このように四季のかわり目を教えてくれた。その白山が日がたつにつれて一本一本、木がたおれ土地が平らになって行く。このごろ見ると何もない。あんな自然の多い美しい山が消えた。通学するたびに白山山を思い出す。この学校を卒業して、私が一人前の社会人になっても広馬場を通るたびに思い出すでしょう。みなさんも自然のすばらしさを持つ白山を忘れないでほしい。



第一回育友会

町内対抗バレーボール大会

本田 武彦

町内育友会の動

昭和四十七年十月第一回育友会バレー大会が開催され、わが津町チームは下川尻、新山東に対戦したが惨敗に終わった。しかし反省会になるや、いなや、某料亭を貸切り、「参加する事に意義あり」。「相手が強すぎた」等わいわいがやがや、その賑ぎやかなこと、まるで宴会の為にバレー大会に参加しようという雰囲気。
そのうち誰がいうともなくバレーを続けようという話もちあがり、その場ですぐバレー部が結成された。
毎週二回二中体育館で練習



が、すごい。反則なんかクツくらえとやりたい放題。そのためかどうか知らないが、結成当時二十五名いた部員が十名に減り五組の夫婦、つまりアベックチームになってしまった。そしてどんなに練習しても一向に上達せず、かわりに夫婦の仲が益々よくなり、たとえば猛烈な夫婦喧嘩をしていても、いつのまにか仲なおりして手をつないで帰る有様、いったいバレーの練習を

間に見違えるように成長して巣立って行った子どもたちなど。次ぎ次ぎに思い出がよみがえってきます。

育友会は、子どもの入学とともに、親の学校への「再入学」であり「生涯学習」の貴重な場である、と思います。

するの夫婦喧嘩の後始末に来るのかよくわからない。あまりの珍練習にあきれたのか当時十九才の高校バレー界の名選手といわれたT君が、コート役を買って出た。しかし初歩からやりなおしと聞いて全員うんざり、それもそのはず、四十すぎの男が自分の息子みたいな少年にシゴカれるのだから無理もない。胸はドキドキ、喉はカラカラ、足はフラフラ、目はクルクル、口だけは人一倍達者な四十男に三十女？腹は立つけど「じつと我慢の子だった」なんて聞いた話じゃないけど、くやしいやら情ないやら、しかしT君のコーチは益々猛烈になり、ボールがわれわれの腕や顔めがけて次々と飛んでくる。驚いたのなんのたちまち手はシビレ、腕はコールドタールを塗ったようにドス黒く腫れあがってしまった。「こん畜生俺達を殺す気だな」「よしそれならば俺達だって負けるものか、腕の一、二本折れたって最後までやってやる」「限界に挑戦だ」と年の取甲斐もなく、逆に少年のように純粹な心で本格的に練習を始めたのであります。

そして研究会を月に一回開き、バレーをはじめ子供の教育から性の問題まで、取組み研究しております。その結果かどうかわかりませんが、四十八年度は準優勝、四十九年度はバレー部結成二年目で宿願の優勝を果たしたのであります。本年度は追われる立場になりましたが、より高度な技術に挑戦し、健康を維持しながら若い人達に負けないよう、頑張りたいと思っております。そしてバレーを通じて、育友会活動を推進したいと考えております。



吉田 信重

初めての試みなので、五十・六十人位は参加されるだろうと予想していると、どうして

親子 ハイキング

昭和48年

どうして、一才半から七十才まで百五十人ばかり、カラフルな出で立ちの、お父さん、お母さん、おばあさん、子供達で三小の校庭は、秋の花々が咲き乱れた様だ。

出発前からバレーやソフトボールでハッスルしているグループもある。育友会長さんの挨拶、注意事項の後いよいよ出発。裏門から出て、根松を通って行く。お稲荷さんのある道は、学生時代以来初めて通ると云う人も多い。色づいた蔦がずら、取り入れ時の田んぼが朝靄の中で美しく、実りの秋が感じられる。柿の実が熟している。「ありや、柿んうれちよる。よう学校帰り、柿ばちぎり行きよったとんない」と幼い日の思い出話しがはずむ。親子そろって畑道を歩くのも又いいものである。平常神経をとがらせて車を飛ばす者にとって、それは貴重な時間に思える。

目的は市営サッカー場。塗中で火花があがったと思ったら、そこでは撮影会があつていて、怪獣が来ていたのの子供達は大喜びであった。ライオン丸に、月光仮面、「月光仮面のおじさん」と子供達

が呼ぶと、彼が「ぼくはおじさんじゃない、兄さんだ」と云った。小さい子供達は彼等と一緒に写真をとって嬉しそうだ。全然子供の集まらない怪獣がいた。聞いてみると悪者らしい。大人達の方は、ソフト、バレー、と子供達そのけで大いに楽しんでいる。秋の光が芝生に映えてまぶしい程だ。昼食は、一同、「にぎりめし、ちくわの煮つけ、つけ大根」である。運動した後では、そのうまいこと!! 細身のGパン等着て損した、というAさん!

「帰る時間ですよ」と云うと「もう少し遊びたいよ」とだだをこねたのは大人の方でした。帰り道は小山団地を通って二小へ下りて来たのだが初めて来たというお母さん方も多い。「シャシンシャシン」を見つけたHさん達、島原弁でおもしろかね。「シャシンシャシン」が「あなたを愛してます」という風に聞えるよと大笑い。Fさん曰く「吉田さん、今日はほんで良かったばない。ゆうべ夫婦げんかばして、別々に家ば出て来たばってん、もう帰りにや仲間おればして、一緒に帰りよった

校内音楽会

風景

昭和49年

ない。ちくわん煮つけとつけ大根で済んだばない。仲人さんに頼めば酒一升持つて行かにやんてない。——

ところで、我が家の一才半は、背中で昼寝を始めたのでリュックの二倍の重さはある。赤城の子守歌か子連れ狼というところ。子守ハイキングも又楽しからずや、である。





広いやわらかなしほふの上に、白馬がつかないである。純白のたてがみが、風にとふかれてとても美しく思えた。

中にはいたようなあざやかな色彩。今すぐの春を上げる小鳥が飛びだしてきそうな情景だった。強い風がふきつけている。

草千里と阿蘇
昭和50年

わたしたちのたくさんの方の希望をのせたバスが修学旅行へと向った。パールラインを通って、草千里についた。ほんの少しさしかかったと

ころ、目のさめるような美しいエメラルドグリーンが、わたしの目をとらえた。まっ青な大空に、うすい純白の雲がかかっている。手をのばせばすうっと、にげてゆきそうなやわらかな雲。そんな場面を背景に、やわらかなビロードの草原。まるで、バスが、え

のぐぼこの底で、「ゴオー、ゴオー」というものすごい声をだしているように聞こえる。広くゆる

だいな火口をのぞけば、じごくの世界をのぞいているような感じがうけ、めまいがする。足がすくむ。風は風で、いじわるそうに、火山ばい或小石をふきつける。どんなにいたさがしみじみと感じられたものだろうか。やさしく母のような、草千里の情景。

きびしく父のような、阿蘇の情景。同じ自然の情景なのに、どうしてこうもちがうのだろうかと、考えさせられた。

それと同時に、自然の中にとけこんだ気がする。

「限て最後までやってやる」「限界に挑戦だ。」と年の取甲斐もなく、逆に少年のように純粋な心で本格的に練習を始めたのであります。

吉田信重
初めての試みなので、五・六十人位は参加されるだろうと予想していると、どうして

途中で花火があがったと思ったら、そこでは撮影会があつていて、怪獣が来ていたので子供達は大喜びであつた。ライオン丸に、月光仮面、「月光仮面のおじさん」と子供達

と大笑い。Eさん曰く「言はばない。ゆうべ夫婦げんかばつて、別々に家を出て来たばつてん、もう帰りにや仲なおりばして、一緒に帰りよつた

旅行と経費

|| 修学旅行と社会科見学 ||

五月十九日・二十日の両日 雑費 一一五円

一八七名の児童と引率の先生 旅行しおり 六六九六円

十一名は、貸切バス五台、(各クラス毎)に分乗し、例 薬品代他 合 計 六六九六円

年のコース天草、熊本市、阿蘇、丁度開催中の九州子供博 右記の他に、小遣い二千五百円以内(個別に類するものは絶対ことわる)との事でした。

見学へと旅立ちました。出発の朝は、生憎の風雨で、各々お母さん方の見送りを受け、

体育館に集合しました。修学旅行のしおり(旅行中の注意事項、行先の予備知識、歌集、

も、生徒の手作りで、旅行への期待と夢が、雨のため少し

でも萎ばぬ様、只々早くやんでくれと祈る様な気持の見送りでした。今年経費の面より修学旅行を見当ててみました。

交通費 船賃他 三三三六円

バス 船賃他 三三三六円

宿泊費 内の牧法泉閣 二二〇〇円

見学観光費 熊本城・水前寺公園・ロー

プウエー・子供博 六〇五円

写真代 記念写真二枚 四〇〇円

子供預金というシステムもあることすし、学年に依つて考え合せ、毎月こずかいの内より、少しずつでも積み立てていくと、六年の春は心置きなく楽しく旅行でき、貯金することの意義も一段と生きてくることでしょう。

四年生の社会科見学は、バス代、入場料共千五百円を子ども銀行より引き出し、おやつは給食の方より準備され親の負担額は〇円。

来年度はコース、物価の値上りのため、少しの変動はあるかと思いますが、何かの参幸になれば幸いです。

先生方や、お互いの努力が実って、元気に帰着でき、何より嬉しく感じました。(五十二年資料)



体育館三月に完成!

昭和50年

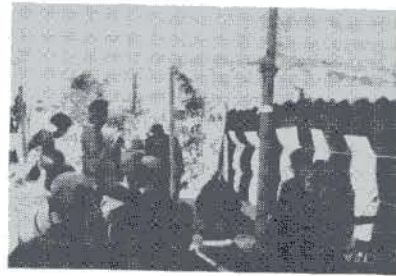
四十六年

陳情書提出

陳情の要旨

市、ご当局並びに教育委員
会のご英断により地区民多年
の念願でありましたプールの
実現をみましたことに対して
は、衷心感謝申し上げますと
ころであります。実は、プール
建設と同時に、体育館建設の
要望も強く、地域でも何れを
優先すべきか決定しかねる状
態でありました。したがって
プール完成の現在では体育館
建設についての気運が著しく
高まってまいりましたが、三
小は、児童数に比し、校地が
狭隘で、現在のままでは、建
設の余地もない状態でありま
す。

聞くとところによれば、近く、
白山切崩しによる中組の立体
交差並びにそれに伴う都市計
画事業が実施されるとのこと
ですが、この機会に、校地に
隣接して、体育館建設用地を
確保していただき、早い機会
に、地区民挙げての要望であ
ります。体育館建設が実現で



きますようお願い申し上げます。
以上のような内容で、去る
二月十九日、第三小育友会長
山本篤五郎、白山地区町内連
同協議会長林田俊雄、学校長
村田正三氏連名で、市更、
教育委員長、市議会議長あて
陳情書が提出されました。



念願が実現に

学校長 林 田 良

私たちが首を長くして待つ
ていた三小体育館がいよいよ
着工され、すでに基礎工事も
完了して骨ぐみが次々に出来
ております。みなさんと共に
よろこび、無事に、りっぱな
体育館が、一日も早く完成す
ることをお祈りしたいと思います。
三小体育館の建設につ
きましては多年、育友会のみ
なさんを中心として地区の総
力をあげて推進してこられた
わけで、白山のとりこわしを
機に、山本前会長をはじめ、
役員の方々の格別のご努力で
敷地が決定しました。昨年五
月体育館建設委員会が結成さ
れ、市当局並びに教育委員会
に対する陳情を重ねたわけで
あります。幸に市長さんはじ
め市当局の深いご理解と、教
育委員会のご努力によって建
設決定のはこびとなった次第
であります。その間育友会の
みなさんはずっとより地区総ぐ
みの署名陳情をはじめ、真
情をこめての念願が、ここに

叶えられたわけで、まことに
喜ばしい限りであります。

体育館の規模は総面積九五
五・八平方メートルでフロアーの広
さが八三七平方メートル、ステージ
が一・八・八平方メートルでフロア
ーは横二七米縦三一メートルでバレ
ーコート二面、バスケットコ
ート二面、正式バレー、バス
ケットコートの用意も出来て
おり一小、二小、三中、三會
中より一〇〇平方メートルも広くり
っぱな体育館であります。

今後三小のこどもの心身鍛
錬の場として毎日活用するば
かりでなく、育友会をはじめ
地区の各種団体の方々が心身
をみがき、お互いが知り合う
場としても大いに活用できる
わけで、一日も早く完成して
活用できる日を待ちわびてい
るわけです。育友会をはじめ
地区の皆さま方のご熱意と
ご協力で心から感謝申し上げ
て、まことに簡単ですがご報
告いたします。



題字は郷土が生んだ彫塑家北村西望氏

記念碑は、大小二つの自然石の間に縦九十七糎、横一米八十八糎の黒みかげ石をはさんだ形で斬新なデザインであり、見事なのは表の題字で、郷土が生んだ世界的な彫塑家九十三才の北村西望翁の手になるものである。

創立百周年 記念碑完成

昭和51年

昭和五十一年五月三十日十時より新装なった体育館で、島三小創立百周年記念式典が華々しく挙行されたが、記念式典に先だち九時二十分より創立百周年記念碑の除幕式が行われた。山本薫五郎副会長

の司会により神式で行われたが、六年大島さつき、中村仁美さんの手により除幕が行われ、次いで、林田会長、川鍋記念碑委員長、施行者森永、松本両氏、原口校長、本田育友会長、児童代表石本幸紀君

の玉串奉典があり除幕式は無事終了、ここに見事な記念碑が誕生した。

記念碑にカプセル内蔵

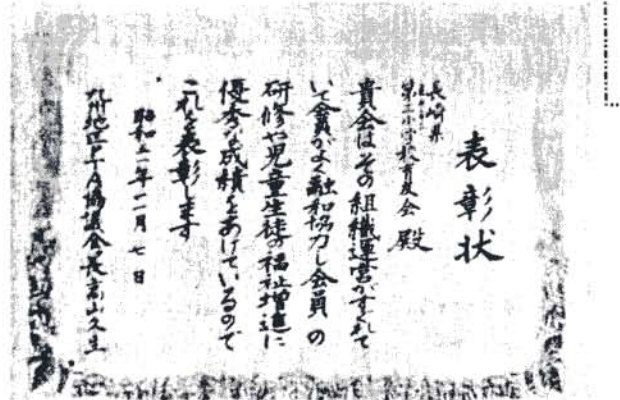
島三小百周年を記念する機会に本校の児童のようすや学習のようす、地区のようす、などが五十年後にわかるようにと、記念碑の中央にカプセルを埋めることにしました。

この中には記念事業に関する一切の書類や非常に苦勞された役員の名前や児童の使っている教科書・学用品・参考書などや、成績物（図画・習字等）がいっぱい入れてあります。そして、このカプセルは五十年後に掘り出して見ることにしています。

また、十一月六、七日の両日、長崎市に於て、九州地区PTA研究大会が開催され、優良PTAとして団体表彰を受けました。



文部大臣表彰・九P表彰に輝く



交叉並びにそれに伴う都市計画事業が実施されるとのことですが、この機会に、校地に隣接して、体育館建設用地を確保していただき、早い機会に、地区民挙げての要望であります。体育館建設が実現で



め市当局の深いご理解と、教育委員会のご努力によって建設決定のはこびとなった次第であります。その間育友会のみなさんはもとより地区総ぐるみの署名陳情をはじめ、真情をこめての念願が、ここに

活用できる日を待ちわびているわけですが、育友会をはじめ地区の皆さま方の、ご熱意とご協力に心から感謝申し上げます、まことに簡単ですがご報告いたします。

歯の表彰を

受けて

昭和51年

三小児童の健康の実態

三小児童の歯みがき状況は

十一月二十

八日、五島の

福江市で開催

された学校保

健研究大会の

席上、よい歯

の学校「長崎

県一位という

すばらしい表

彰をうけまし

九月

○今朝歯をみがいた者

三一・八%

○昨晚歯をみがかなかった者

四七・四%

十二月

○今朝みがなかった者

一四・六%

ある朝、突然予告なしの調査では、

調査は、

〈調査1〉

○昨年1年間に校内でけがをした児童数 (のべ人数)

学年	1	2	3	4	5	6	計
人数	162	340	270	245	195	348	1,560

※参考 上記のけが児童の中で学校安全会にかかった件数は (56) 件である。

〈調査2〉

○内科的疾患で保健室へ来た児童数 (のべ人数)

学年	1	2	3	4	5	6	計
人数	62	120	133	148	140	193	796

※内科的疾患(頭痛・腹痛・めまい・発熱・吐気など)

よい歯の学校

長崎県1位 (大規模校)



●朝食ぬきの実態 (%)

学年	殆んど食べない	週に1・2回食べない	毎日食べる
1	4.2	10.2	85.6
2	4.7	15.3	80.0
3	5.1	13.5	81.4
4	2.4	21.8	75.8
5	3.9	24.6	71.5
6	4.1	17.8	78.1

●食べない理由 (%)

原因	何となく食べたくない	時間が無い	準備がしてない	身の調子が悪い	やせるため
全校	52.2	21.9	13.2	7.2	4.5

専門部に 保健給食部 設置

昭和52年

食物の

三つの目的

教諭板倉文枝

わが国の学校給食制度も実施後三十一年目を迎え、学校給食へ米飯の導入が制度上明確に位置づけられてから、一ケ年を経過した。

本市でも、六月より週一回米飯給食を実施することになった。米は、一・二・三年八〇g、四・五・六年九〇gである。米飯は、あつみ製パン会社より、学級別に飯缶で炊かれ保温材を使用したパン箱に入れて配布されるので、児童は、温かい、おいしい米飯を食べることができるようである。

たべものの三つの目的
人間生命の糧である食物には三つの目的がある。

一つは人間という神秘的な機械の燃料として重要な役割をもっている、恰もそれはエンジンの燃料、ガソリンと同様な作用をもっている。食物の大部分は体内で消費され更に

島三小児童会係り小峰教諭
はじめて、お年玉つき校内

校内年賀 ハガキ実施 発行について

昭和52年

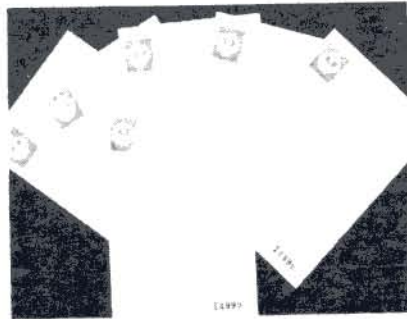
複雑な分解作用をおこし熱や力を生じ、常に一定の体温を保ち活動することができる。二つには、この神秘的機械の組立材料となることである。筋肉をはじめ、毛髪、爪にいたるまで又胃腸、心臓肺臓などの諸器官はいずれも食物中の種々な成分から作られていゝる。前者は主に澱粉や砂糖、脂肪の類であり、後者は主としてたん白質で、この他種々無機質や脂肪もこれを補佐する。三つには機械が組立てられ燃料が整えば、いよいよ運転をせねばならない。運転をするには機械油が必要である。この潤滑油に相当するものがビタミンである。健康であるためには食物と栄養素のバランスを考えねばならない。市教委より配布される学校給食献立表は、以上のような事を十分考慮されて作製されているので、米飯給食が取り入れられて、よりよい楽しい給食が出来るものと期待している。



校内年賀はがき作りにはげむ
—— 島三小児童役員 ——

年賀はがきを児童会の手で、発行するようにしました。これは、年に一回、先生や友達に年賀はがきを出し合い感謝の気持ちをあらわすと共に、おたがいの友情を深めることをねらい、また、年賀はがきの正しい書き方を学習し、はがきの売り上げ額の一部は、歳末助け合い募金にします。年賀はがきは、最高枚数を低学年は一人十枚、中学年は

十五枚、高学年は二十枚とし、五枚一組十五円とします。一枚三円になりますが、紙代一円、印刷諸雑費と賞品代一円歳末助け合い募金一円と考えています。ポストは、校内に町内別特設ポストを二十八もうけ、その中に、二十三日までに入れるようにしています。配達は、二十四日に町内の部長・副部长により整理し、



代表委員会

元旦に配達されたのは島三小年賀はがきだけでたいへん好評を博しました校内年賀はがきを今年も実施するように代表委員会で決定し、取りくんでおります。年賀はがきは、運営委員が昼休み時間を返上し、朝早くから放課後おそくまで一枚一

郵便袋に入れ、封し、町内別に部長さんが家に持ち帰り、保管し、一月一日に、部長・副部长により各家庭に配達をします。一月一日に配達することは色々問題がありますが、会員の皆様の町内での協力・はげましをお願いいたします。また、新年になり、お年玉抽選会を予定しております。

枚丁ねいに手造りをし、二万枚余りを作成し、五枚十五円で発売も終了しました。一枚三円のはがきには番号がうってあり、新年おたのしみ会の時に抽選をやり、賞品をやるようになっております。今年には全員に参加賞があり、学用品、スポーツ用品がたくさん準備されております。また、校内年賀はがきで出た余剰金は、年末助け合い運動募金にあてております。尚、配達は元旦の十時頃、六年生の町内役員を中心にやります。区分けやいろいろな苦勞がありましたので、お母さんたちからも感謝の一声をかけて欲しいと思います。



よい子の投函を待つ町内別ポストくん

長崎県学校保健会

●朝食ぬきの実態

学年	殆んど食べない
1	4.2
2	4.7
3	5.1
4	2.4
5	3.9
6	4.1

●食べない理由

原因	何となく食べない
全校	52.2

一つの人間として重要な役割を機械の燃料として重要な役割をもっている、恰もそれはエンジンの燃料、ガソリンと同様な作用をもっている。食物の大部分は体内で消費され更に

昭和46年3月調査結果

男 子			女 子		
希 望 職 種	人		希 望 職 種	人	
船技	15	員	教 美	32	師 師
運バ	12	師	商 容	17	師 売
イロ	11	手	ス チ	16	員 10
大工	9	士)	会 ヴ	5	員 5
大商	7	官	婦 人	5	官 手
口	7	売	ブ ロ	5	手 婦
医 教	6	ク	看 護	4	師 師
公 政	4	師	メ ラ	4	他 14
そ の	4	師	カ の	3	
	4	員	そ	4	
	4	交		4	
	11	他		11	

〔質問一〕

あなたは、大きくなったらどんな職業を選びますか。

「テレビ」と「マンガ」の中で、毎日を通して行われているといわれる現代の子ども達は、自分達の将来の「職業」というものに対して、どのような考えを持っているのでしょうか。前回46年3月に「ぼくとわたし」が選んだ職業」と題して、当時の六年生二〇九名、(男九四・女一一五)に実態調査を実施してあります。その当時のデーターと今回のデーターとを比較しながら、子供達の考えや夢を知り、成長して行く我が子の未来へのお手伝いが出る父に母になりたいものです。今回は、六

「ぼくと、わたしが選んだ職業」

昭和52年

昭和52年11月調査

男 子				女 子			
希 望 職 種	6	3		希 望 職 種	6	3	
ブ	15	14	手	先 生	26	16	(ピアノの先生を含む)
技	14	6	師	商 売	7	28	母 母
商	7	15	売	保 母	16	8	婦 師
漁	5	9	師	看 美	4	12	ス 員
船	4	4	員	ス チ	7	9	社 員
公	5	2	員	会 ヴ	4	4	社 員
会	4	3	員	ス 会	7	0	社 員
パ	4	2	ト	医 獣	4	2	師 師
大	0	5	工	バ 技	4	0	師 師
医	2	1	師	公 政	2	1	ト 員
運	2	2	士	そ の	3	0	(和 洋 裁)
先	1	1	生		1	1	員 手
そ	10	14	他		1	0	他
					14	7	

年生一七六(男七八・女九八)、三年生一七六(男八〇・女九六)に対して調査してみました。六年生と三年生とは、どのように違った数値を見る事が出来るかと思ひ、両学年を対象に調査してみました。
 ○男子の「プロ選手」の中には、トップに野球、続いてレーサー・サッカー・バレー等が上っております。
 ○46年の船員(十五名)の中には、漁師を含んでいる様です。
 ○女子のトップに「先生」となっておりますが、これには「ピアノの先生」になりたいという希望が六年生で約三分の一、三年生で四分の一を含みます。

冬休みこづかい 学年別一人平均

昭和53年1月

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	愛 護	全校平均
買ったもの								
学 用 品	169 ^円	173 ^円	176 ^円	188 ^円	193 ^円	157 ^円	70 ^円	176 ^円
お も ち ゃ	455	555	592	915	476	700	726	615
本	150	198	219	269	242	239	147	219
た の べ み も の	438	361	485	532	544	425	310	464
そ の 他	266	375	572	529	1,227	991		660
合 計	1,477	1,664	2,048	2,433	2,682	2,512	1,253	2,134

おとしだま 学年別一人平均・男女別最高額

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	愛 護	全校平均
一 人 平 均	10,289 ^円	9,814 ^円	12,069 ^円	13,130 ^円	13,235 ^円	14,807 ^円	4,156 ^円	12,187 ^円
最 高 額	男	26,300	29,800	37,000	35,500	32,500		
	女	50,500	30,000	60,000	43,000	48,000		

島三小育友会 発足三十周年記念式典

昭和53年

祝辞

島三小同窓会会長
林田俊雄



厳しい寒さの中にも、梅の香りや、野山のたたずまいも、ほのかに春の気配が漂い始めました。この佳き時に、島三小育友会発足三十周年記念式典が挙行されますことは



真に意義深く、喜びにたえない処であります。そもそも育友会は、終戦直後社会情勢が混とんとしていた時、時代の要求により、父母と教師の会が創設せられ、尚一層民主的な学校教育を推進するため、育友会として歩みを続

けて今日に及んだと承っております。この間、故初代大沢会長より、現在の林田会長に到るまで十二代、種々迂余曲折を経て、困難ないばらの道を克服してたゆみなき歩みを続け、今日の輝かしい成果を収められたのであります。この間、天皇皇后陛下の行幸啓、又は、ソニー賞をはじめ数々の受賞の光栄に浴し、県下に島原三小ありと高く評価せらるるようになったのであります。これまったく、歴代の校長先生始め、諸先生や育友会の方々、また、ここに学ぶ多くの子供さんが三位一体となつて努力せられた賜でありまして、これらの方々から敬意を表する次第でございます。更に、去る昭和五十一年には、島三小創立百周年の祝典が、同窓会を中心として行われ、これを契機として、昨年十二月三日島三小同窓会の結成をみるに到つたのであります。

今後同窓会は、島三小の一つの支えとして、育友会の方々とも相協力し、母校の発展に少しでも協力できるよう努力したいと考えている次第であります。ここに、母校島三小の隆昌と育友会の輝かしい発展を心からお祈りして祝辞と致します。

家庭とは



学校長 原口 晃



○父親と母親とは
父親に対し
母親が一步ゆずつて、父親を一家の中心に立て、行動によつて子供たちに示してやるのがよいと思います。
「お父さんがきびしくなさるときは、心の底ではあなたがたを立派にしたい、たくましい人間に育てたい」という気持ちで、ああして叱つてくれたんですよ。こつてきかせるのがよい。このように、子供に父親の立場を理解させるのが母親の役目だと思います。
・母親については
父親は陰で子供に対し「お母さんはお前たちのためになら、どんなことでもしよう」という気持ちでいっぱいだよ。本当にお母さんは偉い人だよ」と常にほめるようにしたいものです。子供は父親を更に偉い存在だと思ふようになり、母親

○明るい家庭とは
親は兄弟姉妹を人格的に平等に扱うことが大切です。うっかり兄弟姉妹を比較しないようにしましょう。長幼の順序はいつも考えておきたいものです。
兄弟を先にすることです。そうすると、兄弟は責任を感じて、弟妹に親切を尽くすようになると思います。ほんのちよつとでも、自発心が芽生えたら大きくとりあげて認め、ほめてやることは極めて大切なことです。これが自立心につながるっていくのです。
・親のことばどおりに、子供の運命はつくられていくことを知っておくべきです。「三つ子の魂は百まで」というのは真理であり、どんなことばだろうと、不用意に言ったことばも子供の心の底にきざみこまれるのであります。

男	子
希望	職
船技	選
運	ト
バ	イ
大	工
商	務
コ	治
医	の
教	外
公	務
政	交
そ	他

○女子のトップに「先生」となっており、これが「ピアノの先生」になりたいという希望が六年生で約三分の一、三年生で四分の一を含みます。

学	用
買ったもの	品
学	用
おも	ち
本	
た	も
の	も
そ	の
合	

一	人	平
最高額		

復活!

運動会に育友会参加

親たちがグラウンドに立つ

副会長 佐久間 ガクジ

心配していた雨もすっきり 十月一日、島三小秋季大運動会が開催されました。

昭和53年



いざ斗わん……堂々の入場行進……

そして今年、久しぶりに運動会のグラウンドに親たちが立つことができました。

「子どもの教育は学校にまかせておけばよい」という考えは絶対まちがいでであると私は常日頃から信じています。

入学式・卒業式・参観日など親が学校に出かけることはあっても、運動会の日ほど、ほとんどの児童の家族が学校に集まる日はないと思います。

運動会で親がグラウンドに出て競技し、その真剣な態度を子どもたちに見せることも教育の面では大いに効果があると思います。

このような意味でも、今回久しぶりに復活した育友会種目も大いに意義があり、今後とも続けていくべきだと考えます。

最後になりましたが、運動会のプログラムに育友会種目をとり入れて下さった校長先生はじめ諸先生の御好意に深く感謝し、また御協力いただいた会員の皆様にお礼を申し上げます。



運動会に思う

一職員をつぶやき

運動会ねえ。大変、よくできたのではないかなあ。天気も良かったし、子どもたちもよくがんばったし、どの係も一生懸命だったし、応援もよかった。特に悪かったことはいえど、何だろうなあ。小さい気付きはたくさんあるけどなあ。そういえば、二日後に家内から「ねえ、お父さん。三小の運動会はちっとも面白くなくそうですね」には参ったな。くわしく聞くと、町内

対抗リレーがないのは三小だけらしく、それがないために面白くないとか。今年を取り入れる方向でだいぶ検討されたけど、町内の人数や合併問題方法等解決できなかったことが十分理解されてもらえなかったことは残念だったな。「ちっとも面白くなかった」そのお母さんは、自分のお子さんの真剣な表情をごろんならなかつたのかなあ。どの演技にも、練習に打ち込んできた姿が見られたようだけど、練習といえど、保育園の先生に「運動会も近いけど、練習、大変でしょう。チビちゃん相手で」とたずねたことがある。「いーえ。運動会のために練習しているのではないんですよ。毎日の練習を通して子どもたちの集団生活、躰力づくりを学ばせているんです」「だから、当日だけが運動会ではないんですよ」と話された。ただ運動会を当日のショーとして見るのではなく、練習、学習を通して成長しつつあるお子さんの一部分を見、励ましの機会ととらえてもらえればと思う。

はじめの試み

—学級対抗バレーボール大会—

学級部 古井久輝

昭和53年

学級育友会の出席の向上に努めることに力を入れ、どのようにすれば目的達成が出来るか、話し合ってきました。低学年は毎回八十〜九十%の高出席ですが、高学年になると、クラスで多いとき十二〜三人位で、それも出席される方は決まっている人ばかり。一人でも多くの人に出席して頂くためには、どのようにしたらよいか、部会のために話し合いました。その方法として、本年度学級部の大きな行事として、浮び上がったのが十

親子フットベース

ボール大会



八月二十七日開いた水泳大会では、水球など団体競技を取り入れたことで、一層楽しい大会になりました。九月二十四日の親子フットベースボールは今年初めての取り組みでした。これは、女子の競技

国体種目の一ツ

水球をとり入れた水泳大会

体育部 片山千代薫

種目が少ないところから、取り入れたものでした。参加された親子のほとんどが心から楽しまれ、もう一度、機会を設けてほしいという幾人もの声がでるなど好評のうちに終わりました。



第二回 バレー大会より

いざ
生はじめ諸先生の御好意に深く感謝し、また御協力いただいた会員の皆様にお礼を申し上げます。

成功だった

自転車点検

昭和54年

交通部

岡本正秀

発端は市内二ヶ所で行われた抜打検査で不合格の自転車が非常に多いと云うことから安全協会がこれを重視し育友会へ相談がありそれでは今年「国際児童年」でもあるし、又安全体策の上からもぜひ取り組もうと思ったのが七月に入ってからだと思いま

す。その後各校の交通担当の方々に集まっていたいただき協議した結果賛同を得て実施することになりました。三会小、三会中、五小は学校独自に実施しておるとのこと。残り七校が夏休み前に一斉に行うことを決めたわけですが、最初の予定日が雨又次の予定日も雨となり結局は夏休みに入ってから各校バラバラの実施になったのは非常に残念でした。それでも一番乗り気のなかつた二中が台数で一番多く熱心な菅君のいる二小がわりと少なかったのは一寸驚きでした。他の学校の担当の方々も非常に熱心に御協力いただき

なあ。そういえば、二日後に家内から「ねえ、お父さん。三小の運動会はちつとも面白くなかそうですね」には参つたな。くわしく聞くと、町内



始めての実施としてはまずまずの成功ではなかったかと思えます。これには業者の方々、警察安全協会、新聞社、又スポーツ放送を流していただいたNBCの方々のおかげがあったればこそと深く感謝しています。今後は残りの自転車をすみやかに点検することは勿論乗り方等についても研究する必要があるそうです。最後に育友会代議員の方々には何度も電話でお願いし心より御協力いただき本当に有難うございました。

のシヨクとして見るのではなく、練習、学習を通して成長しつつあるお子さんの一部分を見、励ましの機会ととらえてもらえればと思う。

巡回映画

街頭補導

懇談会

昭和54年

やっとできた給食試食会

保健給食部 芝田 扶実子

保健給食部年間の行事として
○目標：学校給食の内容充実
と健康安全に対する
意識の高揚

○活動計画

- 一、試食会
- 二、米飯給食施設の見学
- 三、栄養士と調理員との懇談会
- 四、便所の改善（水洗便所）
- 五、病気やけがの実態調査
- 六、保健的なしつけの徹底

八月二十日頃より、希望町内単位に、映画会（一本、二十五分程度）と、その後、お父さん、お母さん方との懇談会を実施いたします。

出席は、各町内の父母、学校からは、学校長、教頭、町担当の先生、部担当の先生の内数名、育友会からは、会長、副会長、部長、副部長の内数名の方々をお願いし、膝を交えて、子どもたちのことについて懇談会を実施したいと思います。

◎街頭巡回指導

夜間外出、ゲームセンター、大型店等への不必要な出入り等についての巡回指導を計画しております。

以上のような内容項目でした。始めに便所の改善について育友会長、環境部長、保健給食部の連名で校長先生に要望書を提出。その結果、水洗トイレは予算の関係上まだ無理のようで、一部新しい便器に取り替えられました。抜本的改善は時間がかかりそうです。

去る三月三日、保健給食部初めての試みで栄養士の先生二人と三小の調理員の方五人をお招きし、図書室で懇談会を開催しました。栄養士の先生からは学校給食の献立基準、栄養食品の摂取量など専門的なお話をいただきました。また、高原学校給食主任者会議というのが月に一回行わ

れて、市の教育委員会から一名、栄養士二名、学校主任一名、この人達で献立の基準が示され、これを基にして献立表の作成がなされるそうです。特に食品添加物、冷凍食品などには気を使っているようでした。

また、養護の山田先生より三小の肥満児の実態調査についてローレル指数のお話がありました。三小ではやや肥満児が多いのではないかといい事でした。これは食生活と運動とのバランスが伴うことで、各家庭での配慮がもっとも大切ではないかということ、肥満児教室への不参加が多いということ等です。

次に調理員の方のお話では三小は他校にくらべて残飯が少ないとい

うことでした。これは児童の皆さんが良く食べているという事で大変よろこばしい事だと思っております。



三小ちびっ子祭り 開かれる

主体的な生活態度の育成をねらって活動している児童会（会長 浜本孝徳）が、三月三日のひな祭りに、はじめて三小ちびっ子祭りを開いた。計画・運営いっさい子どもたちの手によりなされ、校長先



生をはじめ、他の先生方をひつくりさせた。ちびっ子祭りのプログラムは次のとおりです。

- 一、はじめのこぼり
- 二、歌（ひなまつり）

- 三、よい子の表彰
- 四、発表

- ① バレークラブ発表
- ② 笛の演奏（三年四組）
- ③ フットベースボールクラブ発表
- ④ 紙しばい（五年二組）
- ⑤ 焼き物クラブ発表
- ⑥ 体操クラブ発表
- ⑦ ゲーム（四年三組）
- ⑧ 将棋クラブ発表
- ⑨ クイズ（四年四組）
- ⑩ 無線クラブ発表
- ⑪ 劇（五年三組）
- ⑫ ししゅう・編み物クラブ展示発表
- ⑬ 科学クラブ展示発表
- ⑭ 白山地区バレエ、サークルクラブの紹介
- カ
- 六、おたのしみくじ
- 七、おわりのことば

三校時、四校時の二時間で実施したが、時間のオーバーがあったが盛会であった。

よい子の表彰は、各廊下によい子のポストを設置しその中にいれられた子どもを校長先生からほめてもらっていた。十四名の子どもたちであったが、非常によいことであると思う。よい子の表彰は学期一回ぐらいはほしいものです。



改築が待たれる老朽校舎

一日も早い校舎改築を

高原 寿一

昭和54年

夏休みの整地作業につきま
しては、私の判断の甘さと連
絡不十分により、会員の皆様

方に変御迷惑をおかけ致し
ましたが、雨天にもかかわらず
多数御参加頂き、無事予定

上げますので各町内での
方よろしくお願ひします
◎街頭巡回指導
夜間外出、ゲームセンター
大型店等への不必要な出入り
等についての巡回指導を計画
しております。

を開催しました。栄養士の先
生からは学校給食の献立基準
栄養食品の摂取量など専門的
なお話をいただきました。
また、高原学校給食主任者
会議というのが月に一回行わ

べていると
いうことで
大変よろこ
ばしい事だ
と思ってお
ります。



は次のとおりです。
一、はじめのことは
二、歌（ひなまつり）

が、非常によいことであると
思う。よい子の表彰は学期一
回ぐらいはほしいものです。

の作業を進めることが出来ま
した事に対して心より感謝申
し上げる次第でございます。
先般、環境部で視聴覚器材
及び校舎の点検を実施しまし
たところ、校舎のいたみが目
につきました。窓枠よりの雨
漏り、床板の損傷、体育館横
の校舎は壁の脱落、雨天には
教室や廊下に雨もりがしてお
りました。一応の補修はして
頂きましたが、木造校舎の雨
もりは、仕事された方も自信
はもてないそうです。

次に懸案のトイレ改善の件
ですが、市当局の話によりま
すと、校舎改築時に考慮した
いとの事です。臭いや虫等、
薬品で処理出来るものは良い
としても、お釣り（はねかえ
り）はどうにもなりません。
子供達はかなり我慢している
ようです。生理的現象を我慢
する事は苦痛であり、健康上
も好ましくありません。心身
共にさわやかな学校生活を送
られる環境作りこそ、我々大
人の責任ではないかと存じま
す。

以上の諸問題解決には、校
舎改築以外にはないと考えま
す。承るところでは、市当局
が教育環境整備三ヶ年計画な
るものを立案されている由、
本校にも改築の構想等、意向
打診があり、校長先生も一応

の青写真を描いておられるよ
うです。しかし乍ら、皆様も
御承知の通り、白山公民館の
改築等問題もあり、校舎改築
が年度当初の事業に含まれる
のが疑問であります。

「バケツの音と雨もりの授業」

育友会長 前山 四郎

ならない問題だと思えます。
早期改築の為、先輩諸氏並
びに御父兄皆様方の御指導と
御尽力を賜りたく御願ひ申し
上げます。

※当初改築予定校舎は体育館
横の木造校舎です。

一学期の低学年の授業参観
と懇談会が雨天の中で行なわ
れました。二年生の教室が木
造校舎の二階で多数のお父さ
ん、お母さんがおみえになっ
ておられました。先生が突
然廊下に走り出てこられました
た。どうされたのですかとお
たずねいたしましたら、雨漏
りがひどいのですよ、とおっ
しゃって、バケツを三つ四つ
手なれた格好で教室内に持ち
込まれました。子供さん達は
黒板と先生の顔とバケツの雨
音とを交互に見くらべながら
授業をうけておりました。お
父さん、お母さん方も顔を見
合せて、苦笑いをなさって
いらっしやいました。これで
は雨の日の授業はほとんど進
まないのではないかと思います。
又この二階建ての校舎の

壁も所々大きく崩れ落ちて、
大きく紙がはってあり「さわ
るな」の文字が書いてありま
す。過日公民館で、白山地区
の市長を囲む懇談会の席上、
冒頭に三小の木造校舎改築の
要望が出されました。また、
市教委より学校へ校舎改築の
青写真の提出の指示があった
と、代議員会の席上校長より
話がありました。市教委とし
ては、むこう三年間の計画だ
そうですが、ぜひとも五十五
年度の事業として繰り入れて
いただきたいものだと思います。
育友会の方々、同窓会の方々、
地域の方々の方々の総意によ
り改築を促進し、水洗便所を
含んだ三階建の鉄筋の校舎が
旧校舎に並び立ち、新校舎か
らあふれる子供さんの元気な
声を聞きたいと思えます。

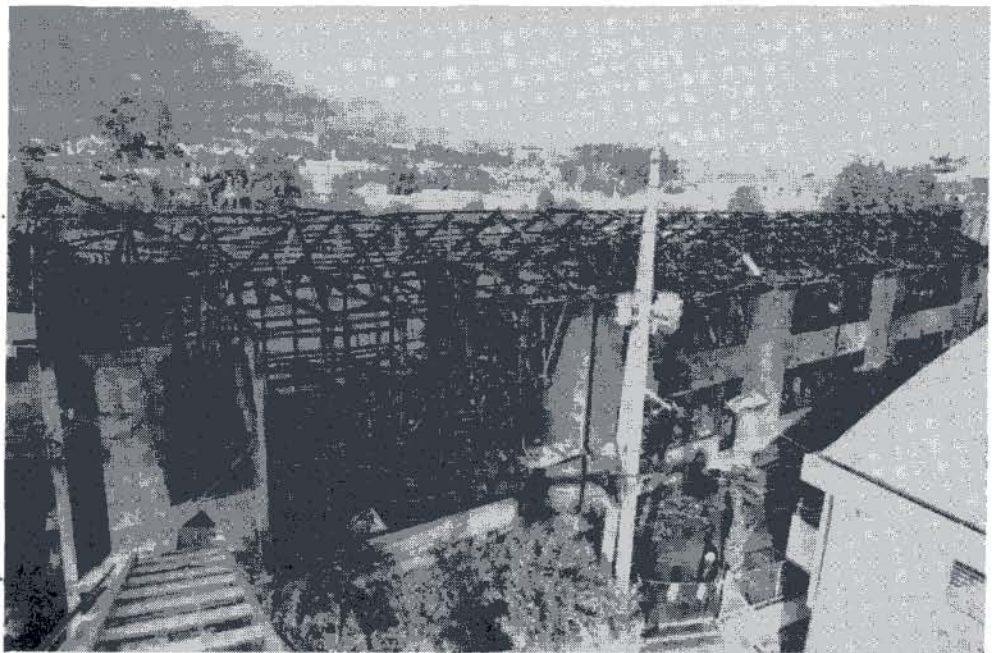
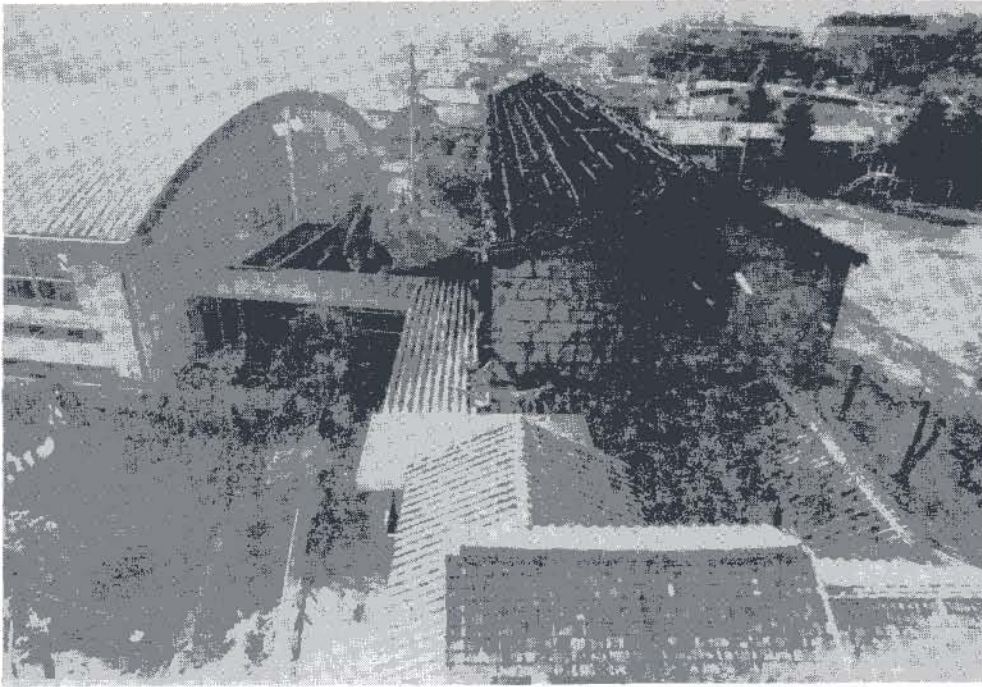
木造八教室全焼！

昭和55年

(昭和五十五年一月十五日の
島原新聞記事より抜粋)

十三日午後十時二十分ごろ、島原市立第三小学校（江島九香校長・児童千三十六人）の南側校舎一階から火の手があがっているのを、近くの家にラーメンの出前にきた同市白山町・ラーメン屋「雲竜亭」の古賀逸雄さん（二三）が発見、島原消防署に通報した。同署は通報と同時に第二次出動を発令、同消防本部と市消防団、あわせて二十九台の消防車が出動して消火に当たったが、考朽木造校舎のため火の回りが早く、かわらぶき二階建て八教室（視聴覚、資料、家庭の三特別教室と五普通教室）延べ八百六十四平方メートルを全焼し写真として約四十分後に鎮火した。

全焼した木造校舎は戦後の昭和二十六年八月に建てられた木造校舎で最近では老朽度ひどく、昨年暮れにも地元の父兄たちから改築の陳情書が市と市議会あてに提出されていた。



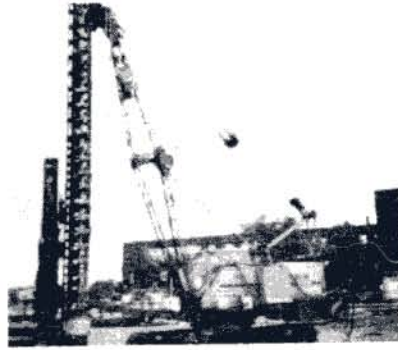
元副会長佐久間ガクジ氏によると「陳情書が市へ提出され校舎改築が議会で決定した。その日の夜の出来事」だそうである。

昭和二十六年八月に建てられた木造校舎で最近では老朽度ひどく、昨年暮れにも地元父兄たちから改築の陳情書が市と市議会あてに提出されていた。

校舎改築いよいよ着工

年内に完成の予定

昭和55年



//危険校舎//なるほど、校舎の壁も崩れ落ち、窓を開け締めする時など、細心の注意をもって扱わないと壊れそう、雨の多い時期ともなるとバケツと、雑巾を手に、天井を眺めながらの授業です。これでは、授業も満足にできません。うもありません。

年内には立派な校舎が完成の予定です。

いま教室不足で、思うように勉強ができず、プレハブ校舎を利用しての児童達の一日も早い完成を願う気持が手に取るように感じられます。

建設場所は火災によって焼失した木造校舎跡と、隣接する便所を取壊して、いまのコンクリート校舎とドッキングし、各階ごとに渡り廊下で結ばれ、各階に便所及び手洗場を設けられるそうです。

延面積は二千八十一平方メートルの鉄筋コンクリート三階建て、総事業費は約二億七千九百万円

一階……保健室、資料室、理科室(準備室)

二階……視聴覚室、家庭室、図工室(準備室) 普通教室、放送室、資料室

三階……普通教室、資料室、音楽室(準備室)



落成まじかな新校舎

今後ともよろしくご協力の程お願い申し上げます。

去る一月十三日夜の本校木造二階校舎の火災に際しましては大変ご心配をおかけしました上に、有形無形に亘ってご援助を頂き、心より感謝申

し上げております。優れた消火活動により被害も最小限度に食い止めて頂きましたので、教室もどうか不足することもなく、平常通



学校長 江島 九香

あたたかい心に感謝

よると「陳情書が市へ提出され校舎改築が議会で決定した。その日の夜の出来事」だそうである。

りの授業を続けることが出来て何よりでした。

消失した教材・備品等につきましても、市教育委員会の特別のおはからいで、早速に必要なものから購入して頂き学習に供しております。又市より焼失学級の児童一人一人に過分のお見舞金を頂き、本当に有難いことでございました。その上本校の育友会からもお見舞にりっぱなものを頂きましたし、市内の各小中学校児童生徒の皆さんからは三小のお友達が「元気で頑張るように」と、代表の人が学校まで来て、お見舞いを頂いたことも忘れられない感激でございました。待望の新校舎建設についても現在市当局で設計準備中でありまして、本年中には三階のコンクリート校舎がお目見えするものと期待いたしております。

このような各方面からの善意あるお励ましと、ご支援に對して心より感謝申し上げますと共に、これに答えるべく一層心をひきしめて三小教育の実をあげるべく精進する覚悟を新たに次第であります。

バザー行われる

事務局より

総決算は？

昭和56年

福島 一美

皆様のお陰だと感謝しますとともに、ホッとした気持ちでいっぱいでした。

火災から一年余、今では立派な新校舎も出来、落成式も終わり、子ども達も新校舎での授業に心弾ませていることと思います。

そんな中で、育友会員から声がかかり、自分達の手で何か学校に記念になる物を贈りましょうということバザーを思いたち、時期的に一番寒い時でもありましたので心配でしたが、予定通りにことが運び、当日も天候にも恵まれ盛大な裡に終ったのではないかと、嬉しく思いました。

ふりかえってみますと、皆様から、つぎつぎに寄せられてくる沢山の品々を見ながら皆様の暖かい御協力に目頭がジーンとする思いをしました。預り物の品に値段を付けるのに、出された方々の希望する値段が付けられておらず腹立たしさを感じたことと思えます。我々も一品残らず、多くの方に喜んで買っていただくことを願いながら付けました。お陰様で一時間ちょっとで殆んど売れましたことは、

大混雑



新校舎落成祝賀バザー総決算

島三小育友会事務局

〔支出〕

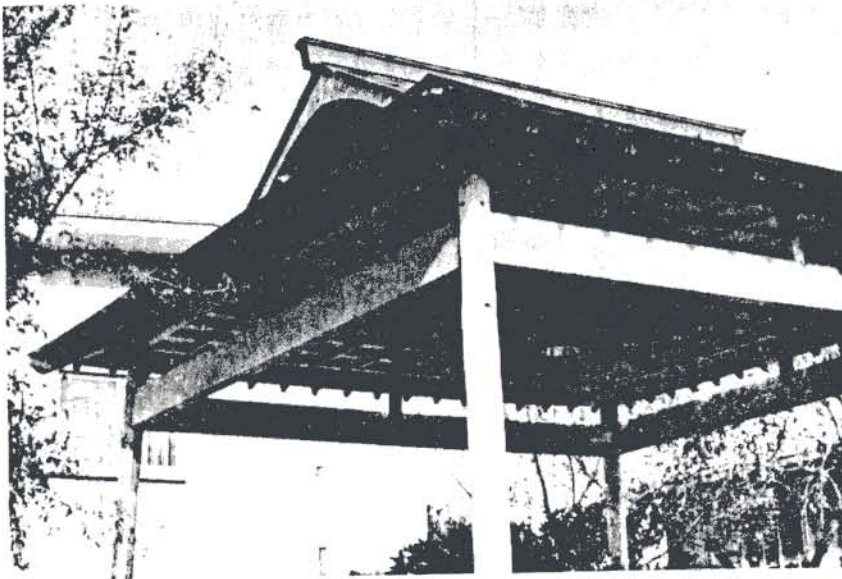
項目	金額
事務消耗費	43,500円
印刷費	25,000円
材料費	174,700円
燃料費	14,000円
道具・器具費	13,900円
写真費	2,600円
借用費	20,000円
合計	293,700円

収益金 2,164,600円

1. 体育館に並べた長机..... 185脚
2. 出品数..... 約4,850点
3. 協賛商品..... 124店
4. 開門前並んだ人数..... 約430人
5. 一番はじめに並んだ人の時刻(開門9時)..... 7時55分
6. 品物売りきれた(約9割)時間..... 35分
7. 食べたうどん玉..... 2,100玉
8. ぜんざいに使った砂糖..... 70kg
9. ぜんざいに使ったあずき..... 4.0kg
10. お金のうごき

〔収入〕

項目	金額
食券売り上げ額	414,800円
バザー売り上げ額	1,872,500円
現金寄付	171,000円
合計	2,458,300円



照明設備も完備した土俵場

土俵場完成

昭和56年

土俵開きを終えて

育友会長 前山 四郎

九月五日、台風一過の秋晴れの日、島原市長・教育長始め、多数の御来賓の方々の出席の元に、由緒ある吉田司家によって、古式にのっとりた方屋（土俵）開きを行い、子供さん達の紅白に分かれての相撲大会がお父さん、お母さん達の歓声の中で行われました。この様子は各新聞の地方欄をも賑あわせました。

老朽校舎の焼失の翌朝、授業の正常化の為に学校と育友会が一体となつての努力の姿が新聞に記載された事も記憶に古くはありません。春の運動会・新校舎建設・落成式・バザーの賑わい・二百万円を越す益金・記念事業の為の会議の数々、土俵建設決定と苦しい中にも楽しい行事の数々でした。さて、土俵を作る事は代議員会で決定したものの、どのような土俵をどの話になりましたが、銅板で屋根を葺き、材を使用した土俵を作る事になりました。屋根の形が明確でない、ならば熊本の吉田司家へお伺いしてみようとおつとりがたなの訪問でしたが、小学校で土俵を作るの

ならと二十四世追風（司家御当主）から方屋の作り方を丁寧に教えていただき、屋根の設計図をいただきました。色々相撲にまつわる話をお聞きし、土俵の事を方屋という事まで聞いて帰りました。工事は代議員の熊本さんの手で進められ、順調に進みました。方屋開きを九月五日と決定し、吉田家にも連絡しました後、台風接近、海も渡れるのか、陸路ではどうかとテレビと睨めっこ、校長先生の三小の行事に雨はありませんの言葉を感じ出し、四月、三角経由で熊本へ渡りました。

新校舎と方屋は運動場を伸にして向いあつておりますが、「より良い物を子供さんに」を合い言葉に、地域の各方面の方々から物心ともに御協力を頂き、深く感謝申し上げます。

教頭先生はじめ、諸先生方がまわしをしめて、子どもさん方に胸を貸していらつしやいます。方屋が触れ合いの場として、体力向上の場として、また礼節の場として活用される事を望んでやみません。

する値段が付けられておらず腹立たしさを感じたことと思います。我々も一品残らず、多くの方に喜んで買っていた多くの方を願ひながら付けました。お陰様で一時間ちよつとで殆んど売れましたことは、



〔支出〕

項目	
事務消耗	
印刷	
材料	
燃料	
道具・器具	
写真	
借用	
合	

収益金 2

第一回 町内子ども クラブ相撲 大会開かる

昭和57年



まわし一枚の子どもの姿を見ると、生きいきとして清潔で健康美に満ちあふれ、神事としての相撲の歴史がわかるような気がします。

相撲は強い瞬発力とそれをささえる高い調整力、関節の可動性が要求されます。それにもう一つ、勝とうとする旺盛な気力も必要です。ですから、練習は地味で球技のような活発さはありませんが、腰の鍛錬を主にバランスと集中力を重視しています。「強靱な精神」と「強い足腰」を養

うことは、現在の私たちの課題の一つです。

当日は、三年生以上の子どもが参加しました。出場できた子どもはきつとよい思い出ができたにちがいありません。多くの観客の前での正式な競技の経験は一生のよい思い出です。今後、選手の一挙一動を自分におきかえ、より深く観戦できるのも、経験した者だけの特権であるともいえません。ですから、相撲を経験したことは体力のことだけでなく、今からの生活を豊かにすることに繋がります。

大会後、「相撲をとらせて」との声をよく聞くようになりました。

今回の相撲大会が子どもに相撲をとる機会を与え、相撲のよさを気づかせたのです。条件を整えれば子どもは伸びます。

子どもの成長を祈る一人として、このすばらしい企画をされ、また、協力下さった方がたに深く感謝いたしております。(体育部)



前山会長表彰を受ける

七月二十八日長崎県PTA
研究大会において

現島原三小育友会長、前山四郎氏は、昭和五十三年度、市連P副会長として、県P大会を島原市連Pが受け持つや大会の準備、運営に献身的に活動して、大会を大成功に導いた。

なお、昭和五十四年度は、島原市連P会長として、市内の各単Pの意見を聴取し、子どもの健全育成をスローガンに、画期的な町内対抗女子フットボール大会を企画し、特に女子の対外試合の少なかつ

た女子を大変喜ばした。

また、お城一周駅伝大会を企画し、個人的なマラソンを団体化して、町内子ども会との融和を深めさせた。

このように、いろいろの行事を企画し市連Pに活力を与え、連Pの活動の基盤をつくった。

なお、島三小育友会長として昭和五十三年就任以来育友会活動の総ての面に積極的、献身的に活躍された。右記の旨をもって、今度県連Pより表彰されました。

前山会長
急逝さる
昭和57年

遺徳を偲んで

副会長

芝田 扶美子

謹しんで、故前山会長の追悼のこたばを申し上げます。

前山前会長は昭和五十三年三小育友会長に就任され、と

車を守って

楽しい自転車乗り

交通部 小島 健一

使用して参加しました。

交通部主管の「楽しい自転車乗り大会」は、交通安全協会をはじめ、島三小・三小校区内自転車店、交通指導員各々の協力を得て、十月二十四日(日)午前九時から三小運動場において開催されました。子ども達の自転車事故防止と交通安全マナーの向上を目的としたこの大会には、三年生以上の子ども達四十三名が点検シールを貼った自転車を

競技終了後、自転車店の協力でゲームに興じたあと、成績発表、表彰、講評と続き、参加者全員が自転車店からの記念品をもらって、正午すぎ閉会しました。

なお、各学年の上位入賞者は次の通りです。

- 〔三年〕
- ①本多敏高 ②畑 重行
- ③石山貴博
- 〔四年〕
- ①隅部祐二 ②横田賢二
- ③本多清子
- 〔五年〕
- ①小島 薫 ②中村健剛
- ②森川幹夫 ④井口徳一
- 〔六年〕
- ①上田 勇 ②山本公晴
- ③原口和博 ④梅林祐夫



昭和57年



副会長

芝田 扶美子

謹しんで、故前山会長の追悼のことは申し上げず。前山前会長は昭和五十三年三小育友会長に就任され、と

には会長の御遺徳を仰ぐ八百人余の御会葬者でございました。会長の残して下さった数々の業績を末長く育友会に引きつぎ、発展させていくことを念じつつ、前山会長の御冥福をお祈り致します。



- ① 小島 薫
- ② 森川 幹夫
- ③ 原口 和博
- ④ 中村 健剛
- ① 上田 勇
- ② 山本 公晴
- ④ 井口 徳一
- ④ 梅林 祐夫

よくばらないで



学 校 長
江 崎 勝 利

生活部の行事の中で最も大きな比重を占めている町内訪問は、八月十八日から十月十八日までの三ヶ月の長期にわたり、今年も町内代議員の方

がた、育友会員の皆様のご協力により全町内訪問を終わることができました。もし来年度も町内訪問がこなされるならば、もう少し短

期間で終わることができるよう工夫が必要ではないかと思

人間は面白いもので、とにかく忙がしいを連発している時は、率直に言ってみてあまり仕事はしていない。といって仕事がないのではなく、どれだけ頑張っても果たせないくらいに仕事を持っているのである。それも、自分が果たさなければならぬ仕事を……。

考えてみると、だまって仕事をしている時は、ものすごい量の仕事を、忙がしいのひとことも言わないで果たしているのである。とすると、何が仕事をさせないのかを追究してみよう。

語弊があるかもしれないが、自分をとりまく口が邪魔しているとき（乗らなきやよいのに）。さもなければ自分の口が先に出ているとき（人を邪魔している）。でなければ能力以上の仕事を安請負して手をつけ

きらないとき、等々である。か。ここまでくると「どうすりゃいいの思案橋」を歌わさるを得なくなる。もちろん歌ったからといって仕事が消えるわけではない。

解決は、まことに易しいこととて、仕事の一つ一つを片っぱしからしていくことである。それも、自分だけで出来る仕事は後まわしにし、人様へかける迷惑の大きな仕事から順に並べて、ときばきと処理すること。言いかえれば計画をたて即実行というひとことに尽きる。

頭は、使わなければだんだんボケるとか、仕事もおしみななくやっついていかなきや体がなまるのでは？と停年近くの方は考える。子どもの勉強・教師の仕事・家庭での仕事、みんなに通じる簡単な原理である。よくばらないで、一つのことから徹底的にを合言葉に。

昭和57年度 町内訪問実施状況

期 日	町 内 名	場 所	出 席 数	出席率(%)
8.18	白土舟津下	消防詰所二階	11(0)	58
19	坂下・八幡	島三小会議室	12(1)	46
20	栄町	"	14(2)	24
21	南風泊	吉田則正氏宅	11(2)	58
30	下川尻	下川尻公民館	26(0)	57
31	川尻	島原ドックハウス	16(0)	76
9.3	元船津・浦田下	橋村氏宅	27(1)	52
4	湊新地	児玉勝利氏宅	9(2)	43
6	南下川尻	南下川尻公民館	23(2)	52
9	蛭子町	浦田保育園	18(5)	86
10	有馬船津	浜田元成氏宅	15(1)	83
13	崩山	池田忠好氏宅	20(3)	77
16	白山	本田兼利氏宅	14(2)	108
17	緑町	緒方唯男氏宅	22(5)	76
22	新山西	下の湯	23(3)	47
24	桃山	児童館	10(2)	50
25	坂上	中川忠一氏宅	23(5)	59
27	霊南	中村信彦氏宅	21(4)	66
28	広馬場	白山公民館	8(0)	42
29	津町	珠林桂雄氏宅	10(3)	59
10.6	白土舟津上	上田氏宅	12(1)	86
7	浦田上	浦田保育園	22(0)	61
8	新山東	島中函工室	32(3)	42
18	中組	木崎潤蔵氏宅	12(6)	120
合		計	411(53)	57

()は男数

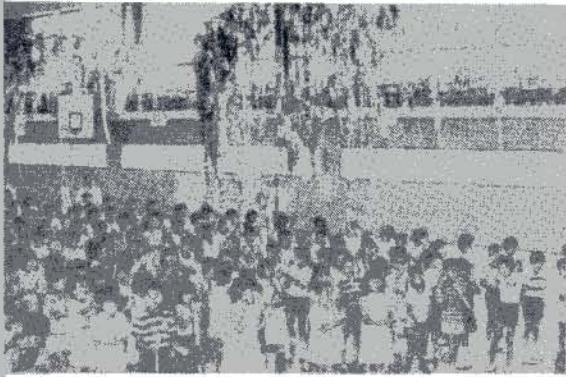
楽しく七夕集会

七夕は、中国に伝わる、星空をぶ台にした美しいすてきなお話で、年に一度けん牛と織女が会える日とされていきます。

学校でも、「伝統ある七夕の行事の意味を知り、全校で楽しく祝うため」に、七夕集会が開かれます。

今年も、クイズやゲーム、歌や合奏、げき、星の説明等、色々な内容で、楽しく行われました。

七夕をかざり、夜ながめた空は暗く、天の川は見る事が出来ませんでした。今年も又、会えなかったのでしょうか。



「赤おにと青おにのタンゴ」 歌・器楽・おどり 大熱演!

輝きが一つになった

音楽専科 佐藤 満 恵



11月19日第4回市民音楽祭から、5年生全員によるオペレッタ

夕日が背中を押してくる。もろくんの大きな声が舞台いっぱい響く。練習の時、断片的だった歌声が今日は続く。まっかにはほった子どもたちの顔、顔。一五八名の生き生きとしたひとみが、私の手先できらきらゆれる。踊りに気をとられ、最後の練習まで指揮に集中できなかった

った子どもたちに、板倉先生が最後に送った言葉。「歌っている時の君達の目の輝きは、最高にきれいだ。あしたは、その輝きを一つにして力いっぱい歌って欲しい。」そして翌日、期待したひとみは私が見ることができた。全員で歌えた喜びは、今まで味わったことのない、すがすがしい感動を私の胸に残した。

良き果実の収穫は

良き管理のもとで

育友会長 成瀬 博 功

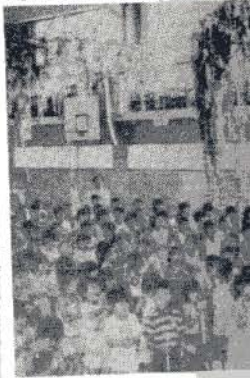


先日、ある先輩に「君からもらった『びわ』の木がどうしても実をつけないが」と質問がよせられました。

状況を聞きまして、ご夫婦で可愛がっておられ、みずみずしく非常に大きく育っている。ところが花がつかないとのこと。私はそこで花を着かせるために「四月に入ってから七月まで肥料をやらないこと」と「五月から六月にかけて土中の水分をやや乾燥する程度に水を加減すること」の二点を助言しました。こう管理することにより、来春はきつと花が咲き、六月には黄金色の立派な果実が結実します。来年の果実が一年前の現在の管理によって決定さ

れることを申したわけ。貴重な紙面に関係のうすいような話になりましたが、私も育友会や子育てにも同じようなことが言えると思います。

三小育友会では、昨年から明確に申しておりますように、「会員自らが先きを見通して、水や肥料の管理をし、そしてあなた自らが果実の収穫の喜びを実感していただく」というのが方針です。昨年、かなりご無理を強いました父親（父性）の授業参観もこうしたことから子育てや地域づくり（父親自らの行動（管理））が必要となっていることを、強調した行事であったわけ。いま白山地域が一体となって青少年を見守って行こうと健全育成運動が生まれました。こうしたことへ感謝しながら近いうちにと言わず、今日から皆さんの行動が必要です。一緒にやって参りましょう。



声が今日は続く続く。まっかにはてつた子どもたちの顔、顔。一五八名の生き生きとしたひとみが、私の手先できらきらゆれる。最後の踊りに気をとられ、最後の練習まで指揮に集中できなかった

まちを美しく 子どもたちの手で

昭和59年

熊本 勇治

六月十六日のプールサイドの除草作業と護美入れの作成の時は小雨の中、多くの役員さん達に出席

していただきましてありがとうございました。子ども達も綺麗になつたプールで毎日楽しく水泳していることと思っております。又、護美入れの作成は、予想以上に作業が進み感謝いたしております。



六月三十日
に配った護美入れは、名町内取り付けも終り、街も美しくなっております。白山地区健全育成会で、毎月第一日曜日は、街を美しくする運動の日となっておりますので、育友会でも第一日曜日に子供達の奉仕活動として

護美入れの中のごみの収集と、町内のごみやあき缶ひろいなどをやっていただきたいと思

います。これによつて子供達が、ちらかすごみが少なくなり、街を美しくする心が芽生えれば、白山地区全体がきれいになっていくことでしょう。

六月三十日
ないことですので、会員さんの協力をよろしくお願いいたします。ごみ袋の配布など、くわしいことは、町内代議員さんにプリントでお知らせしておりますのでおききください。

その働きを一つにしたい。ほい歌って欲しい。そして翌日、期待したひとみは私を見る事ができた。全員で歌えた喜びは、今まで味わったことのない、すがすがしい感動を私の胸に残した。

◎従来学校敷地内の環境整備を中心に活動されていましたが、今年度は三小校区とさらに視野を広げ、地域から美化運動を盛り上げようというねらいもあるようです。

運動場が 広くなりました

昭和60年

高見 利 則

七月に土俵整備を実施致しましたが、八月まで延び、九月の親子スポーツの行事に間に合い助かりました。

十月には、運動場整備作業に参加致しましたが、これは校長先生が各方面へ働きかけて下さって実施されたもので、内容は鉄棒及び遊具を移動し、運動場が拡張され校内でのスポーツをするのにたいへん便利になりました。

最後に夏休みに計画しておりました遊具ペンキ塗りを、事情がありまして春休みに実施し、桜の咲く頃には、明るい心で新一年生を迎えたいと思っております。

こう管理することにより、来春はきつと花が咲き、六月には黄金色の立派な果実が結実します。来年の果実が一年前の現在の管理によって決定さ

子供の幸福

会長 小島 健 一



長女の三小入学と同時に育友会員となり九年、今度は長男と一緒に卒業のときを迎えました。

私自身も三小の卒業生であり、子供の頃の思い出もありますが、親として子供と共に過した歳月はまた違った感慨深さをもって記憶に残ります。育友会の行事、子供会の行事に一喜一憂させられながら過ごした小学校育友会時代が終わろうとするとき、果して自分は子供のため良き父親であつたらうかと反省の念にかられてきます。

九州ブロックPTA研究大会のあるパネラーは、フランスの思想家ルソーの「子供を不幸にする一番確実な方法は、いつでも何でも手に入れられるようにしてやることだ」と世

全育成運動が生まれながらこうしたことへ感謝しながら近いうちにと言わず、今日から皆さんの行動が必要です。一緒にやってみましょう。

界で一番有能な先生によってよりも、分別のある平凡な父親によってこそ、子供は立派に教育される」という格言を引用して『与えられ続けるものに感謝の気持ちが湧くはずがない。不自由を味わってこそ満たされた時の喜びを感じる。それができるのだ。一円の収入もあげ得ない生徒や学生に車やバイクを買い与え、冷暖房付きの勉強部屋をつくっても子供は親の期待に届いてくれない。金品はあり余って目的意識がまるでないからだ。今、教師に欲しいのは使命感、父母に欲しいのは責任感である。子供が何かやらかすと、「そんな子供に育てた覚えはない」という父母のあわれな姿を見るにつけ、同情よりもその無責任さにいきどおりを感じる」と述べておられます。子供達は年々歳々大きく成長して行きます。世の中の価値観も大きく変化しています。小学校から中学、高校へと、今まさに父親が出番の時代ではないでしょうか。

研修旅行を終えて

教養部 部員

去る七月三日(水)、豪雨の為延期してしました教養部主催の研修旅行を実施致しました。「気軽に参加して見聞を深めよう」という趣旨のもとに、修学旅行コースを一部含む形で、熊本市並びにその近郊を視察地として企画致しました。

時間に追われて、御土産を買うのがやつの様でした。こゝから最終視察地である菊水町の民家村に参りました。広大な土地に国指定の前方後円墳群を始めとして、古くは縄文・弥生式住居から明治時代の商家造りまで種々の時代の民家が移築復元されていました。



制約された時間内の見学でしたが、歴史や科学の一端に触れた事により、日の生活に追われる中にも、何かロマンめいたものを心の中に持ち続けていた

前夜の大雨警報が漸く解除され、七時四十分、小島育友会々長を団長に総勢四十六名(初参加二十五名)が校長先生御手製の名札を胸にバスに乗り込みました。最初に熊本市立博物館を訪れました。地質・生物・歴史等各展示室を見学し、併設のプラネタリウムで約四十分間、「太陽を巡る星達」というテーマで夏の星空散歩と洒落てみました。

いと思ひ乍ら帰路に着きました。御多忙の中、参加下さいました皆様方方難うございました。最後に御引率いたゞきました上、天文学や考古学を詳細に解説して下さいました先生方のお力添がありました事を申し添えて、御報告と致します。

(がんばん六十年七月より)

研修旅行視察地

37年度	佐賀市 北川副小学校・赤松小学校 勸興小学校	51年度	長崎市 新興善小学校
38年度	福岡県柳川市 柳河小学校・月星靴工場 城内小学校・昭代第一小学校	52年度	(給食部で見学) 長与町 高田小学校 (給食部で見学)
39年度	長崎市 矢山小学校・城山小学校	53年度	長与町 高田小学校
40年度	熊本市 健軍小学校・城東小学校	54年度	長崎市 新興善小学校
41年度	福岡市 室見小学校・平尾小学校	55年度	伊万里市 東山城小学校
42年度	天草 本渡市立南小学校	56年度	嬉野小学校
43年度	久留米市 金丸小学校	57年度	大村市 放虎原小学校
44年度	佐世保市 相浦小学校・潮見小学校	58年度	長崎市 城山小学校
45年度	長崎市 小島小学校・上長崎小学校	59年度	外海町 出津小学校
46年度	佐賀市 武雄小学校	60年度	熊本市立博物館・N T T九州総支社 菊水町民家村
47年度	佐世保市 大野小学校	61年度	熊本グリーンピック
48年度	長崎市 高尾小学校・大園小学校	62年度	北九州コカコーラK・K (さわやか工場見学と太宰府文学の旅)
49年度	長崎市 小島小学校	63年度	時津町 鳴鼓小学校
50年度	佐世保市 白泊風小学校		



土俵整備作業に参加して

中野末喜

昭和60年

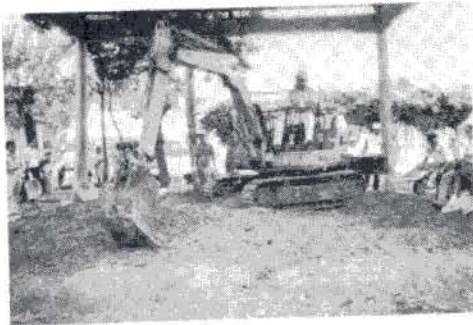
土俵整備作業の際は、御多忙中にもかかわらず、体育部長さんはじめ各部長さん、常任委員さん、並びに代議員さん達の積極的な協力に依り立派な整備が出来、子供達が安心して相撲を取れる様になりました。

私も初めて作業に参加致しました一言感想を述べさせて頂きますと、思ったより作業は大がかりなもので、赤土をダンブに何台も用意され、小型エンボでならし、後は皆さん達の俄か土方で、赤土にまみれ汗だくで、翌日は足腰が痛くなられる位一生懸命精出して下さいました。幸いにも機械等は、無償で借る事が出来、経費も最少限でおさえられた事と思います。その

結果、九月十五日の校内相撲大会では、怪我人もなく、元気な豆力士達が精一杯がんばっている姿を見て、喜びもひとしおでした。

来年も又、土俵整備の際は、メンバーは変わっても役員さん、代議員さんや皆様のご協力をお願いし、私も微力乍らお手伝いをさせて頂きたいと思っております。

ご協力下さった皆様、本当にご苦労様でした。



星達」というテーマで夏の星空散歩と酒落てみました。

次につる屋に特設されたN T T九州総支社を視察致しました。こゝではフアクシミリ等の情報先端技術に目を見張られました。昼食後の自由行動は

方有難うございました。最後に御報告と致します。

いたゞきました上、天文学や考古学の詳細に解説して下さいました先生方のお力添えがありました事を申し添えて、御報告と致します。

(がんばん六十年七月より)

37年度	佐賀興
38年度	福岡内
39年度	長崎
40年度	熊本
41年度	福岡
42年度	天草
43年度	久留
44年度	佐世
45年度	長崎
46年度	佐賀
47年度	佐世
48年度	長崎
49年度	長崎
50年度	佐賀

生活体験の広がりを!



学校長 松本 直

小学生の頃、通った三小。そして、三十数年前、初めて教職に就いたときに勤めた三小です。再度お世話になることになりました。よろしくお願ひいたします。

ことしも、昨年と同じように、「よく考えて活動する子ども」「すなおで心の美しい子ども」「力を合わせてやりぬく子ども」を目指して、頭と心と、たくましい精神力を育てようと、全職員でがんばっております。

三小に勤務してから、二か月が過ぎますが、子どもたちは、明るく元気で、朝の元気のよいあいさつは、学校中に響き、気持ちのよい朝を迎えております。

昼のそうじ時間には、雑布をにぎって汗を流してあります。家では、ふきそうじなどほとんどしたことのない子どもたちではないかと思われま

す。

子どもを大事に育てることは当然のことですが、それが過保護とまで思われるようなことが数多く見られます。子どもに出来るようなことでも、親が手を出してしまう。子どもは、それがあたりまえのことのように思っている。危ないとか、仕事を手間どるとかの理由はあと思われませんが、生活体験が少ないために、簡単な生活技能(ナイフで果物の皮をむく。小刀で鉛筆をけずる。はしを正しく持つ。タオルをかたくしぼるなど)が身につかないままになっていく実状のようです。このことは、子どもが身につける機会を、親が、大人がうばっているかあるいは、正しく教えることで、訓練していないからと考えられます。

生活習慣や生活技能を育てる場として、家庭でも、学校でもその機会をとらえて指導していかなければと思っております。

キャンプ指導者講演会を実施

昭和61年

体育部
児玉勝利

本年度は新しい試みとして「キャンプ指導者講習会」を実施しました。キャンプについての話を聞いたあと、実際に飯盒炊さんやキャンプドールフアイヤーを体験しました。この企画は、会員研修の一環として、ともかく会員の皆さんに生の体験をしてもらおうと計画したものです。七十名近くの参加の皆さん方は大喜び、来年以降も続けてほしいとの要望が寄せられました。指導にあたっていただいた三小の先生方に深く感謝します。

ところで、このような行事は、会員皆さんの共通理解があつてはじめて成果があるものです。特に町内育友会では、会員同志の連絡や話し合いを十分にやっていたかどうかを願います。

給食室完成



十九年ぶり……日曜日に父母参観

昭和63年

学級部 相良耕作

心配された天候も晴れ時々曇りで天も味方となり、お父さんお母さんも非常にたくさん参加していただきました。午前中の授業参観は先生方の大変な御苦心がひしひしとつたわって、参加の父母も満足の様子でした。

子供達の授業の様様、食風景を見学した後、午後からのミニ運動会は、子供と先生・親たちが一所懸命一つの事を協力し、競い合つて大笑いの中で、親子のふれ合い、先生方と親たちのふれ合いが出来、やはり日曜参観は成功であつたとほつとしました。

この様に、実現可能となつた校長先生始め、職員の皆様への決断と御協力に感謝し、松尾会長、熊本推進委員長、推進委員、学年部長の役員の皆様のおかげで御苦労に敬意を表したいと思います。

夜の部は、昼間のつかれも見せず、『先生方を囲む会』は百名を越す会員が集まり、食べ物等は十分ではありませんでしたが、先生方とのコミニ



ュケーションは大いに広がり、色々な話題に花がさき、時が経つのも忘れるほど盛り上がり、先生方も初めて話を交わすお父さん・お母さん方との出合いに興奮の様子で、年頭初め校長先生のお話の中で、「一期一会を大切に」という事を、先生方お一人お一人が実践されておりました。会の時間も、最後の小川教頭先生の万才三唱の後、一時間半位帰る人もなく、司会者としてはうれしい悲鳴を上げておりました。

又、来年ももっと盛り上が

つて出来る様、校長先生始め先生方にお願ひ致します。



参観者数 (のべ)	家庭数から見た参観世帯 (584世帯)
母 579	母 248
父 340	父又は父母 221
その他 25	その他 13
計 944	計 482

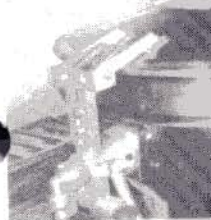
$$482 \div 584 \times 100 = 82.53\%$$



教頭 小川 俊 幸

つまづいたりこちんだりーたおかげで
 物事を深く考えるようになった
 あやまちや失敗をくり返したおかげで
 人のやることを暇か眼で見えやうになた
 一入のほんもの人間にめぐり逢えたおかげで
 それが縁となり次々に沢山の
 よい人たちにめぐり逢うことができた
 だからわたしのまわりにいる人たちは
 みんなよい人ばかりだ

会員同志の連絡や話し合いを
 十分にやっていたらどうかようお
 願います。



での御苦勞に於いて敬意を表
 したいと思ひます。
 夜の部は、昼間のつかれも
 見せず、「先生方を囲む会」は
 百名を越す会員が集まり、食
 べ物等は十分ではありません
 でしたが、先生方とのコミニ



参観者数 (の)

母	57
父	34
その他	2
計	94

482÷

本校沿革概要

年	月	事項
		品即売会等) 開催
8	7	職員・児童夏休み一人一研究を奨励
8	12	学校体育衛生研究発表会開催
10	4	奇数・偶数学年に分け、毎月家庭訪問日を設定
10	10	秋季運動会に青年団の継走追加
11	4	突井戸水通式
11	4	体育衛生優良校(文部省表彰)
11	10	二宮金次郎の像建立(在米、上田金作氏寄贈)
11	11	第1回スケッチ大会開催
15	6	肝油服用開始(虚弱児健康増進)
16	4	島原市第三国民学校に改称
16	5	運動場拡張工事(白山町内会奉仕作業、11月完成、延 8,000人)
16	10	体育衛生方面視察校に指定(文部省)
18	3	初めてBCG接種
20	7	学徒隊結成、分数教育開始
21	1	ニプロ教育官本校視察
22	4	島原市立第三小学校に改称、島原市立第二中学校本校に併設
23	4	育友会結成
23	12	二中移転
24	2	社会科研究発表会開催
25	1	子供銀行開設
25	3	新教育研究発表会(ガイダンス)
25	6	白山登山路改修(職員作業)
25	8	全国学校図書館協議会モデルライブラリーに指定さる
26	1	学校図書館研究会開催
26	7	給食場建築(474,500円)給食モデルスクールに指定さる
26	8	校歌制定、運動会の歌
26	9	木造2階建新校舎落成
26	10	NHK音楽コンクール島原代表
26	12	子供銀行表彰(県・市)
27	5	本館雨漏工事(1489,400円)
27	6	本館窓枠修理(729,700円)
27	7	長崎県実験協力校(理科、学校図書館)に指定さる
27	11	子供銀行表彰(大蔵大臣、日銀、県)

年	月	事項
明治		
7	1	芳洲小学校創立(浦田船津)
10		湊小学校創立(八幡神社側)
8	10	湊小学校を松嶼小学校と改称
15	11	芳洲・松嶼小学校が合併、中等濫参小学校開校
16	11	旧島原藩主、松平忠和氏来校
17	11	女子分校(湊女子小学校)設置
19	11	尋常濫参小学校開校
21	1	初めて遠足会を実施(焼山)
23	3	初めて春季運動会開催(新山)
24	12	広馬場校舎改築、尋常湊小学校と校名変更
26	3	湊尋常小学校と校名変更
28	7	暴風雨のため校舎倒壊
30	4	新校舎落成(工費6千円)
31	10	幻燈会、演奏会開催
45	3	新校舎(白山の下)落成(工費16,258円85銭2厘)
45	4	高等科併置、湊尋常高等小学校と改称
大正		
4	11	校旗制定(いかり、桜、三本の波)
5	1	学校主催菜品評会開催
10	5	校規制定
10	6	初めて音楽会開催
11	2	湊実業補習学校開校
11	8	湊町処女団創立
11	9	能力別自習班を組織
11	10	学制頒布50年式
12	7	学芸会開催(通学区を3分)
13	4	三町村合併により島原第三尋常高等小学校と改称
13	8	校長住宅落成
15	9	島原第三青年訓練所開所
昭和		
3	4	島原第三尋常高等小学校新校舎落成(103,627円17銭)
5	5	島原第三少年赤十字団結成
5	11	初めて学校博覧会(授業参観、音楽会)、特別教室(児童成績品、商店出

本校沿革概要

年	月	事項
47	7	白山切崩しによる校地東側整地
47	11	構造教育研究発表会開催
48	9	本館南側窓枠取替改修
50	4	情緒障害児学級開設
51	3	体育館落成
51	5	百周年記念式（49年に百周年を迎える）記念誌発行。記念碑建立。校旗新調。同窓会誌「白山」発行
51	12	百周年記念カプセル埋蔵（2025. 12. 24開箱）
52	12	本校同窓会結成
52		県情緒障害児教育研究大会開催
53	8	正門前石段改修
55	1	二階建木造校舎全焼
55	3	情緒障害児学級研究発表会開催
56	1	三階建新校舎落成
56	5	十八銀行社会開発振興基金百万円助成受領（視聴覚教育機器）
56	8	本館内部塗装完了
56	9	土俵完成
56	11	道徳教育研究発表会開催
58	1	南・北トイレ改修。北側校庭整備
58	3	東側校地再整地完了。情障教室改装
58	4	円形学校園造成（突井戸跡）
58	11	三階三教室床板張替
59	3	校歌（レリーフ）体育館に掲示
59	5	白山公民館新築のため移転
60	2	新校舎トイレ回り廊下シート張り替
60	4	校長室専用電話設置
60	8	本館屋上全面改修（雨漏り工事）
60	9	白山公民館跡に学級園造成 西側校門・通学路改修
61	2	第四校舎北側境界フェンス設置
61	9	玄関北側石垣改修。フェンス設置
62	6	プール改修
63	9	給食室落成
63	10	子供銀行表彰（大蔵大臣、日銀）

年	月	事項
28	1	本館1階廊下板張りに切替え
28	1	市内総合研究発表会開催
28	3	保健教育並びに学校経営優秀校表彰
28	12	白山住宅解体
29	2	創立80周年記念式
30	11	算数教具作製（県表彰） 優良図書館（県教育会表彰） 国語・算数研究発表会開催
30	12	妙高寺敷地一部永代借用。煉瓦塀工事完了
31	7	校庭南端に第二突井戸完了
31	7	妙高寺横坂道通学道路拡張工事完了
31		白山公民館併設
33	11	子供銀行表彰（大蔵大臣、日銀） 放送室設置。SHK放送開始 学校図書館文部大臣賞 軽量鉄骨新校舎（南校舎）落成 校章制定（眉山と平和の鳩）
34	4	ソニー理科振興資金 100万円受賞
34		理科教育研究中間発表会開催
35	4	市制20周年記念校門アーチ作製
35	5	白山公民館校地内に建設
35	9	玄関に地図模型掲示 軽量鉄骨新校舎（北校舎）落成
35	11	子供銀行表彰（大蔵大臣、日銀） 学習池。水生植物園。野草園。岩石園造成
36	4	天皇・皇后両陛下御視察
36		理科研究発表会開催
36	11	子供銀行表彰（大蔵大臣、日銀）
37	4	特殊学級を1学級設置 歴代校長の写真掲額
38		
39	6	天皇・皇后両陛下御視察記念碑建立
40		棋池通学路完成
41	11	国語学習指導研究発表会開催 校地拡張工事完了
42		
42	11	国語教育研究発表会開催
43	7	プール落成建設記念碑建立
43	11	九州国語構造研究発表会開催 プール南側に学級園設置
43		
45	12	構造教育研究発表会開催

年	月	事項
8	7	品
8	12	職員
10	4	学校
10	10	奇
11	4	問
11	4	秋
11	10	突
11	11	体
15	6	二
16	4	作
16	5	第
16	10	肝
18	3	島
20	7	運
21	1	業
22	4	体
23	4	初
23	12	学
24	2	二
25	1	社
25	3	子
25	6	新
25	8	白
26	1	全
26	7	ラ
26	8	学
26	9	終
26	10	校
26	12	木
27	5	N
27	6	子
27	7	本
27	11	本
27	11	長
27	11	館

歴代校長

就任	氏名
明治26年	近藤源三郎
" 35年	清水東三郎
大正4年	内藤政策
" 7年	松永順一郎
" 10年	小国志佐人
昭和17年	鬼塚富栄
" 19年	大町利宗
" 23年	宮崎嵩三
" 33年	帆足清勝
" 35年	菅藤恒保
" 38年	松本巖
" 43年	村田正二
" 49年	林田長
" 51年	原口晃
" 54年	江島九香
" 57年	江崎勝利
" 61年	松本直
" 63年	伊藤富幸

歴代育友会長

就任	氏名
昭和23年	大沢清人
" 24年	永野参事
" 25年	織田万寿夫
" 26年	上田金市
" 28年	御厨米吉
" 32年	岩本一男
" 33年	池田真
" 37年	藤田実
" 39年	本田卷男
" 43年	山本蔦五郎
" 49年	吉田重信
" 51年	本田武彦
" 53年	前山四郎
" 57年	成瀬博功
" 60年	小島健一
" 62年	松尾正敏

歴代教頭

就任	氏名
昭和40年	村田正二
" 41年	林田長
" 43年	吉田博
" 47年	園田秀利
" 50年	本多末勝
" 53年	尾形坦
" 55年	下田昭明
" 56年	大場昭生
" 58年	平野昭二
" 62年	松崎俊雄
" 63年	小川俊幸

同窓会長

※本校百周年を記念して同窓会結成の機運がたかまり、創設されたものである。

就任	氏名
昭和52年	林田俊雄
昭和60年	池田真

年度別世帯数・生徒数

年度	世帯数	生徒数
昭和37年度	997	1,508
昭和63年度	588	838

歴 代 副 会 長

年度	氏 名	年度	氏 名
37年度	田 浦 猶 蔵 江 崎 達 子	51年度	坂 本 博 幸 有 馬 隆 子
38 "	元 島 和 男 江 崎 達 子	52 "	坂 本 博 幸 藤 山 貞 子
39 "	谷 洸 江 崎 達 子	53 "	佐久間 ガクジ 藤 山 貞 子
40 "	谷 洸 江 崎 達 子	54 "	佐久間 ガクジ 芝 田 扶 美 子
41 "	山 本 蔦 五 郎 古 川 ヤ ス 子	55 "	佐久間 ガクジ 芝 田 扶 美 子
42 "	山 本 蔦 五 郎 加 藤 和 子	56 "	片 山 千 代 薫 芝 田 扶 美 子
43 "	鐘ヶ江 喜代利 加 藤 和 子	57 "	成 瀬 博 功 芝 田 扶 美 子
44 "	森 本 定 義 原 サ ダ 子	58 "	山 下 利 秋 芝 田 扶 美 子
45 "	森 本 定 義 古 瀬 恵 子	59 "	高 原 寿 一 下 田 紗 基 子
46 "	森 本 定 義 石 本 杏 子	60 "	竹 下 力 江 川 七 重
47 "	森 本 定 義 古 瀬 恵 子	61 "	松 尾 正 敏 佐々川 和 子
48 "	本 田 武 彦 古 瀬 恵 子	62 "	児 玉 勝 利 佐々川 和 子
49 "	本 田 武 彦 宮 崎 ヨ シ エ	63 "	熊 本 勇 治 入 江 英 香
50 "	本 田 武 彦 宮 崎 ヨ シ エ		

歴 代 常 任 委 員

年度	常 任 委 員							事 務 局
	育 友 会				学 校			
昭和 37 年 度	池 田 真 谷 口 房 三	今 井 吉 雄	牟 田 茂 満	上 田 進	原 留 男	田 中 貞 子	田 中 貞 子	監 査
	豊 永 正 義 広 瀬 ウキ子	牟 田 茂 満						
昭和 38 年 度	内 島 一 雄 広 瀬 進 本 田 卷 男	今 井 吉 雄	牟 田 茂 満	上 田 進	森 川 田 義 純	田 中 貞 子	田 中 貞 子	監 査
	古 瀬 貞 子 峯 友 喜代治	今 井 吉 雄						
	古 高 見 利 男 洸 吉 田 キ ヨ							
	池 田 真 森 本 正 樹	今 井 吉 雄	牟 田 茂 満	上 田 進	森 川 田 義 純	田 中 貞 子	田 中 貞 子	監 査
	豊 永 正 義 山 本 蔦 五 郎	今 井 吉 雄						
	伊 藤 繁 一 郎 木 下 睦 子	今 井 吉 雄						
	古 瀬 進 古 瀬 貞 子	今 井 吉 雄						
	谷 口 房 三 吉 田 キ ヨ							
	谷 本 田 卷 男							

歴

就 任
明治26年
" 35年
大正 4年
" 7年
" 10年
昭和17年
" 19年
" 23年
" 33年
" 35年
" 38年
" 43年
" 49年
" 51年
" 54年
" 57年
" 61年
" 63年

歴

就 任
昭和40年
" 41年
" 43年
" 47年
" 50年
" 53年
" 55年
" 56年
" 58年
" 62年
" 63年

年度	常任委員		事務局
	育友会	学校	
昭和39年度	藤田実 本芳保 伊藤繁一 池田真 川副文 高見利 谷口房	本田定則 山幸男 本本五郎 江ケマサヨ 下睦子 瀬貞子 古ウキ 広瀬	今井吉雄 牟田茂滿 上田安進 森山則 川田義純
			監査
			谷口一 古瀬進
昭和40年度	藤田芳 本田房 池田安 谷早定 本幸	松松重 水幸五郎 山ケマサヨ 鐘ケ睦子 木古ヤ 古川	牟田茂滿 森山安則 松本真一 川田義純 吉田正
			監査
			川鍋正武 樺島毅
昭和41年度	藤田芳 本田房 池田和 谷元小 川鉢口	松水滿 江ケ山 鐘立山 原大	吉田博 吉高寬 松崎秀 林晴
			監査
			川鍋正武 樺島毅
昭和42年度	谷元房 松島重 芥瀬孝 古阿部 森本	植立鐘 山ケ古 江ケ本 沢田	吉藤博 藤原夫 立花繁 高橋作 松崎諭
			監査
			川鍋正武 樺島毅
昭和43年度	古瀬帝 織田均 森本義 元本義 芥島男 植島夫 猪原孝 木原舜	松松重 松限保 佐原昭 森本久 江崎賢 原本サ 田はる	高橋寬 石橋正 松昌茂 牟田崎 松崎
			作行和滿 論
			井本口義春 本草多茂 藤原野邦 一夫
		監査	
		川鍋正武 樺島毅	

年度	委員		事務局	
	常任	校		
昭和44年度	元芥猪松松織梅 島原隈田沢本 和孝孝重保武 男舜松吉均未享	次ヨ子子夫二德 慶力陸け昭正久 多田下瀬原口本 本上木古萩針森	尾崎勝 本多野茂 草野一 監査 川鍋正武帝 古瀬	
昭和45年度	元猪松萩織本松中 島原隈原田多本村 和孝保昭慶光 男舜吉夫均次博利	成郎子ヨえ子カ 一八恵美カふ杏キ 本藤山田松本合 登伊片上高石時	繁春之勝行 義利正 花口下崎橋 立井木尾石	藤原邦夫 草野野茂一 松田多昌和茂 本多 監査 古瀬川啓 吉
昭和46年度	織萩松伊久宮下大 田原本藤田崎田島 昭八頭光政 均夫博郎博一徳助	均美子ヨえ子カ 恒恵カふキ百 島田山田松合 福仲片上高時林	春武之行子 義利正富 口本下橋口 井森木石谷	藤原邦夫 草野野茂一 本多石シスヤ 永 監査 吉瀬川啓 古
昭和47年度	古宮松伊大福仲大 瀬崎本藤島島田町 頭八政恒好 帝一博郎助均美広	明彦子代え子 智武恵和ふヨ信 田田山田松崎田 太本片上高宮吉	春武之行子 義利正富 口本下橋口 井森木石谷	藤原邦夫 草野野茂一 片山多林次 本梅 監査 酒井井川啓 吉
昭和48年度	森松伊本上勝松吉 本隈藤多田田下田 久保八慶平正重 徳吉郎次次二肇信	雄行子子や子子 俊剛美典し和隆 田川山尾本道馬 柴森片松鉄山有	春武之行茂 義利正 口本下橋多 井森木石本	藤原邦夫 菅林本三正英 梅坂 監査 酒井井川啓 吉

年度	育
昭和39年度	藤田田田田田田 本伊藤藤田副見口 池川高谷
昭和40年度	藤田田田田田田 本池谷早本本 谷本本
昭和41年度	藤田田田田田田 本池谷元小川 谷小川
昭和42年度	谷元松芥古阿森 古阿森
昭和43年度	古織森元芥植猪 古森元芥植猪

年度	常任委員											事務局			
	育友会					学校									
昭和49年度	松伊吉	隈藤川	保八啓	吉郎一	大松江	野下崎	進朝	正肇子	井坂森	口本多	義政	春英武	藤菅井	原邦三	夫郎春
	福松久	島下保	市兵衛	均衛亨	時中児	合村島	キヨカ	力エ子	本小	鉢	市兵衛	茂衛	監	信治	查助
昭和50年度	坂大福	本野島	政進	幸正均	石上大	本田島	杏敏政	子夫助	永西森	野田本	正康	弥男武	小梅	鉢林	市兵衛
	高伊有	田藤馬	喜三郎	郎子肇	佐永江	原門川	昭重照	二明男	小田伊	峰中藤	忠正謙	与士之	監	信治	滿
昭和51年度	坂江西	本川浦	政照和	幸男彦	岡前伊	本田藤	正八	秀武郎	永森今	野本井	正吉康	弥武雄	梅田菅	林中	次正三
	山塚山	道崎下	和利幹	秋秋夫	佐久田	間田島	ガクジ	一子	坂小荒	本峰木	正忠利	英与士	監	信治	助
昭和52年度	石松佐	本田久	雄信ガ	康也ジ	塚岩横	崎崎田	和曉金	秋子男	森森永	本野岡	大正照	作武弥	梅小	林峰	次忠与
	稲馬織	場田山	武幹誠	弘夫一	坂有森	馬原田	政隆ル	幸子子	長西本	岡田田	康兼忠	明男光	監	信治	滿
昭和53年度	塚岩古	崎崎井	和曉久	秋子輝	高吉有	原田馬	寿米隆	一宏子	永西森	野田本	正康大	弥男作	功治子	峰田	忠丈与
	岩永池	本門田	宏重豪	三明喜	田片山	浦山下	エイ千	子薰秋	長荒中	岡木島	照利一	明治雄	監	信治	滿

年度	委員										事務局									
	常任					校					事務局									
	育友会					学														
昭和54年度	広岩古馬永横岡岩	田崎井場門田本本	誠曉久武重金正宏	一子輝弘明男秀三	高吉有田片山山福	原田馬浦山下口島	寿米隆エ千利ヤ一	一宏子子薰秋子美	梅織荒板森小本池	林田木倉本嶺田田	次丈利英大幸兼長	生治治夫作郎光忠	山中山	下島田	功雄子	小織菅	峰田	忠丈武	与士治時	
											監査									
											酒井	井井	満治							
昭和55年度	高成岩矢中岩古原	原瀨本加部山崎井口	寿国宏美博曉久美	一春三子喜子輝容	片松山伊馬田山福	山下下藤場浦口島	千利季武エヤ一	薰肇秋彦弘子子美	小本松梅織荒板池	嶺田尾林田木倉田	幸兼好次丈利英長	一郎光則生治治夫忠	山坂小中	下庭峰島	功雅士雄	小織菅	峰田	忠丈武	与士治時	
											監査									
											酒井	井井	満治							
昭和56年度	高有岩梅中原古成	原田本林山口井瀨	寿純宏温博芙久博	一子三代喜容輝功	成岩山本馬田山福	瀬崎下田場浦口島	国曉利憲武エヤ一	春子秋輔弘子子美	梅小安荒板本有中	林嶺藤木倉田川島	次幸一利英兼ク一	生一郎郎治夫光二雄	池松坂	田尾庭	長好克	忠則雅	織荒菅	田木	丈利武	治治時
											監査									
											吉田	田重	信							
											佐久間	カクジ								
昭和57年度	小珠児松岩高古柴	島林玉尾本原井田	健桂勝正宏寿久ミ	一雄利敏三一輝ホ	熊伯山中山岩藤田	本川下山口崎井浦	勇ヒ利博ヤスリエ	治子秋喜子子ワ子	本有本小安板池中	田川田嶺藤倉田島	兼ク幸一英長一	光二茂郎郎夫忠雄	山大坂松	崎隅庭尾	諒一雅則	織大菅	田隅	丈謙武	治一郎時	
											監査									
											吉田	田重	信							
											佐久間	カクジ								
昭和58年度	松藤森相児江熊佐	尾井良玉崎本木	正り秀耕勝秀勇鈴	敏ワ子作利一治江	岩山前本小下原柴	本崎田多島田口田	宏妙清新健紗美ミ	三子徳一一子容ホ	本小本山板池松坂	田嶺多崎倉田尾庭	兼幸英長好克	光一郎茂諒夫忠則雅	松林河安	尾田野藤	政昭偕一	子子子郎	大菅	隅田	謙昭武	一郎子時
											監査									
											吉田	田重	信							
											佐久間	カクジ								

年度	育
昭和49年度	隈藤川島下保田本 松伊吉福松久高坂
昭和50年度	本野島田藤馬下 坂大福高伊有松
昭和51年度	本川浦道崎下田 坂江西山塚山織
昭和52年度	本田間田場田田 石松久稲馬織広片
昭和53年度	崎崎井本門田本 塚岩古岩永池岡林

年度	常任委員											事務局					
	育友会					学校											
昭和59年度	竹伯松	下川尾	力子	岩松	永下本	兼和勇	満子	本橋	田本	兼	光等	坂松	庭下	克義	雅博	大謙一郎 林田昭子 下岸真澄	
	入本	江多	子敏	松熊	崎島	秀健	治一	本本	田倉	英長	堯茂	宮高	下崎	丞清	平治		監査
	江見	川玉	香輔	江小	川田	和ミ	一子	板池	田尾	尚好	夫忠	高	木	清	治		山秋 岩本三
昭和60年度	友大柴	永場田	昭惠	阿前	比留	寿と	海み	本本	田田	兼	光堯	松宮	下崎	義丞	博平	大謙一郎 大金安子 野正勳	
	川江	口崎	惠ホ	高吉	田見	利則	則正	本本	田倉	英尚	堯夫	下高	田木	和清	章治		監査
	佐兒	川玉	樹一	酒吉	田井	智清	好美	板林	田尾	好克	三則	高	木	清	治		高寿一 岩原本三
昭和61年度	友入相	永江良	昭香	熊川	本口	勇克	治樹	林田	田中	尚益	三良	本安	野野	勳勵	本大田兼光 都平美惠 筑純子		
	諏高	訪見	作世	比原	留賀	寿成	海子	田隈	部下	昭義	三博	高松	木島	治彦		監査	
	吉兒	田玉	則正	酒吉	井岡	智清	好美	松宮	田水	丞和	平章	池	田	奈子		高寿一 岩原本三	
昭和62年度	酒相滿	井良井	澄耕	前吉	田田	清則	德正	林三	田丸	尚和	三明	安本	野田	勳勵	本大田兼光 下平美惠 田紗基		
	高前	見田	洋利	荒熊	木木	勇英	修治	隈米	部水	昭利	三一	高田	木中	治良		監査	
	近松	藤崎	サ美	入友	江永	峰克	香昭	植下	木田	正和	彦章	池	田	奈子		岩本三 酒井智好	
昭和63年度	荒松相	木崎良	修子	友片	永山	峰秀	昭明	林三	田丸	尚和	三明	稻古	榮瀨	保一	本大田兼光 元村子 金子正		
	池川	田口	子樹	本井	多手	敏綾	憲子	隈植	部水	昭利	三彦	本安	田野	克勵		監査	
	珠平	林野	子信	上近	田藤	清す	子子	米中	水村	清和	一法	高田	木中	治良		岩本三 酒井智好	

昭和63年度 町内代議員一覽表

	町名	氏名	電話番号	氏名	電話番号
1	新山一丁目	六角屋 徹洋	62-2320	吉田 正明	62-3493
2	新山二丁目	中 蘭 陽子	63-3269	大平 葉子	64-2143
3	新山西	友永 峰昭	63-1369	大久保 徳裕	62-3626
4	崩山	満尾 勝	63-3144	橋口 敏雄	62-7481
5	坂上町	山下 博文	62-3943	森野 量彦	64-2515
6	坂下八幡	永藤 澄子	63-4855	池田 栄子	63-7010
7	西八幡	荒木 潤一	63-1565	平山 博光	63-3343
8	栄町	津田 敏広	63-2200	松田 伸一	63-5485
				田川 浩三	63-7435
9	蛭子町	吉武 理子	62-2066	渡辺 弥寿子	63-6261
10	白土桃山一丁目	大平 訓央	63-3546	前森 聖子	64-4312
11	白土桃山二丁目	太田 一豊	62-6144	小山 昭生	64-4700
12	霊南	竹中 芳朗	62-6075	熊本 勇治	62-6012
13	浦田上	安永 三代子	63-0722	本多 藤夫	63-1325
14	浦田元船津	元島 政治	63-1033	宮崎 宮子	64-1572
15	津町・有馬船津	本多 文江	62-3388	梅田 勝代	63-4442
16	みなと	松尾 豪彦	62-4171	内田 雄次郎	63-1551
				伊藤 官治	62-5206
17	湊町	江崎 なつ子	62-3927	小島 君子	62-2471
				西村 セツ子	63-3104
18	白山	片山 秀明	62-2482	島田 富太郎	63-1481
19	下川尻	浜松 春美	64-2652	内田 スエキ	64-0955
20	緑町	松坂 和子	64-1764	珠林 輝子	64-3519
21	南下川尻	園田 敏之	62-3280	富永 幸吉	64-0881

年度	育
昭和59年度	竹伯松入本江児高 下川尾江多川玉見 正英憲七勝利
昭和60年度	友大柴川江佐々児前 永場田口崎川玉田 峰瑞ミ克秀清勝貞
昭和61年度	友入相諏高吉児末 永江良訪見田玉吉
昭和62年度	酒相満高前近松尾 井良井見田藤崎上
昭和63年度	荒松相池川珠平大 木崎良田口林野平

昭和63年度 学級代議員一覽表

学級	氏名	町名	電話番号	氏名	町名	電話番号
1-1	竹下 冷子	緑町	63-2271	藤田 つたえ	坂下八幡	64-3076
1-2	原賀 成子	坂上町	62-6662	近藤 美代子	津有馬船津	62-6976
1-3	廣瀬 由美子	南下川尻	63-6138	青木 桂子	崩山	63-7469
1-4	中岡 みちる	新山一丁目	63-1674	永石 美笑子	緑町	64-0236
2-1	沖田 恵智子	浦田上	64-3607	上田 すず子	南下川尻	63-1426
2-2	永長 洋子	霊南	64-0913	井手 綾子	西八幡	64-2338
2-3	西山 義久	浦田元船津	63-3967	菊田 延世	浦田上	63-1312
2-4	上田 真智子	栄町	62-7037	本多 芳江	新山二丁目	63-5748
3-1	森下 三恵子	霊南	63-3945	塩崎 義美	霊南	63-4184
3-2	坂本 美和子	西八幡	62-5422	谷口 康子	白土桃山 一丁目	62-2949
3-3	本多 敏憲	白山	62-2608	田中 裕明	白山	64-3216
3-4	伯川 拓雄	湊町	63-0145	藤田 久美子	新山一丁目	62-6235
4-1	平野 キヌ子	みなと	62-4644	元島 千枝子	白山	64-0103
4-2	片山 豊子	栄町	63-5980	本田 徳子	霊南	62-4795
4-3	松崎 由美子	緑町	62-6786	林田 一恵	下川尻	62-2911
5-1	荒木 修	みなと	64-2488	本多 憲輔	津有馬船津	62-3388
5-2	前田 清徳	坂上町	62-4258	平野 義信	白山	64-2731
5-3	相良 耕作	みなと	63-0002	渡部 順子	新山西	63-7156
5-4	松本 克己	栄町	63-2303	吉田 富久	栄町	62-2086
6-1	古井 豊香	蛭子町	62-4846	星野 佳代子	湊町	63-5465
6-2	池田 智子	崩山	62-4788	米田 久美子	崩山	63-3858
6-3	川口 晴美	坂下八幡	62-2595	田中 なつえ	栄町	64-2022
6-4	川口 克樹	新山西	62-4158	宮原 智恵子	坂上町	63-0242
愛・仲	近藤 朱美	坂上町	63-6130	坂本 すよ	津有馬船津	63-4107

昭和63年度 職 員 一 覧 表

職 名	氏 名	現 住 所	職 名	氏 名	現 住 所
校 長	伊 藤 富 幸	島原市秋父が浦町丁3523	教諭1年担任	金 子 正 子	島原市先魁町1151
教 頭	小 川 俊 幸	島原市江戸丁1696-1	" 2年担任	西 弘 子	島原市城内3-1234-1
教諭3年主任 生活指主	隈 部 昭 三	島原市片町673-3	" 6年担任	松 尾 由美子	島原市小山町4771-51
" 保健主事	本 田 兼 光	島原市上新丁3-2613	" 3年担任	植 木 正 彦	国見町多比良丙196
" 専科園工	本 田 堯	島原市栄町8652-10	" 6年担任	下 田 和 章	島原市湊道1-835-4
" 1年担任	池 田 伊奈子	布津町甲425	" 5年担任	古 瀬 唯 二	島原市中安德町丁1428
" 1年主任	平 野 洋 子	島原市宮の町713	" 4年担任	本 多 倫 子	島原市中町845
" 4年主任	伊 藤 利 子	国見町多比良丙1074-1	" 4年担任	稲 榮 浩 保	島原市城見町4953
" 2年主任	丸 山 尚 子	島原市柿の木町4028	講師3年担任	吉 村 ひろ子	島原市新田町468
" 2年担任	島 峯 律 子	島原市青葉町5314-1	養護教諭	野 口 仁 子	島原市新山1-8735-9
" 教務主任	林 田 尚 三	島原市上新丁2-2543	事務主幹	安 野 勵	有明町大三東丙148
" 6年主任 研究主任	田 中 益 良	島原市北安德町丁1003-1	事務補助	松 崎 美 春	島原市白山町8362-2
" 情障担任	荒 木 眞知子	島原市中原町乙1904	"	下 田 紗基子	島原市西八幡町8438
" 2年担任	山 本 紀 子	島原市城西中ノ丁2077	給食調理員	吉 田 キヌエ	島原市坂上町7634
" 1年担任	菅 恵 子	有明町大三東戊1510	"	山 本 ミユキ	島原市上の原3-5643-55
" 6年担任	三 丸 和 明	瑞穂町西郷辛962	"	松 田 みどり	島原市杉山町甲525 島原市
" 5年主任	渡 邊 徳 蔵	島原市上新丁3-4056-1	用 務 員	高 木 清 治	島原市南安徳町1529
" 5年担任	松 本 伸 子	島原市新湊1-丙2212-5	校 医	平 野 進	島原市蛭子町773
" 3年担任	塚 本 直 子	島原市北原町2194	"	河 原 弘	島原市坂上町7354-1
" 情障担任	多 田 真 澄	島原市本町562	"	樋 口 正 朗	島原市堀町168
" 3年担任	中 村 清 法	有明町湯江丁70-8	"	石 本 雅 徳	島原市坂上町266
" 5年担任	米 水 利 一	島原市新山1-8728-8	歯 科 校 医	渡 部 哲 夫	島原市下川尻町16
" 専科音楽	元 村 浩 子	島原市下川尻町7956-8	薬 劑 師	織 田 美智子	島原市広馬場町336

学 級	氏
1-1	竹
1-2	原
1-3	廣
1-4	中
2-1	沖
2-2	永
2-3	西
2-4	上
3-1	森
3-2	坂
3-3	本
3-4	伯
4-1	平
4-2	片
4-3	松
5-1	荒
5-2	前
5-3	相
5-4	松
6-1	古
6-2	池
6-3	川
6-4	川
愛・仲	近

年度	部	報	広	年度	部	報	広										
昭和43年度	猪伊大上浜重山	原藤島田田野本	孝八政和五孝富	舜郎助代月介太	島本小佐石多	田田鉢藤橋田	数はる利正和	男み京宗行宏	昭和37年度	藤谷下山広相田	田田本瀬川中	実洸俊郎子子子	文五ウキ昌貞	上織	田田	三三	郎郎
昭和44年度	猪伊大上浜多石	原藤島田田橋	孝八政和五和正	舜郎助代月宏行	重山島本小佐織	野本田田鉢藤田	孝富数はる利	介太馬み京宗均	昭和38年度	谷山広相上下	本瀬川田田	洸郎子子子俊	五ウキ昌富文				
昭和45年度	萩竹古大宮江楨	原島川島崎崎村	昭博幾十政一亮末	夫一郎助良郎登					昭和39年度	山加川片上高喜	本藤口山田木多	五郎時治正夫広猛	蔦正天武義	小立加田伊林山	国山藤中藤田下	秀勝貞美秀ミ	湊一彦子晴ヨ
昭和46年度	萩大木大	原島下隅	昭政謙一	夫助宏一郎					昭和40年度	加谷草山田小本	藤口野本中鉢田	彦矢子郎郎京男	勝三洋梯十幸	田坪加遠緒	口田藤武方	勸一照喜	勝郎美子十
昭和47年度	太上西登中松松森	田田川本山尾本	智和重一陽勝典	明代成成子美子武	酒松本山兒大柴	井本田本島野田	兼鉄富進俊	一石猛太洋正雄	昭和41年度	小加牟佐伊	鉢藤田川藤	京美満州郎	一茂統八				
昭和48年度	柴大兒隈木荒広	田野島部下木瀬	俊進善絢和久	雄正子子宏子弥	松山原吉森坂	本本田本本	隆富一三正	之太郎郎武英	昭和42年度	阿伊小木伊石江	部藤鉢下藤橋崎	也郎京宏男七郎	哲八一源亮	猪上本	原田田	孝和はるみ	舜代み

年度	部	報	広	年度	部	報	広										
昭和55年度	子徳子	三清和	二田川	吉前佐	士雅弘子	与克武工	忠庭場浦藤島下	小坂馬田斉小竹	昭和49年度	夫之	利隆	田本	林松	正子子子輔雄次	正隆善和芳俊徳	野馬島木野田本	大有児荒星柴橋
昭和56年度	明一郎	直謙一	口隅	川大	雅弘子	克武工秋智記清	庭場浦島田田	坂馬田小柴下前	昭和50年度	造子彦子	兄静良陽	田川	藤森森桂	正子子子一子	正隆マキ世正英智	野馬沢本木沢副	大有小山荒黒宮
昭和57年度	子夫徳	基幹清	田田	下織前	郎雅秋子	謙克利工美和	隅庭下浦口下川	大坂山田原松佐	昭和51年度	子昭子	静信ル	川戸	森瀬森	子子子美子子子	善和智和工扶ヤ	島道副野浦田口	児山宮大田芝山
昭和58年度	子美子	静幹寿昭	川田原	森織佐林	一澄子好子雅子	健秋和智明克紗	島島下井藤庭田	小小松酒齐坂下	昭和52年度	士子子子子子美	与隆エルヤ明和	忠隆エルヤ明和	峰馬浦口藤野	小有田森山齐大	小有田森山齐大	小有田森山齐大	小有田森山齐大
昭和59年度	宏子子澄明子	明玲秋裕洋	永藤田島中川	杉齐松小田江	子子子子雅一彦	昭佳あ和克健一	田野井川庭島田	林星酒佐坂小横	昭和53年度	士子子子子子美	与隆エルヤ明和	忠隆エルヤ明和	峰馬浦口藤野	小有田森山齐大	小有田森山齐大	小有田森山齐大	小有田森山齐大
昭和60年度	世幸肇子	光勝律	訪江本峰	諏入橋島	好美彦成一子	智清一勝秀む城	井岡田木藤永多	酒吉横高佐池本	昭和54年度	子雄光	愛寿兼	戸崎田	瀬松本	子子子子子正	隆工美二洋晓勝	馬浦口田野村本	有田原吉藤中松

年度	部	報	広
昭和43年度	原藤島田田野本	猪伊大上浜重山	
昭和44年度	原藤島田田橋	猪伊大上浜多石	
昭和45年度	原島川島崎崎本	萩竹古大宮江楨	
昭和46年度	原島川島崎崎本	萩大木大	
昭和47年度	太西登中松松森		
昭和48年度	柴大児隈木荒広		

年度	昭和 61 年 度			
広 報 部	酒吉 横松 野小 多内 尾山 小迎 多	井岡 田島 田川 田上 島崎 田	智清 一利 カ彰 佳春 君幹 幸美	好美 彦彦 寛ミ 次子 美子 子八 枝

昭和 62 年 度	
昭香 信子 よ糸 え枝 子子 延良 子子	二 き 美 美
峰英 義九 す小 と好 律由 起益 浩由	美
永江 野村 本田 元木 多瀬 山中 村尾	
友入 平中 坂前 鍋高 本廣 片田 元松	

昭和 63 年 度	
徳子 良子 子子 子明 雄子 香之	ず 美 美 美
清す 益由 弘由 康裕 拓久 豊敏	美
田田 中尾 瀬口 中川 田井 田	
前上 田松 西廣 谷田 伯藤 古園	



特集号

編集後記

現在、私達は子ども達のすこやかな成長を願いその活動を行って行くわけですが、現在に至るまでは、多くの先輩の方達の手によって築かれたものを忘れてはなりません。

昭和三十七年の第一回育友会報の創刊以来、その活動の歩みが文章や写真として「がんば」に記載してあります。

百号という記念の節目を迎え、その文章や写真を皆様に見て頂き、二十七年間の三小の歴史を知ってもらいたいというのがこの特集号の主旨です。

発行にあたりましては、内容の検討が遅かったために皆様にはあわただしい思いをされた事と思います。にもかかわらず、特集号の主旨に御賛同頂き、バザーという非常に大きな協力のもと資金を調達して頂き、発行する事ができました。広報部一同厚くお礼申し上げます。

特集号の作成につきましては、広報部特有の家族的な雰

囲気で冊子づくりに取り組んだわけですけど、なにしろ不慣れなもので、文字とにらめっこをする日もしばしばありました。でも、世の中にこういう素人集団で手がけた冊子が一冊ぐらいあってもいいのではないか、という変な自信を心の支えとして作業が進み、出来上がりました。

ご覧になって如何だったでしょうか。それぞれの価値感や見方で、ご意見・ご不満な点があると思いますが、そこは三小を愛する同じ仲間として寛大な気持ちでご覧になって頂きたいと思えます。

最後に、広範囲にわたるOBの皆様や、取材に奔走された下田文俊先生、沢山の資料を自宅の文庫から提出して下さいました山本篤五郎さん、ご協力本当に有難うございました。

今後益々の「がんば」の発展をお祈り致します。

〔広報部〕

島原市立第三小学校
育友会報
発行部
広報部

がんば



完走をめざして

校内マラソン大会



一年三組

もり ゆうき

マラソン大かいたときは、とてもがんばったけど、64ぼんでした。でも、おとうさんおかあさんから、ほめられました。そのまえに、あさとよるに、おとうさんと、れんしゅうをしました。とてもきつかったです。たまには、おとうさんからおこられたりもしました。でも、げつぼになるのはいやだったの、いっしょうけんめいれんしゅうしました。二年生になったら、もつとはやくはしれるようにがんばります。

二年二組

伊坂 望

私は、うんどうじょうを走る時、リレーのようにとばしてトップにいました。おかあさんが、「のぞみちゃんがんばって」とおうえんしてくれた。ゴールでは、息がくるしくハールなつた。目も足もふらふらしてころびそうになった。家に帰って、おかあさんが「すごいね、がんばったね」と言った。私が、「もう少しがんばればよかった」と言ったが、おかあさんは、「もう七番でじゅう分よ」と言った。私はよかったです。

三年三組

本多 香月

朝からたいへんあたたかい

特約記者の作成に付きましては、広報部特有の家族的な雰囲気です。

原をお祈り致します。

(広報部)

天気でした。校内マラソン大会があったので、ぼくはいっしょうけんめい走りました。とちゅうできつくなりましたが、まけるものかがんばりました。みんなも、いっしょうけんめいに走っていました。ぼくは、がんばったかいがあつて二位に入りました。ぼくは、二位に入つてうれしいです。ぼくは、さいしょおそかつたけど、ラストスパートで一人ぬいて二位になりました。

四年三組

西崎 千代生

去年のマラソン大会で、ぼくは運動場を三周回らなければならぬのに、二周しか回らなかったの、白山町にでたところでひきかえし、もう一周回りなおさなければならぬ。結果は十一位で、くやしい思いをした。今年もと中まであまりぬけなかつた。給食室のところまでぬき、一位になった。

五年二組

友永 ゆり

五・六年生の校内マラソンは、二時からでした。最初は五年の女子で、あまりどきどきしませんでした。ピストルがなつて走りだしました。わたしは最初からとばしました。

六年一組

熊本 純子

運動場の三周目からきつくなりました。白山町を走る時、六年生が立つて応えんしてくれました。わたしは、人が応えんしてくれると、スピードがあがるのです。六年生が応えんしてくれたのでうれしかったです。白山町をすぎて運動場を一周半走りました。その時はとてもきつかったです。そして、ゴールにつくとタイムが七分二十三秒で、わたしが思っていたよりよかつたのでうれしかったです。

一月初めに、マラソン大会があるということを知った。私はマラソンが苦手だ。でも自分なりに努力して、三十日にはいりたいと思つた。毎日家の前の四百メートルぐらいの所を七周走つた。とてもつらい日があつた。でも、自分の心に「がまん」といってあげました。いよいよマラソン大会。白山を走りおえ、運動場へ入つてくると、母の声が開こえた。ゴールした。ゴールしたすぐは、順位より走りおえたという満足感が先に立つた。心の底からあつてものがこみあげてきた。去年よりも十八番上がり、十五位以内に入れた。マラソン大会をおえて努力の大切さを知り、これから何ことも努力してやりにけていきたいと思う。

専門部の反省

教養部長
荒木 修

六十三年度の教養部長として任命されたときは、はたして教養部長としての責務を果たせるかどうか不安でいっぱいでした。ただ、私を決心させたのは子供の為、学校の為、育友会活動の為と思つて一年間頑張つてみようと思ひました。

教養部としての年間活動計画は二つあり、ひとつは研修視察、もうひとつは教育講演会と、そのつど各方面の方々のお力をお借りして、若干の反省はあったものの無事やつてこれたと思つております。その節は本当にお世話になりました。心からお礼申し上げます。

次年度の部長さんがどなたに任命されるかわかりませんが、やはり子供達の為、学校の為、育友会活動の為と思つて頑張つて頂きたいと思ひます。

今回のがんばん百号の作成にあたり、広報部長さんをはじめ、スタッフのみなさん本当におつかれさまでした。二百

号、三百号めざしてがんばんつて頂きたいと思ひます。

学級部長
相良 耕作

一年が過ぎるのが早く、先日年間計画を出したと思うともしめくりの時期がやつて来ました。今年は、念願の「父親参観」が大成功に終え、父親参観に始まり父親参観に終つたと言つても過言ではないと思ひ、校長先生の偉大さを改めて思ひおこします。

歴代の校長先生方が出来なかつた「日曜日の父親参観」を、伊藤校長先生が色々な御苦労があつたとは思ひますが、いとも簡単にさりげなく決断され実行された。第三小学校の百有余年の歴史の中でも、特にあげる事の出来る重大事業ではなかつたかと思ひます。

此れを受けて、育友会の方も偉大な松尾会長、熊本副会長の実行委員長としての名コンビで、色々な当日の企画立案から実行・反省まで素晴らしい流れの進め方ではなかつたかと改めて感激をし、今年一年皆様方御協力に感謝して

一年のしめくりとしたいと思ひます。

生活部長
川口 克 樹

生活部では、年間行事を次のように計画して実施してまいりました。

六月に生活標語募集、素晴らしい作品を町内へ配布し、みなさんに見てもらいました。町内の中には、張る場所がない等困つておられる町内もあられたので、各町内に掲示板があれば大変便利ではないかと思ひました。

七月二十七日より八月六日まで町内訪問を進めて行きました。各町内で色々な話し合いがなされ、解答できる問題は校長先生、各先生、会長さんに答えてもらいました。町内訪問は、学校と育友会員と直接話しができるので、大変意義ある行事の一つではないかと思ひます。

十二月末の冬休み校外補導については、年末で忙しいのでなかなかできないような気がしました。三月最後の行事初市巡視では、子供達もうかがいがちになりますので、非行等ないように見守つていきます。以上生活部の大まかな行事

内容でした。

一年間無事やつてこれたのも、先生方の御理解のおかげと大変感謝しております。会員各位様本当に一年間御協力ありがとうございました。

体育部長
友 永 峰 昭

今や七十歳になろうとする先輩曰く、「三小は、わかしゃ運動は何でん強かつた」。三小の昔を私は知りません。でも何事でも盛んな地域は、まず頑張る子供がいて、情熱的な指導者がいて、そしてそれを支援する親がいる。それぞれの役割の中で、連帯感が生まれているところが多いようです。皆様の町内では如何でしたでしょうか。

今年度の体育行事は、次のとおりでした。五月二十九日春季大運動会、七月二十四日校内球技大会、九月十一日相撲大会及び親子フットベースボール大会、十月三十日育友会パレードボール大会。

この一年、多数の方の参加のうちに行事が終りました。しかも子供達は、市内の大会でも球技や格技等多方面に亘り大活躍の年だったようです。各種目の指導員はじめ、会員の皆様、学校の先生方、御

協力ありがとうございました。

交通部長
平 野 義 信

早いもので交通部の担当となり、さしたる行事も行わないまま一年が過ぎ、担当怠慢と反省してまいります。幸い、たいした事故もなく安心して居るところですが、たまに子供達が道路で遊んでいるとき、その無謀さに肝を冷やすこともありました。

不慮の事故はともかく、当然起こるべくして起きた事は未然に防ぐことが出来ます。事故に遭う前に、各家庭で十分話し合うことも大事ではないでしょうか。

教育は、知育、徳育、体育と言われ、その即効薬はないと思ひますが、交通に関する教育は、この徳育に属するものであり、また、私達大人の努めだと思ひます。

環境部長
本 多 敏 憲

昨年六月のプール周辺の除草作業には、たくさんの方々の御協力、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

今回のがんば百号の作成にあたり、広報部長さんをはじめ、スタッフのみなさん本当におつかれさまでした。二百

案から実行・反省まで素晴らしい流れの進め方ではなかったかと改めて感激をし、今年一年皆様方御協力に感謝して

は、子供達もうかれがちになりますので、非行等ないように見守っていきます。以上生活部の大まかな行事

でも球技や格技等多方面に亘り大活躍の年だったようです。各種目の指導員はじめ、会員の皆様、学校の先生方、御

の御協力、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

給食部長

近藤 美代子

今年度の保健給食部の主な行事活動は、次の通りです。六月二十九日学校給食試食会、十一月十四日学校給食調理研修会、二月四日から三月六日黒板用カーテン作り。本年度は、例年の活動に加えて、一年生の給食に夢を与えて楽しく食べて貰おうと、黒板に素敵カーテンを引いて食べる様に、給食部全員による心のこもったカーテン作りを計画し、作製しました。布ぎれ等各自持ち寄って、夜遅く迄かわいいうツブリケ等付けました。子供達が楽しい給食時を過ごしてくれたらと願っています。

学校給食調理研修会も行なりましたが、とても盛会に終りました。この一年間、御協力下さいました皆様へお礼申し上げます。

卒業生の作文

六年一組

吉岡 真由美

「卒業」この言葉をきくと、六年間の苦勞や楽しかったことを思い出します。今、卒業という、いわば、大人になる

階段を目の前に、一段一段ていねいにのぼっていきたくて。中学生になったら、いろいろなんかんがまちうけていられるけれど、むりをせすにがんばっていきたくてです。この気持ち、私だけでなく、六年生みんながおもっていることだと思います。なんにでもちようせんして、ファイトでいきます。

六年二組

安永 佳代

卒業式を前にして、私は二

さよなら三小

つの気持ちがあります。一つは、「本当に卒業するのかなあ。卒業して中学に行くのかなあ。」という信じていない気持ちで、二つめは、「やっとな卒業かあ。」と安心の反面、あわただし

い気持ちです。私に今、二つの気持ちがあるって、すごく緊張しています。卒業式まであと〇日、最後の日までいっしょうけんめいがんばろうと思います。



六年三組

本多 ユキ

六年間、私たちが通ってきたこの第三小学校とも、そして先生たちとも別れてしまうときがきてしまった。

今までの思い出がたくさんこみ上がってくる。小学校で初めての入学式、きんちようの中でおこなわれました。そして、もうすぐ小学校との別れを告げる卒業式がおこなわれる。短いようで、長いような六年間だったけれど、思い出をなくさないように、私は

その思い出を、大切に心の中にしまっておきます。

六年四組

小川 ナナ

六年前、私は胸をときめかせながら、三小に入学しました。それから六年間、色々なことがありました。楽しかった運動会、宿泊訓練、修学旅行などさまざまなことや、好きな科目やきらいな科目の勉強がありました。先生に逆ったこともありました。学校へ行くのがいやだったたり、学校

十六年間のお礼

六年 P 古井 豊 香

十六年前に長男がこの輝かしい伝統を誇る第三小学校に入学してより、このたび末の息子の卒業にあたりまして、この学校とお別れと思えば一抹の淋しさを感じている昨今でございます。

新入学に胸はずませ、小さい背に大きなランドセルを背おって登校しておりましたのに……今では、田中先生諸先生の立派なご指導で、何事にもチャレンジし創造力豊かな、そして又、思いやりのある子供に成長する事が出来ました。

小学校での色々な出来事、自然の家での貴重な体験等、子供達の思い出のページとしていつ迄も深く心に残る事でしょう。知性あふれる広報部の皆様のお仲間に入れて頂き、有意義な一年でした。

先生、PTAの役員会員の皆様、十六年もの長い間あたたかくご指導下さいましてありがとうございます。第

ありがとう

三小さん

六年 P 入江 英 香

三小学校の益々のご発展とご繁栄を心より祈念申し上げます。ありがとうございます。五十八年二月(六年前)市から梅の苗木を戴き、子どもが四月の入学に小さな胸をふくらませたのは、つい最近のことと思えますが、今や卒業生の父母の一人です。

「親になることはやさしいが、親であることは難しい。」と聞いたことがあります。子どもと共に成長するには? 「子育て時代に楽しませてもらったのが親孝行だと思ってるよ。」との母の言葉に教えられ、PTAには極力出席を心がけて参りました。

育友会活動の出会いの糸により、多くの方々と知り合い、学ぶことが出来たこと、そして子どもと共に、主人と二人三脚の親業成長の時期であったことを嬉しく思います。

三小とはお別れですが、バザーでがんばった「がんば一〇〇号記念特集号」発行を心からお祝い申し上げます。三小育友会のご発展をお祈りします。

卒業に

あたって

六年 P

佐々川 和子

胸をふくらませて三小の門を娘と二人でくぐったのが、昨日のこの様に思い出されず。早いものでもう三小ともお別れです。二人の子供も三小を巣立ってこれで最後かと思うと感慨無量です。我が子が六年間の小学生生活を楽しく過ごせましたのも、先生方の暖かい御指導と育友会の様々な活動を体験させていただいた皆様のご苦労の賜と厚く感謝いたします。

今、想いめぐらしてみますと、私自身も役員をさせていただいたり、子供を通じて多くの方と知りあえたりして、子供と共に歩むことが出来、充実した時期だったと思えます。娘が大人になってみきつと三小の全てのが、楽しいなつかしい思い出として、心に残ることだと思えます。最後にになりましたが、先生方、育友会の皆さん本当に有難うご座居ました。三小と育友会が益々充実し発展します

様心からお祈りいたします。

さようなら

三小育友会

六年 P

佐久間 ガクジ

「光陰矢のごとし」と申しますが、歳月の流れは早いもので、長女が三小に入学したのが十五年前、今年三月には末娘の卒業を迎えることになりました。

この間育友会活動の中で、多くの先生方やご父兄の皆様方と接することができましたことは、私にとりましても大変意義深いことでした。

いま思い返して一番印象に残っているのは、ちょうど十年前の校舎火災のことです。

火災の翌日から古い机や椅子の修理や清掃、特別教室の模様替え、また新校舎落成時の祝賀バザー、土俵作りなど、先生と父母の協力体制のすばらしさを身にしみて感じました。

思い出多い三小育友会を卒業するのは、大変さみしい思いです。本当に長い間お世話になりました。

三小育友会の発展と活躍を

心からお祈りいたします。

心に残る

土俵開き

六年 P

熊本 勇 治

私の長男が小学校に入学してまる十年がたちました。育友会をふりかえってみますと、最初役員で参加した時の会長が前山さんでした。校舎の火災、その後のバザー、そのバザーの資金で三小の相撲建設

土俵開きでは、「吉田司家」より行事さんが出席して行なわれました。その翌年、八月に前山さんが亡くなりました。

その時、前山家より育友会へお金をいただき、その金が今の相撲大会の優勝カップの資金となり、第一回校内相撲大会をはじめました。その後は環境部、交通部、教養部と仕事をさせていただきました。

去年十一月の父母参観の日曜日開催が校長先生をはじめ、各先生方の協力によりまして、育友会では長年の懸案でありましたこの行事が実行でき、よろこんでおります。

三小の土俵がどうしてでき、相撲大会がなぜはじまったか

を後々までも知っていたらいいなと思います。たいへん育友会にお世話になりました。ありがとうございました。



バザー開催

「みんなで読むのはみんなの手で」のスローガンのもと、「がんば」百号記念特集号の資金づくりを目的としたバザーが、二月二十六日に開催されました。

前日の雨も上がり好天気に恵まれ、開店三十分前には長い列ができ、会場の体育館内は、「いらっしやいませ」あり

がとうございました」の係の人の元気な声の飛び交う中、十一時にはほとんどの商品が売れてしまう大盛況ぶりでした。(広報部)

編集後記

梅の花は散り、桜のつぼみがふくらんできた今日この頃、六十三年度最後の「がんば」一〇〇号をお届け致します。

一〇〇号は、記念号と一緒に冊子に発行致しました。今回は、主に各専門部の一年間の反省と卒業をテーマに編集しております。

都合により、あの町・この町のシリーズで、全町内紹介できなかったことをお詫びします。皆様に、うまい、おいしい「がんば」を読んで頂くうと思いが、一年が過ぎてしまおうとしております。なかなかおもしろい「がんば」とは言えませんでした、年度初めの計画通り発行することが出来ました。又、御多忙中にもかかわらず、原稿をお寄せ下さった方々、ありがとうございました。

今後共御協力をお願い致します。